

石川県鹿島郡鹿島町
水白モンシヨ遺跡

1989

石川県立埋蔵文化財センター

石川県鹿島郡鹿島町
水白モンシヨ遺跡

1989

石川県立埋蔵文化財センター



1. コロバシ出土状況1 (南東より)



2. コロバシ出土状況2 (南西より)



1. 調査風景1（南西より）



2. 調査風景2（北東より）



1. 航空写真1 (西より)



2. 航空写真2 (南西より)



1. 航空写真3 (南西より)



2. 航空写真4 (北東より)

例 言

1. 本書は、一般国道159号鹿島バイパス改築工事に係る水白モシ^{ホシ}遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の実施にあたっては、建設省金沢工事事務所・鹿島町教育委員会の協力を受けた。
3. 本遺跡の遺構実測図・出土遺物・遺物実測図・写真・調査日誌などの記録保存資料は、当センターに一括して保管されており、再活用に使ならしめている。
4. 挿図中で指示した方位はすべて真北である。また、断面図の水準線や平面図に付した数字はすべて標高であり、単位はメートルである。
5. 写真図版に付した番号は挿図の番号に一致する。遺物写真の縮尺は、明記したものの以外は不同である。
6. 本書の作成にあたっては、つぎの各位よりご教示・ご協力をいただいた。ご芳名を記して深甚の謝意を表したい。

栗村知弘（八戸市博物館） 木下 忠（愛知大学教養部） 鈴木三男（金沢大学教養部） 成田 敏（青森県立郷土館） 能城修一（大阪市立大学理学部） 古里 淳（八戸市博物館） 南木陸彦（流通科学大学）
渡辺 誠（名古屋大学文学部） 青森県立郷土館 八戸市博物館

また、垣内光次郎氏をはじめとし、当センター職員にも教示・協力をいただいた。

7. 本報告書の執筆分担は、つぎのとおりである。（ ）内は所属名である。

鈴木三男（金沢大学教養部）・能城修一（大阪市立大学理学部）……第6章
南木陸彦（流通科学大学）……………第7・9章
渡辺 誠（名古屋大学文学部）……………第8章
北野博司（石川県立埋蔵文化財センター）……………第4章の一部、第5章第2・3節
久田正弘（石川県立埋蔵文化財センター）……………第5章第1節
山本直人（石川県立埋蔵文化財センター）……………第1～4章、第5章第4節

8. 本書は、山本直人が編集した。

目 次

例 言	i
目 次	ii
第1章 遺跡の位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の契機と経過	6
第1節 調査の契機と試掘調査	6
第2節 発掘調査の概要と経過	6
第3章 層 序	9
第4章 遺 構	10
第5章 包含層出土遺物	69
第1節 弥生時代の遺物	69
第2節 古墳時代の遺物	71
第3節 古代の遺物	77
第4節 中世の遺物	88
第6章 水白モンシヨ遺跡出土木製品の樹種	102
第7章 水白モンシヨ遺跡の大型植物化石	114
第8章 水白モンシヨ遺跡出土の農具・コロボンについて	119
第9章 久江・サザミヤンキ遺跡の大型植物化石 および石川県中世遺跡の大型植物化石の比較	125

表 目 次

第1表 水白モンシヨ遺跡と周辺遺跡一覧表	2
第2表 遺構出土中世上器観察表	12
第3表 柱穴出土柱痕・礎板観察表	14
第4表 遺構出土木製品観察表	16
第5表 漆器観察表	17
第6表 包含出土土器観察表	79
第7表 包含層出土中世上器観察表	88
第8表 水白モンシヨ遺跡出土木製品の樹種一覧	106
第9表 水白モンシヨ遺跡出土木製品の樹種別一覧	109
第10表 水白モンシヨ遺跡出土木材の樹種と用途	113
第11表 水白モンシヨ遺跡から産出した大型植物化石の一覧表	118
第12表 久江・サザミヤンキ遺跡から産出した大型植物化石の一覧表	128
第13表 石川県の中世の遺跡から産出した大型植物化石の一覧表	128

図版目次

- 巻首図版 1 1. コロバシ出土状況 1
2. コロバシ出土状況 2
- 巻首図版 2 1. 調査風景 1
2. 調査風景 2
- 巻首図版 3 1. 航空写真 1
2. 航空写真 2
- 巻首図版 4 1. 航空写真 3
2. 航空写真 4
- 図版 1 航空垂直写真 1
- 図版 2 航空垂直写真 2
- 図版 3 航空垂直写真 3
- 図版 4 航空垂直写真 4
- 図版 5 航空垂直写真 5
- 図版 6 1. 遺跡遠景 1
2. 遺跡遠景 2
- 図版 7 1. 調査風景 3
2. 調査風景 4
- 図版 8 1. 調査風景 5
2. 調査風景 6
- 図版 9 1. 第 1 号竪穴調査風景
2. 第 20 号溝調査風景
- 図版 10 1. 8～11Y 区完掘状況 1
2. 8～11Y 区完掘状況 2
- 図版 11 1. 8～11Y 区完掘状況 3
2. 14～15Y 区完掘状況
- 図版 12 1. 掘立柱式建物 1
2. 掘立柱式建物 2
- 図版 13 1. 2 X 14Y 区西壁
2. 3 X 12Y 区東壁
- 図版 14 1. コロバシ出土状況 3
2. コロバシ出土状況 4
- 図版 15 1. コロバシ出土状況 5
2. コロバシ出土状況 6
- 図版 16 1. コロバシ出土状況 7
2. コロバシ出土状況 8
- 図版 17 1. 第 1 号竪穴
2. 第 1 号竪穴層序

- 图版18 1. 柱穴1礎板出土狀況
2. 柱穴2礎板出土狀況
- 图版19 1. 柱穴3礎板出土狀況
2. 柱穴4礎板出土狀況
- 图版20 1. 柱穴7礎板出土狀況
2. 柱穴25礎板出土狀況
- 图版21 1. 柱穴21礎板出土狀況
2. 柱穴12礎板出土狀況
- 图版22 1. 柱穴22柱痕・礎板出土狀況
2. 柱穴29柱痕・礎板出土狀況
- 图版23 1. 柱穴8礎板出土狀況
2. 柱穴12礎板出土狀況
- 图版24 1. 柱穴6礎板出土狀況
2. 柱穴31柱痕出土狀況
- 图版25 1. 柱穴32柱痕出土狀況
2. 柱穴33柱痕出土狀況
- 图版26 1. 第102号土坑
2. 第6号土坑漆器匱出土狀況
- 图版27 1. 第1号土坑
2. 第3号土坑
- 图版28 1. 第5号土坑
2. 第6号土坑
- 图版29 遺構出土土器1
- 图版30 遺構出土土器2
- 图版31 包含層出土土器1
- 图版32 遺構・包含層出土土器
- 图版33 包含層出土土器2
- 图版34 包含層出土土器3
- 图版35 包含層出土土器4
- 图版36 包含層出土土器5
- 图版37 包含層出土土器6
- 图版38 包含層出土土器7
- 图版39 包含層出土土器8
- 图版40 包含層出土土器9
- 图版41 包含層出土土器10
- 图版42 包含層出土土器11
- 图版43 柱痕・礎板1
- 图版44 柱痕・礎板2
- 图版45 柱痕・礎板3
- 图版46 柱痕・礎板4

図版47	柱痕・礎板 5
図版48	柱痕・礎板 6
図版49	柱痕・礎板・石製品・天聖元寶
図版50	木製品 1
図版51	木製品 2
図版52	木製品 3
図版53	木製品 4
図版54	樹種同定顕微鏡写真 1
図版55	樹種同定顕微鏡写真 2
図版56	樹種同定顕微鏡写真 3
図版57	樹種同定顕微鏡写真 4
図版58	樹種同定顕微鏡写真 5
図版59	樹種同定顕微鏡写真 6
図版60	水白モンショ遺跡の大型植物化石 1
図版61	水白モンショ遺跡の大型植物化石 2
図版62	1. 沖縄館のクルバチャー 1 2. 沖縄館のクルバチャー 2 3. 沖縄館のクルバチャー 3
図版63	1. 沖縄県立博物館のクルバチャー 1 2. 沖縄県立博物館のクルバチャー 2 3. 沖縄県立博物館のクルバチャー 3
図版64	1. 沖縄県立博物館のクルバチャー 4 2. 沖縄県立博物館のクルバチャー 5 3. 青森県のゴロ
図版65	久江サザミヤシキ遺跡の大型植物化石

挿 図 目 次

第1図	水白モンシヨ遺跡の位置図	1
第2図	水白モンシヨ遺跡と周辺遺跡分布図1	3
第3図	水白モンシヨ遺跡と周辺遺跡分布図2	4
第4図	水白モンシヨ遺跡と周辺遺跡分布図3	5
第5図	調査グリッド設定図	8
第6図	層序断面実測図	9
第7図	遺構全体図1	18
第8図	遺構全体図2	19
第9図	遺構図1	20
第10図	遺構図2	21
第11図	遺構図3	22
第12図	遺構図4	23
第13図	遺構図5	24
第14図	遺構図6	25
第15図	遺構図7	26
第16図	遺構図8	27
第17図	遺構図9	28
第18図	遺構図10	29
第19図	遺構図11	30
第20図	遺構図12	31
第21図	遺構図13	32
第22図	遺構図14	33
第23図	遺構図15	34
第24図	遺構図16	35
第25図	掘立柱式建物配置図1	36
第26図	掘立柱式建物配置図2	37
第27図	第1号掘立柱式建物実測図	38
第28図	第2～4号掘立柱式建物実測図	39
第29図	第5号掘立柱式建物実測図	40
第30図	第7・9号掘立柱式建物実測図	41
第31図	第6・8号掘立柱式建物実測図	42
第32図	第101号土坑実測図	42
第33図	第1号竅穴実測図	42
第34図	遺構山土土器実測図	43
第35図	土坑・竅穴出土土器実測図	44
第36図	溝・ピット出土土器実測図	45
第37図	柱穴1出土柱痕・礎板実測図	46
第38図	柱穴1・2出土柱痕・礎板実測図	47

第39図	柱穴4・5出土柱痕・礎板実測図	48
第40図	柱穴3・6・24出土柱痕・礎板実測図柱痕・礎板実測図	49
第41図	柱穴6出土礎板実測図	50
第42図	柱穴7～9出土礎板実測図	51
第43図	柱穴10出土礎板実測図	52
第44図	柱穴11～13出土礎板実測図	53
第45図	柱穴14～17出土柱痕・礎板実測図	54
第46図	柱穴18～20出土礎板実測図	55
第47図	柱穴21～23出土柱痕・礎板実測図	56
第48図	柱穴22出土柱痕・礎板実測図	57
第49図	柱穴25～27出土柱痕・礎板実測図	58
第50図	柱穴28～30出土柱痕・礎板実測図	59
第51図	第101号土坑出土木製品実測図1	61
第52図	第101号土坑出土木製品実測図2	60
第53図	第101号土坑出土木製品実測図3	63
第54図	第101号土坑出土木製品実測図4	64
第55図	第101号土坑出土木製品実測図5	65
第56図	漆器・第101号土坑出土木製品実測図	66
第57図	第102号土坑・第1号溝・第20号溝出土木製品実測図	67
第58図	第1号竪穴出土木製品実測図	68
第59図	包含層出土土器実測図1	70
第60図	包含層出土土器実測図2	81
第61図	包含層出土土器実測図3	82
第62図	包含層出土土器実測図4	83
第63図	包含層出土土器実測図5	84
第64図	包含層出土土器実測図6	85
第65図	包含層出土土器実測図7	86
第66図	包含層出土土器実測図8	87
第67図	2 X 9 Y区包含層出土土器実測図	92
第68図	2 X 10 Y区包含層出土土器実測図	93
第69図	包含層出土土器実測図9	94
第70図	珠洲実測図1	95
第71図	珠洲実測図2	96
第72図	珠洲実測図3	97
第73図	珠洲実測図4	98
第74図	珠洲実測図5	99
第75図	珠洲実測図6	100
第76図	越前実測図	101
第77図	石製品・大型元寶実測図	101
第78図	コロボシ・クルバシヤ実測図	120

第79図	『奥民図彙』のマルヒキ	122
第80図	『農政全書』の礎礎	122
第81図	資料の関連	122

第1章 遺跡の位置と環境

(第1表、第1～4図)

第1節 地理的環境

鹿島町は能登半島のつけ根部に位置し、その東縁は富山県との県境になっている(第1図)。町域は邑知地溝帯にそって南北10km、東西4～8kmにおよび、地形は石動山系の山地と邑知地溝帯の平野部に大きく分けられる。邑知地溝帯は羽咋市から七尾市にかけて走る大きな地溝帯で、その規模は長さ10km、幅3km前後を測る。この地溝帯の平野部は石動山系から流れだした中小河川によって形成された小扇状地がいくつも連なって成り立っている。したがって、地溝帯自体は一樣に平坦な平野ではなく、鹿島町から鹿西町に向ってゆるく傾斜しており、その比高差は場所によってもちがうもののおよそ20mぐらいとなっている。

水白モンシロ遺跡は、鹿島郡鹿島町小竹・尾崎地内に所在し、小竹川や井田川が作りあげた小扇状地の扇端部に立地する。標高は24～26mを測り、伏流水の湧水が著しい地域である。



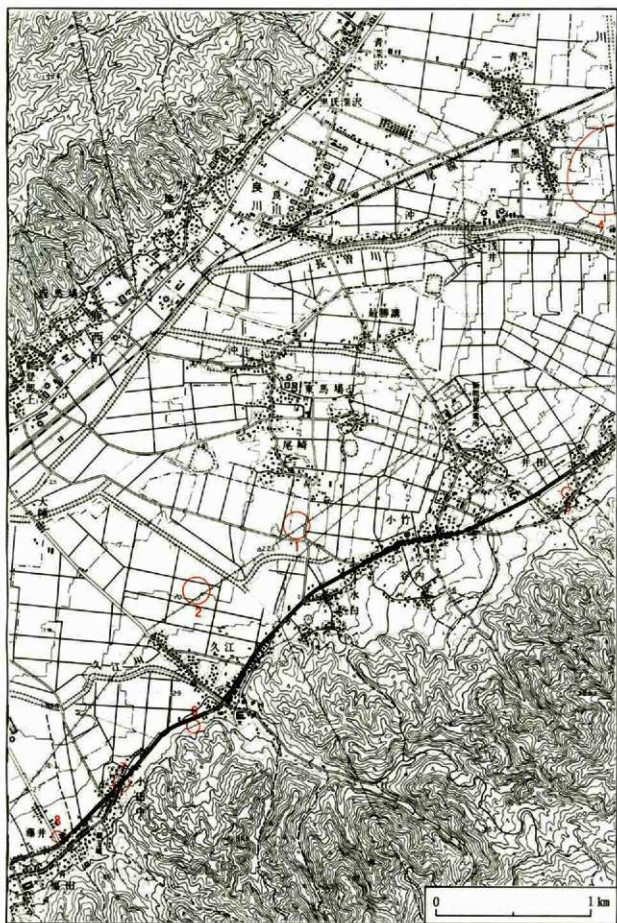
第1図 水白モンシロ遺跡(●印)の位置図

第2節 歴史的環境

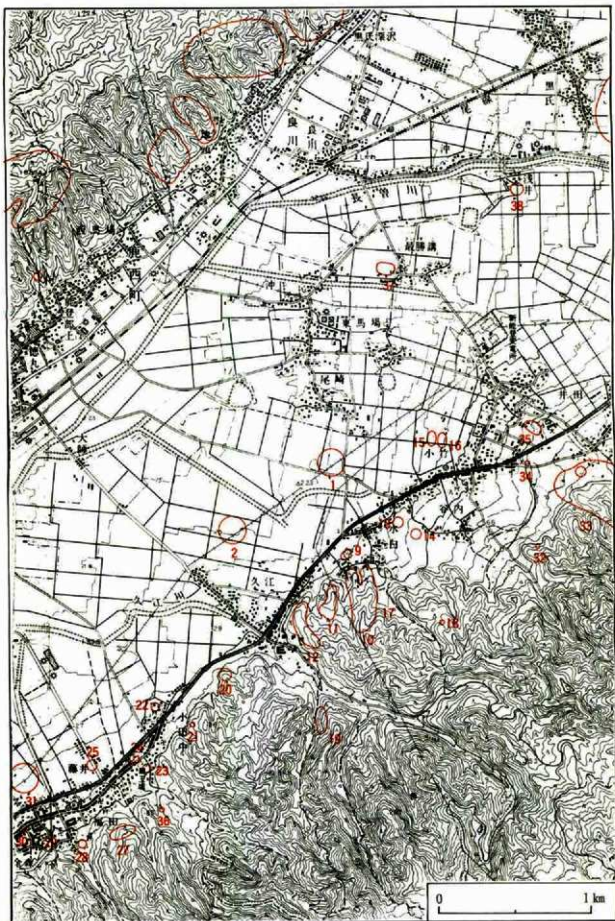
水白モンシロ遺跡と周辺の遺跡についてまとめたものが、第1表と第2～4図である。遺跡分布図では、弥生時代・古墳時代・中世の3時期に分けて表してある。

第1表 水白モンシ遺跡と周辺遺跡一覧表

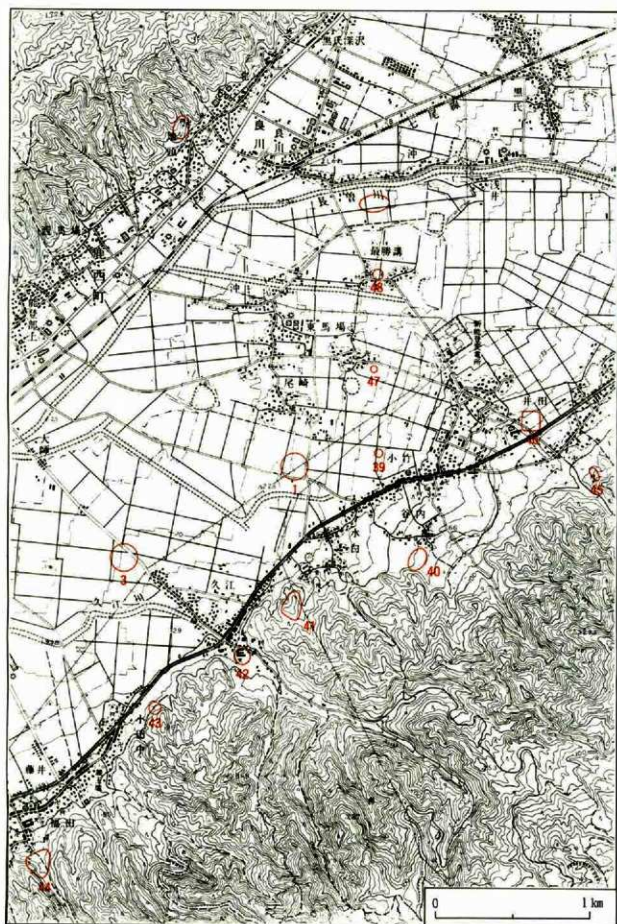
番号	県番号	遺跡名	所在地	種別	立地・現況	時代	主な出土遺物
1	—	水白モンシ遺跡	鹿島町小竹・尾崎	集落跡	水田	弥生～古墳、中世	コロバン、珠洲
2	—	久江ツカノコシ遺跡	鹿島町久江	集落跡	水田	弥生～古墳	弥生土器、土師器
3	—	久江サザミヤシキ遺跡	鹿島町久江	集落跡	水田	平安～鎌倉	珠洲、木簡
4	2670	徳前C遺跡	鹿島町徳前・ 高屋町黒尻	集落跡	平地・水田・池水	縄文、弥生、古墳、 奈良、中世	縄文土器、弥生土 器、土師器、須恵器
5	2700	井田B遺跡	鹿島町井田	包含地	平地・水田	弥生～古墳	弥生土器、壺、甕
6	2609	小田中おぼたけ遺跡	鹿島町小田中	包含地	丘陵部・畑地	弥生	埴、壺、石包丁
7	2611	小田中国道B遺跡	鹿島町小田中	包含地	道路	弥生	壺、甕、高杯
8	2603	藤井弥生遺跡	鹿島町藤井	包含地	水田	弥生	壺、甕、高杯
9	2633	水白綱山古墳	鹿島町水白	古墳	丘陵部	古墳	方格規矩鏡、鉄釜
10	6240	水白ミヤヤマ古墳群	鹿島町水白	古墳	丘陵部	古墳	
11	6587	久江ウシロタン古墳群	鹿島町久江・水白	古墳	丘陵部・山林	古墳	
12	6239	久江ウシロヤマ古墳群	鹿島町久江	古墳	丘陵部	古墳	
13	2637	小竹C遺跡	鹿島町小竹	包含地	平地・水田	不詳	磨製石斧
14	2638	小竹がらぼう山古墳	鹿島町小竹	古墳	丘陵部・水田	古墳	
15	2635	小竹A遺跡	鹿島町小竹	包含地	平地・水田	古墳	高杯、埴、壺
16	2636	小竹B遺跡	鹿島町小竹	包含地	平地・水田	不詳	甕、高杯、鏡
17	2632	水白横穴	鹿島町水白	古墳	丘陵部・山林	古墳	
18	2639	小竹横穴	鹿島町小竹	古墳	丘陵部・山林	古墳	
19	2624	久江陣の穴1.2号横穴	鹿島町久江	古墳	丘陵部・山林	古墳	
20	2613	小田中観音堂遺跡	鹿島町小田中	包含地	台地・畑地	古墳	壺、甕、高杯
21	2616	小田中1号横穴	鹿島町小田中	古墳	丘陵部・雑木林	古墳	
22	2617	小田中観音堂遺跡	鹿島町小田中	包含地	台地端・宅地	古墳	甕
23	2614	小田中観音堂古墳	鹿島町小田中	古墳	台地端・雑地	古墳	鏡、鉄石形、菅玉
24	2615	小田中観音堂古墳	鹿島町小田中	古墳	台地端・雑地	古墳	
25	2605	藤井須恵器遺跡	鹿島町藤井	包含地	扇頂部・水田	古墳	有蓋高杯
26	2606	藤井古墳	鹿島町藤井	古墳	段丘・山林	古墳	
27	2607	藤井1-2号横穴	鹿島町藤井	古墳	丘陵部・山林	古墳	
28	2666	福田志魂碑台地遺跡	鹿島町福田	包含地	谷原(台地)	古墳	土器断片
29	2601	高島経塚古墳	鹿島町高島	古墳	扇頂部・宅地	古墳	杯、土師大刀
30	2600	高島稻荷社跡遺跡	鹿島町高島	包含地	扇頂部・畑地	古墳	
31	2598	高島遺跡	鹿島町高島	包含地	扇頂部・水田	古墳	埴、小型丸底埴
32	2640	小竹の陣の穴	鹿島町小竹	古墳	丘陵部・山林	古墳	
33	6592	井田古墳群	鹿島町井田	古墳	山腹・雑木林	古墳	
34	2650	井田堂塚古墳	鹿島町井田	古墳	台地端・水田	古墳	
35	6593	井田岡野山古墳群	鹿島町井田	古墳	丘陵部・墓地	古墳	
36	2649	井田江塚古墳	鹿島町井田	古墳	平地・水田	古墳	
37	2654	最勝講土師遺跡	鹿島町最勝講	包含地	平地・水田	古墳	台付壺、高杯
38	2657	浅井遺跡	鹿島町浅井	包含地	扇頂部・水田	古墳	壺
39	2641	小竹経塚	鹿島町小竹	経塚	台地端・水田	中世	
40	6588	小竹シヤミ堂遺跡	鹿島町小竹	包含地	平地・水田	平安～中世	珠洲
41	2677	麻が塚遺跡	鹿島町久江	塚跡	丘陵部・山林	室町	
42	2620	久江A・C・D遺跡	鹿島町久江	包含地	段丘・校地	縄文、平安、鎌倉	磨製石斧、壺
43	2618	小田中世寺跡	鹿島町小田中	寺院跡	台地・山林	鎌倉、室町	珠洲
44	2602	高島常葉寺遺跡	鹿島町高島	墳墓	丘陵部・畑地・ 山林	鎌倉、室町	灯明皿、珠洲
45	6594	井田熊野神社経塚群	鹿島町井田	経塚	丘陵部・雑木林	中世	珠洲
46	2652	井田中世遺跡	鹿島町井田	墳墓	山腹・畑地	中世	板碑、灯明皿
47	6595	井田中層垣内遺跡	鹿島町井田	包含地	平地・水田	中世	蔵骨器
48	2655	最勝講古瀬戸遺跡	鹿島町最勝講	包含地	平地・水田	鎌倉	古瀬戸



第2図 水白モンシ遺跡と周辺遺跡分布図1
 (弥生時代, 番号は第1表参照, 縮尺 1/25,000)



第3圖 水白モンシ遺跡と周辺遺跡分布図2
 (古墳時代, 番号は第1表参照, 縮尺 1/2,500)



第4図 水白モンシ遺跡と周辺遺跡分布図3
 (中世, 番号は第1表参照, 縮尺 1/25,000)

第2章 調査の契機と経過

(第5図、図版6～9)

第1節 調査の契機と試掘調査

昭和60(1985)年12月、建設省金沢工事事務所より、七尾市八幡町地内および鹿島町小竹～久江地内の一般国道159号鹿島バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財分布調査の依頼があった。これを受けて県立埋蔵文化財センターは、昭和61(1986)年3月10日に試掘調査を実施した。その結果、調査対象区域内で3遺跡が確認され、そのうち水白A・B遺跡が周知の遺跡であり、他は新規に発見された遺跡である。これらについては、工事着手前に発掘調査が必要である旨、建設省金沢工事事務所へ回答した。協議の結果、発掘調査は昭和62(1987)年度に実施することになった。

本遺跡は従来「水白A・B遺跡」と呼称されてきたが、調査地区付近が通称「モンシヨ」(門所?)と呼ばれていることもあり、「水白モンシヨ遺跡」とした。

第2節 発掘調査の概要

1. 発掘調査の概要

遺跡の広がりとして認められた2600㎡を対象に調査した。ただし、農道や水路などの個所は調査時点でも農作業などで使用されていたため、その部分は残したまま調査を進めた。それで、実質調査面積は1400㎡である。

調査グリッドに関しては、調査区全体に10m×10mメッシュのグリッドを設置した(第5図)。路線を横断する方向にX軸をとって1X～3X区を設け、路線の延長方向にY軸をとって1Y～16Y区を設けた。

2. 調査の経過

- 5月8日 調査を開始する。
- 5月11日 仮設事務所を建設する。
- 5月12～22日 8Y～16Y区で重機による表土剥ぎを行う。
- 5月18日 発掘器材を搬入する。
- 5月19日 12Y～16Y区で杭打ち作業を行い、調査グリッドを設定する。
- 5月22日 8Y～12Y区で杭打ち作業を行い、調査グリッドを設定する。
- 5月20日 8Y～16Y区で遺物包含層の掘り下げ・遺構検出の作業工程を順に進めていく。
～6月23日
- 6月23日 8Y～16Y区で遺構を検出しながら、それを掘り下げていく。暫時写真撮影・実測を行う。
～7月14日
- 6月23～26日 第101号上坑の掘り下げ・写真撮影・実測を行う。
- 7月8～10日 5Y～7Y区で重機による表土剥ぎを行う。
- 7月16日 層序断面を実測する。
- 8月10～11日 調査区内を清掃し、12日に航空測量を行う。
- 8月17～18日 柱穴内の柱痕・礎板をとり上げる。

3. 遺物整理作業

本遺跡から出土した遺物の整理作業は、昭和62（1987）年度と昭和63（1988）年度の2か年にわたって（社）石川県埋蔵文化財整理協会に委託して実施した。

昭和62（1987）年度は、遺物の洗浄のみである。

昭和63（1988）年度は、遺物の洗浄・記名・接合・復元・実測・トレースである。主な担当者は、河村裕子・小谷紀美子・新谷由子・村井由紀子の4名である。

4. 調査関係者

試掘調査 平田天秋・西野秀和

発掘調査 山本直人・久田正弘・作田昭雄

（水白）酒井文雄 桜井 操 日光フミ子 日光芳子 水口澄野 水田 清 水田太一

（尾崎）桜井のぶ子 桜井平吉 桜井与一 竹口庄一 福井繁三 福井末子 福井清作 福井弘子
福井利雄

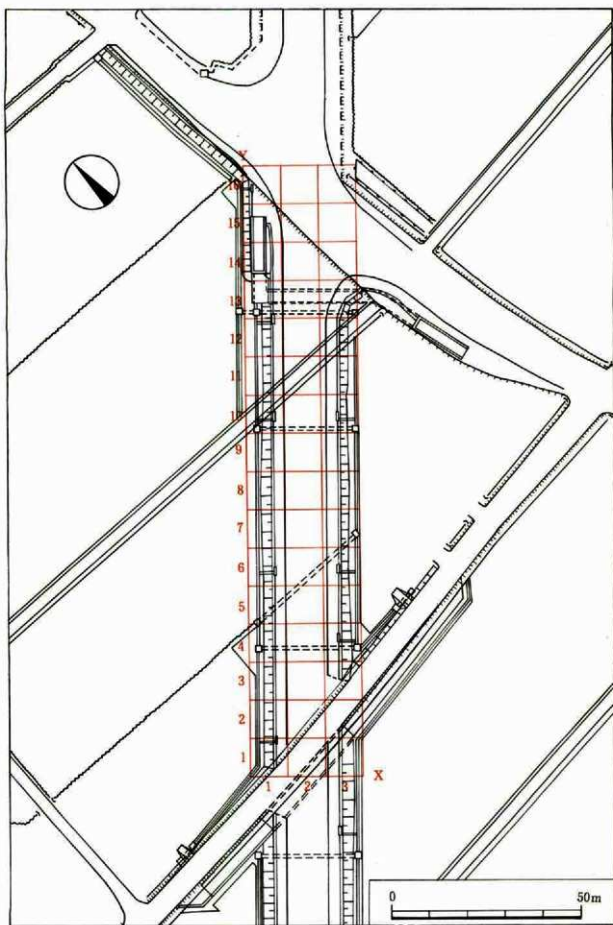
（久江）上田恵美子 大橋とみ子 大湯照子 大湯淑章 河内喜代子 真田美喜子 松木慶子
松木清香

（小竹）多田一郎 古田正治

（小山中）稲邑一郎

（高島）酒井三郎

（志雄町敷設）辻本政一



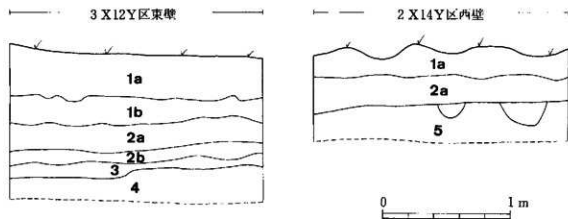
第5図 調査グリッド設定図 (縮尺 1/1,000)

第3章 層序

(第6圖、圖版13)

本遺跡の層序は大きく5層に分けられる。層序の細別はつぎのとおりである。

- 第1 a層 灰褐色砂泥粘質土層 (現耕作土)
- 第1 b層 暗灰褐色砂泥粘質土層
- 第2 a層 暗青灰褐色砂泥粘質土層
- 第2 b層 やや粘性を帯びた暗青灰色砂質土層
- 第3層 青灰色砂層
- 第4層 黒褐色砂泥粘質土層 (遺物包含層)
- 第5層 小円礫・小角礫を含む褐色砂層



第6圖 層序断面実測図 (縮尺 1/30)

第4章 遺 構

(第2～5表、第7～58図、図版1～5、10～32、43～53)

遺構としては、掘立柱式建物・土坑・竅穴・溝・柱穴・ピットなどが確認されている。ここでは、ピット群のうち遺物が出土したものにピット番号をつけている。また、柱痕や礎板を持つものを柱穴とし、建物の柱穴にあることが明らかな場合でもそれを持たないものはピットとしてとり扱った。

1. 掘立柱式建物群 (第25～31図)

掘立柱式建物群のうち、2 X 10 Y区を中心にして第1号掘立柱式建物と第5号掘立柱式建物が検出された。第1号掘立柱式建物は4間×2間以上の総柱建物で、方位はN 9° Eである。この建物で柱痕や礎板を持つ柱穴が8例確認されており、柱穴6・30を除く柱穴6例の礎板の数は1枚であり、柱穴27の柱痕はコシアブラである。第5号掘立柱式建物は4間×2間以上の総柱建物で、方位はN 11° Eである。この建物で柱痕や礎板を持つ柱穴が10例検出されており、柱穴1の柱痕がクリであるのに対して柱穴21・25のそれはスギである。両者ともに時期を決定できるだけの資料は乏しいが、2 X 10 Y区の遺物包含層から出上している土器が時間的に偏在する傾向が認められ、おおむね12世紀中頃～13世紀中頃に位置づけられる。このことを根拠にすれば、これらの建物の時期には12～13世紀の年代観を与えられるであろう。

2. 第101号土坑 (第32・51～56図)

1 X 12 Y区東側で検出された大型の土坑である。土坑全体を検出したわけではなく、調査対象区域にかかった部分だけ調査したので、正確に全体像は復元できないが、直径4 mくらいの隈丸方形にちかい円形を呈するものと推測される。この遺構の年代は、12世紀第4四半期～13世紀第1四半期である。

層序については、3層に分けることができた。第a層は黒褐色砂泥粘質土層、第b層は多少砂混じりの暗褐色粘質土層、第c層は黒褐色粘質土層である。遺構検出面から底面まではおよそ60cmを測る。

この上坑からは多数の木製品が出土しており、なかでも注目されるのは「コロバン」と呼ばれる資料である。この木製品は土坑のはほぼ中央で長軸をN 45° Eに向け、第c層から出土した。ほぼ完全な形をとどめており、全長122cm、直径22～23.5cmである。形態については、両端に有頭状の作り出し部分があり、胴体部には羽根状の歯が8枚みられ、両端の有頭部と胴体部の間は頸部のように細くくびれている。胴体部の歯は、長さ102cm、幅7～8cmの横長のものである。断面でみると歯車状・放射状の形状をなしており、つけ根の部分が厚く、約4cmである。歯は正確に8等分されているわけではなく、歯と歯の間の角度は、74度、76度、73度、67度、95度、83度、63度、95度であり、65度前後から95度の範囲の中に分布している。有頭部は、直径9cm、厚さ約4cm (第51図1の左側)と約6cm (第51図1の右側)を測る。有頭部と胴体部間のくびれ部には、使用時の回転によるものか、わずかに磨耗痕が認められる。

自然科学的調査としてこの木製品の樹種同定を実施しており、金沢大学教養部の鈴木三男先生の分析結果によれば、材質はクリであるという (第7章参照)。

製作技術上の問題に関しては、製品を側面から見ると芯を持っており、こうした木取りの方法から一木作りで製作されていることがわかる。また、2個の有頭部には明瞭な加工痕が認められるものの、胴体部の歯の加工痕は不明である。

機能・用途の面では、この木製品は稲作の際苗代や本田の代作りの時に、牛馬に引かせて碎土に使用する農具であると考えられる。

この木製品は、石川県内では最初の出土例であり、全国的にみると岩手県江刺市落合Ⅱ遺跡出土例（10世紀、村沢正樹・他 1980 「落合Ⅱ遺跡」 岩手県文化財調査報告書50 223～374頁 盛岡）について2例目である。

民具資料としては、青森県の「ゴロ」、岩手県の「ゴロ」・「^{こも}転ばし」、沖縄県の「クルバチャー」などがあげられる。愛知大学教養部の木下忠先生のご教示によれば、東北地方の青森県・岩手県・宮城県では、昭和初年まで使用されていたものもあるという。なお、コロバシの民具資料については、第8章で渡辺誠先生により詳しく記述されている。

木製品の木取りに関しては、柁目材1・柁目材2・板目材1・板目材2・一木材・枝幹材・芯持材・周辺材1・周辺材2の9類に分類される。この分類では、奈良県天理市布留遺跡の報告（金原正明・嶋倉巳三郎 1981 布留遺跡研究中間報告3 『出土木器の樹種と木取りⅠ・Ⅱ』 天理）を参考としており、本遺跡分類と金原分類とはつぎのように対応する。柁目材1（本柁目材）・柁目材2（追柁目材）・板目材1（板目材Ⅰ）・板目材2（板目材Ⅱ）・一木材（該当なし）・枝幹材（該当なし）・芯持材（心持材）・周辺材1（辺材）・周辺材2（該当なし）となり、周辺材2としたものはハシ状木製品のように不明のものである。

柱頭・礎板の木取りについては、つぎのように分類した。

- 第1類……………一木を切断してそのまま使っている材である。
- 第2a類……………縦割りに半切した材で、芯を持たないものである。
- 第2b類……………縦割りに半切した材で、芯を持つものである。
- 第3a類……………板目材で、樹皮に近い部分を含み、断面が三日月形を呈するものである。
- 第3b類……………樹皮に近い部分の板目材で、断面が三日月形を呈するものである。
- 第3c類……………板目材で、断面が長方形を呈するものである。
- 第4a類……………芯持材で、中心を部分的に含むものである。
- 第4b類……………芯持材で、中心を全部含むものである。
- 第5類……………四分割された材である。
- 第6類……………ミカン割り形に八分割された材である。
- 第7類……………柁目材で、表面と年輪が垂直に交わるものである。
- 第8類……………柁目材で、表面と年輪が約45度の角度を持つものである。

3. 第1号堅穴（第33図）

2X9Y区南限で検出された。平面形態は限丸方形を呈し、長軸4m、短軸3.5mを測る。層序に関しては、3層に分類することができた。第a層は炭化物を多量に含む黒色土層、第b層は小角礫を多量に含む暗褐色砂泥粘質土層、第c層は小角礫を多量に含む黒褐色砂泥粘質土層である。時期的には、12世紀第4四半期～13世紀第1四半期の範圍に包括される。

他の主要な遺構の年代は、つぎのとおりである。

- 第102号土坑（13世紀）
- 第6号土坑（12～13世紀）
- 第1号溝（13世紀中頃）
- 第20号溝（12世紀第1四半期）
- 柱穴群（12～13世紀）

第2表 遺構出上中世土器観察表

【単位はcm. () を付したものは現存値を示す】

採回番号	出土遺構・区	製品	器種	法量 (cm)			色調	調整・胎土・焼成・その他
				口径	底径	器高		
第35図1	第101号土坑	珠洲	壺	—	—	(6.3)	外面暗灰色 内面灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデとタタキ 外面に自然釉 海綿骨片少量含む
第35図2	第101号土坑	珠洲	壺	—	—	(6.5)	暗灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 内面は使用のためか光沢を帯びて平滑になっている
第35図3	第101号土坑	珠洲	壺	—	—	(7.4)	暗灰色 断面灰色	内面タタキ 外面タタキ
第35図4	第101号土坑	珠洲	甕	—	—	(7.4)	灰色	内面タタキのあとケズリ 外面タタキ タタキの1単位は約9条で長さ4cmである 海綿骨片が目立つ
第35図5	第101号土坑	珠洲	壺	—	—	(6.0)	灰色	内面タタキ 外面タタキ
第35図6	第101号土坑	珠洲	甕	—	—	(7.0)	暗灰色	内面ヨコナデ 外面タタキ 両面とも自然釉
第35図7	第101号土坑	土師器	皿	13.8	7.8	2.6	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り ごくわずかに海綿骨片含む
第35図8	第101号土坑	土師器	皿	9.1	5.8	1.7	黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第35図9	第101号土坑	土師器	碗	—	6.0	(3.2)	黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 海綿骨片混入
第35図10	第101号土坑	土師器	碗	—	6.1	(3.1)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第35図11	第101号土坑	土師器	碗	—	5.0	(1.2)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第35図12	第101号土坑	土師器	碗	—	7.4	(2.3)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第35図13	第102号土坑	珠洲	片口鉢	27.8	—	(6.2)	内面オリーブ灰色 外面灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 内面に自然釉
第35図14	第102号土坑	土師器	皿	7.0	4.4	1.2	浅黄褐色	両面とも磨耗のため不明
第35図15	第1号土坑	土師器	碗	12.6	10.0	4.3	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデでスガが付着 底面回転糸切り
第35図16	第1号土坑	土師器	皿	8.1	5.1	2.1	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第35図17	第1号竪穴	土師器	皿	8.6	5.9	2.1	褐灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第35図18	第1号竪穴	土師器	皿	7.4	5.8	1.5	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 外面底部に指頭圧痕が残る
第35図19	第1号竪穴	土師器	皿	14.8	10.2	2.7	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 外面底部に指頭圧痕が残る 海綿骨片少量含む
第35図20	第1号竪穴	白磁	皿	—	4.0	(1.1)	素地灰白色 釉灰白色	底面回転糸切り
第35図21	第1号竪穴	珠洲	甕	—	—	(5.0)	灰色	内面ヨコナデ 外面タタキとヨコナデ
第36図1	第1号溝	珠洲	鉢	17.5	—	(5.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片含む
第36図2	第1号溝	珠洲	播鉢	—	—	(3.0)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ おろし目の1単位は20条で幅2.5cmである
第36図3	第1号溝	土師器	皿	11.8	9.5	(3.2)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面ナデ
第36図4	第1号溝	土師器	皿	8.1	7.3	1.4	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ

邦国番号	出土遺構・区	製 品	器 種	法 量 (cm)			色 調	調整・胎土・焼成・その他
				口径	底径	器高		
第36図5	第1号溝	土師器	皿	8.2	6.2	(1.8)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 両面・断面のいずれも黒色を呈する
第36図6	第1号溝	土師器	皿	11.7	7.4	2.9	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 内面にスス付着
第36図7	第1号溝	土師器	皿	10.7	7.6	(2.7)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 両面ともにスス付着
第36図8	第1号溝	土師器	皿	8.2	6.2	1.6	褐灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 両面ともに全面にススが付着し、体部に油煙こびりつく
第36図9	第1号溝	土師器	皿	8.2	6.3	1.5	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 内外底面を除いて大部分にスス・油煙が付着している
第36図10	第15号溝	土師器	皿	9.0	4.7	2.4	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 器高に対して底厚厚い
第36図11	第15号溝	土師器	皿	8.9	5.8	2.4	褐色	両面とも磨耗のため調整不明 底面回転糸切り 器高に対して底部の器壁厚い
第36図12	第15号溝	土師器	皿	7.8	6.7	(1.7)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面ナデ
第36図13	第15号溝	土師器	皿	14.0	12.2	3.4	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第36図14	第16号溝	珠洲	鉢	23.0	—	(2.8)	内面灰白色 外面灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 外面に自然釉
第36図15	第16号溝	土師器	皿	—	4.0	(1.3)	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第36図16	第19号溝	土師器	高台付碗	—	7.5	(1.9)	褐色	両面とも磨耗のため調整不明
第36図17	第26号溝	土師器	皿	10.3	6.2	2.4	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第36図18	第20号溝	土師器	碗	—	5.0	(1.8)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第36図19	第20号溝	瀬戸	碗	—	5.2	(3.4)	素地灰白色 釉縁がかった 灰白色	内面回転ナデ 外面回転ナデ
第36図20	第20号溝	土師器	脚部	—	10.0	(3.4)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第36図21	第20号溝	土師器	皿	—	6.5	(3.5)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 柱状底部
第36図22	第20号溝	土師器	皿	12.8	11.1	2.9	黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第36図23	溝集中箇所他	土師器	皿	11.5	10.0	(3.1)	にぶい褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第36図24	溝集中箇所他	土師器	皿	8.5	7.4	(1.8)	黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第36図25	溝集中箇所他	土師器	皿	8.2	7.6	(1.8)	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 口縁部を除いて全体的に器面に黒くなっている
第36図26	第26号溝他	珠洲	楕鉢	3.0	13.8	12.4	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ おろし日の1単位は9条で幅1.2cm 海綿骨片含む
第36図27	ビット39	土師器	皿	12.2	7.4	3.1	灰黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面磨耗のため不明 内面に油煙付着 外面にスス付着
第36図28	ビット44	珠洲	壺	8.2	—	(3.0)	灰色 断面に ぶい黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片を含む
第36図29	ビット57	土師器	皿	12.8	9.2	2.2	淡黄褐色	両面ともに磨耗のため調整不明 海綿骨片含む

第3表 柱穴出土柱痕・礎板観察表

〔単位はcm、()を付したものは現存値を示す〕

遺構	遺物番号	器種	木取り	残存直径	樹種	長さ	幅	厚さ	挿固番号
柱穴 1	107	柱痕	2 b	16.0	クリ	(30.2)	15.5	8.2	第37図 1
柱穴 1	102	礎板	3 b	14.4	クリ	34.3	8.7	2.9	第37図 2
柱穴 1	103	礎板	4 a	16.8	クリ	33.8	16.6	4.7	第38図 1
柱穴 1	105	礎板	3 a	19.0	クリ	31.5	13.9	5.3	第37図 5
柱穴 1	106	礎板	3 a	17.4	クリ	35.5	10.9	4.3	第37図 3
柱穴 1	108	礎板	4 a	17.4	クリ	35.1	15.2	4.1	第37図 4
柱穴 2	149	礎板	7 a	23.0	クリ	33.7	13.3	4.6	第38図 4
柱穴 2	153	礎板	3 b	48.4	クリ	32.3	9.4	3.2	第38図 2
柱穴 2	154	礎板	2 b	17.6	クリ	34.0	14.6	8.2	第38図 3
柱穴 3	93	柱痕	1	17.0	クリ	(42.0)	15.3	14.8	第40図 1
柱穴 3	89	礎板	3 b	18.8	クリ	29.0	7.8	3.1	第40図 2
柱穴 4	97	礎板	4 b	15.6	クリ	37.3	15.2	6.9	第39図 3
柱穴 4	98	礎板	3 a	13.0	クリ	33.1	11.0	4.6	第39図 2
柱穴 4	99	礎板	2 a	14.0	クリ	31.9	11.9	5.0	第39図 1
柱穴 5	100	礎板	3 b	30.8	クリ	28.9	10.1	4.2	第39図 4
柱穴 6	88	礎板	7 a	—	スギ	22.1	24.7	1.9	第41図 1
柱穴 6	94	礎板	3 b	32.0	クリ	24.9	12.9	3.3	第41図 3
柱穴 6	95	礎板	7 a	66.0	クリ	33.8	14.0	6.9	第40図 3
柱穴 6	101	礎板	7 a	—	スギ	33.4	14.3	2.0	第41図 2
柱穴 6	110	礎板	5	23.2	クリ	28.7	11.9	6.6	第41図 4
柱穴 6	118	礎板	5	26.2	クリ	36.8	8.4	8.4	第40図 4
柱穴 7	80	礎板	2 c	18.8	クリ	33.8	16.8	10.2	第42図 2
柱穴 7	85	礎板	4 a	10.0	クリ	33.3	14.9	3.7	第42図 1
柱穴 8	79	礎板	2 a	26.0	クリ	32.4	14.8	6.4	第42図 3
柱穴 9	122	礎板	3 a	32.0	クリ	31.3	13.8	7.2	第42図 4
柱穴 10	120	礎板	2 a	15.6	クリ	37.2	15.1	4.5	第43図 4
柱穴 10	121	礎板	4 a	21.4	クリ	35.8	15.8	5.1	第43図 3
柱穴 10	124	礎板	2 a	21.0	クリ	37.5	15.6	5.4	第43図 1
柱穴 10	127	礎板	3 b	30.6	クリ	36.8	9.3	2.6	第43図 2
柱穴 11	143	礎板	4 b	20.0	クリ	31.4	16.3	8.3	第44図 1
柱穴 12	138	礎板	7 b	18.6	クリ	32.5	8.5	4.0	第44図 2
柱穴 13	144	礎板	4 b	18.4	クリ	38.3	16.2	6.4	第44図 4
柱穴 13	148	礎板	7 b	—	スギ	28.5	11.0	1.5	第44図 3
柱穴 14	126	礎板	3 a	21.2	クリ	31.0	12.0	4.8	第45図 1
柱穴 15	123	礎板	7 a	42.4	クリ	28.7	15.8	8.2	第45図 2
柱穴 16	128	礎板	2 a	16.0	クリ	28.4	10.9	6.9	第45図 3
柱穴 17	125	柱痕	6	70.0	スギ	(37.8)	13.1	7.7	第45図 4
柱穴 18	111	礎板	3 d	—	スギ	26.2	11.9	5.1	第46図 1
柱穴 18	112	礎板	3 d	—	スギ	35.6	5.2	2.9	第46図 3
柱穴 18	114	礎板	—	—	スギ	22.6	5.5	3.2	第46図 4
柱穴 18	116	礎板	3 d	—	スギ	34.6	7.1	1.5	第46図 2
柱穴 19	115	礎板	4 b	15.0	クリ	35.6	11.6	5.0	第46図 5
柱穴 20	104	礎板	7 a	29.2	スギ	27.9	14.6	6.0	第46図 6
柱穴 21	117	柱痕	3 c	91.0	スギ	(40.9)	13.8	12.5	第47図 1
柱穴 22	141	柱痕	6	34.0	スギ	(39.7)	16.2	12.2	第48図 1
柱穴 22	130	礎板	3 a	18.0	クリ	28.5	13.2	5.0	第48図 4
柱穴 22	132	礎板	3 b	17.2	クリ	28.0	7.1	3.1	第47図 3
柱穴 22	133	礎板	3 a	20.0	クリ	28.8	15.4	4.8	第48図 5
柱穴 22	134	礎板	4 a	18.4	クリ	32.3	15.9	7.0	第48図 2
柱穴 22	135	礎板	7 a	43.0	スギ	28.6	13.7	5.1	第47図 5

遺構	遺物番号	器種	木取り	残存直径	樹種	長さ	幅	厚さ	挿図番号
柱穴 22	136	礎板	3 b	24.0	クリ	30.3	12.7	4.8	第 47 図 4
柱穴 22	137	礎板	2 a	11.2	クリ	25.4	9.4	4.6	第 47 図 2
柱穴 22	142	礎板	3 b	23.0	クリ	33.5	8.6	5.3	第 48 図 3
柱穴 23	90	柱痕	5	37.6	クリ	(30.5)	17.7	12.0	第 47 図 6
柱穴 24	91	柱痕	5	28.0	スギ	(54.0)	14.6	12.3	第 40 図 5
柱穴 25	86	柱痕	6	46.6	スギ	(30.8)	18.8	16.3	第 49 図 1
柱穴 25	84	礎板	8 b	15.2	クリ	32.6	15.2	4.4	第 49 図 3
柱穴 25	87	礎板	2 a	21.0	クリ	32.6	13.8	6.5	第 49 図 2
柱穴 26	92	柱痕	3 c	75.0	スギ	(25.9)	13.8	11.6	第 49 図 4
柱穴 27	96	柱痕	1	16.2	コンアブラ	(40.7)	15.8	13.5	第 49 図 5
柱穴 28	131	柱痕	6	46.0	クリ	(27.9)	14.2	10.6	第 50 図 1
柱穴 29	129	柱痕	3 c	90.0	スギ	(27.9)	14.4	10.8	第 50 図 2
柱穴 30	109	礎板	4 b	13.4	クリ	18.0	10.5	5.2	第 50 図 4
柱穴 30	113	礎板	7 a	46.0	アカガシ亜属	29.4	11.9	4.8	第 50 図 3
柱穴 31	119	柱痕	5	60.0	スギ	(41.5)	18.2	18.0	第 50 図 5

4. 遺構出土の古墳時代の土器 (第34図)

第6号土坑(1~6) 蓋形土器、甕形土器2A・B類などがあり、I前期(時期区分については後述)に位置付けられる。6は右製紡錘車とみられるもので3/4を欠く。復元径8.1cm、厚さ1.3cm、孔径1.0cm、現重量39.1gを測る。上面の縁辺は丸く面取りし、全面に磨きをかける。

第7号土坑(7) 甕形土器2B類でI前期に属する。

第102号土坑(8) 土製品の脚、轆などの把手、製塩土器の尖底などが考えられるが定かではない。端面の粗い木目痕は甕形土器I・J類のものに似る。

P-64(9) 杯部碗形の高杯形土器C類で、口縁端部は内傾する面を持つ。III期の新しい段階からN期の古い段階に位置づけられる。

第3号溝(10~14) 小型器台形土器A類、壺形土器2A類、甕形土器2C・D類などがある。I前期のものとI後期でも古い段階のものがある。

第5号溝(15~17) 蓋形土器、甕形土器2A・B類があり、I前期に比定できる。

第9号溝(18~20) 小型高杯形土器、高杯形土器B類、甕形土器2H類がある。小型高杯形土器はI後期、甕形土器はII期前後、高杯形土器はIII期に位置付けられる。

第4表 遺構出土木製品観察表

[単位はcm。()を付したものは現存値を示す]

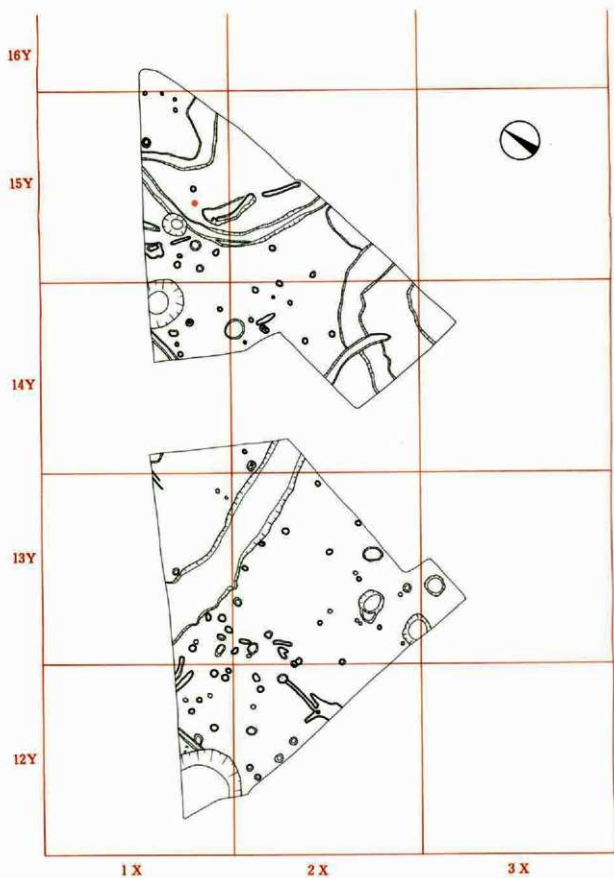
遺 探	遺物番号	器 種	木 取 り	樹 種	長 さ	幅 (長軸)	厚 さ (短軸)	挿 圓 番 号
第101号土坑	0	コロボシ	一木材	クリ	122.0	23.5	22.0	第51図1
第101号土坑	1	下駄	桤目材2	ケヤキ	(21.2)	(11.4)	(4.4)	第52図1
第101号土坑	14	下駄	榎目材2	スギ	(20.7)	(11.9)	(3.1)	第52図2
第101号土坑	2	下駄の歯	桤目材1	スギ	12.0	17.4	2.4	第53図4
第101号土坑	20	下駄の歯	桤目材1	ケヤキ	(9.5)	15.7	3.5	第53図6
第101号土坑	27	下駄の歯	榎目材1	スギ	(11.7)	(6.2)	1.8	第53図5
第101号土坑	7	笹塔塗	板目材1	スギ	(20.0)	2.6	0.4	第55図10
第101号土坑	13	はし状木製品	周辺材2	スギ	(22.8)	0.6	0.5	第54図10
第101号土坑	15	はし状木製品	周辺材2	スギ	(19.1)	0.6	0.5	第54図8
第101号土坑	16	はし状木製品	周辺材2	スギ	(12.1)	0.6	0.3	第54図9
第101号土坑	19	はし状木製品	周辺材2	スギ	(18.9)	0.6	0.5	第54図7
第101号土坑	5	部材	板目材1	スギ	(47.8)	7.5	1.8	第54図1
第101号土坑	8	鎌の柄	周辺材1	アワブキ	(34.6)	4.6	4.1	第53図1
第101号土坑	10	鎌の柄	周辺材1	アサダ	(14.8)	5.3	4.1	第53図2
第101号土坑	44	鎌の柄	周辺材1	アワブキ	(15.9)	3.9	3.0	第53図3
第101号土坑	29	木釘孔を持つ薄板材	材目材1	スギ	(52.0)	3.3	0.9	第54図2
第101号土坑	26	木釘孔を持つ薄板材	材目材1	スギ	(17.4)	(3.6)	0.6	第54図6
第101号土坑	28	部材	桤目材2	スギ	(33.9)	2.7	1.3	第54図3
第101号土坑	6	部材	桤目材1	スギ	6.6	3.8	0.8	第52図4
第101号土坑	31	部材	板目材1	アカガシ亜属	(5.2)	(5.3)	1.4	第52図7
第101号土坑	21	角材	周辺材1	カエデ属	(40.0)	4.6	3.7	第55図1
第101号土坑	37	角材	周辺材1	スギ	(14.5)	(2.8)	1.9	第52図5
第101号土坑	35	板材	板目材1	スギ	(43.8)	3.1	0.4	第55図7
第101号土坑	32	板材	板目材1	スギ	(21.1)	2.1	0.5	第55図4
第101号土坑	42	薄板材	桤目材1	スギ	10.9	7.9	0.7	第52図4
第101号土坑	11	棒材	周辺材1	アワブキ	(26.9)	3.3	2.9	第55図5
第101号土坑	23	棒材	周辺材1	カエデ属	(26.4)	(3.5)	2.9	第55図6
第101号土坑	30	棒材	板目材1	スギ	(27.8)	1.6	1.2	第55図3
第101号土坑	24	棒材	板目材1	スギ	(42.6)	1.2	0.6	第55図2
第101号土坑	4	すりこぎ?	周辺材1	コナラ節	(8.1)	6.0	(2.5)	第54図11
第101号土坑	3	へら状木製品	材目材1	モクレン属	(6.7)	3.1	1.3	第54図5
第101号土坑	25	へら状木製品	材目材2	スギ	(13.4)	3.6	0.6	第54図4
第101号土坑	9	木の皮	—	—	(19.9)	(16.7)	1.9	第56図8
第101号土坑	39	加工痕を持つ木材	周辺材1	イヌツゲ節	(21.7)	5.3	5.1	第56図6
第101号土坑	33	加工痕を持つ木材	1/4材	カエデ属	(15.7)	7.3	4.7	第56図4
第101号土坑	34	加工痕を持つ木材	1/4材	タマノミズ	(13.8)	(6.9)	(6.2)	第56図5
第101号土坑	43	加工痕を持つ木材	周辺材1	ケヤキ	(10.9)	(5.6)	(5.2)	第56図7
第101号土坑	17	加工痕を持つ木材	周辺材1	サクラ属	(5.1)	(4.8)	(4.2)	第55図12
第101号土坑	38	加工痕を持つ木材	周辺材1	サクラ属	(5.7)	(5.4)	(4.2)	第55図11
第101号土坑	12	加工痕を持つ木材	板目材1	スギ	(9.5)	4.9	1.2	第52図6
第101号土坑	18	加工痕を持つ木材	1/4材	カエデ属	15.6	3.7	3.0	第54図14
第101号土坑	41	加工痕を持つ木材	一木材	コナラ節	(16.4)	3.5	3.0	第55図13
第101号土坑	36	加工痕を持つ木材	枝幹材	ヤナギ属	(12.4)	2.8	2.5	第55図9
第101号土坑	22	加工痕を持つ木材	一木材	スルデ	(7.4)	3.1	2.5	第55図8
第101号土坑	152	木鑿状木製品	桤目材1	スギ	114.2	8.1	2.4	第51図2
第101号土坑	150	角材	板目材1	クリ	(96.1)	6.7	3.6	第51図3
第101号土坑	151	板材	板目材1	スギ	(70.6)	4.2	1.6	第51図4
第101号土坑	156	動物側板	桤目材1	スギ	(10.0)	(7.5)	(0.6)	—
第102号土坑	83	刀了形木製品	板目材1	スギ	19.9	2.0	1.1	第57図6
第102号土坑	76	部材	板目材1	スギ	(13.3)	2.9	0.6	第57図5
第102号土坑	78	薄板材	板目材1	スギ	(59.1)	5.1	0.4	第57図2

遺 構	遺物番号	器 種	木 取 り	樹 種	長 さ	幅 (長軸)	厚 さ (短軸)	挿 図 番 号
第102号土坑	81	尖端棒材	板目材1	スギ	(66.3)	1.6	1.4	第57図1
第102号土坑	82	加工痕を持つ木材	一木材	ヤナギ属	(7.6)	2.0	1.7	第57図4
第102号土坑	77	加工痕を持つ木材	一木材	カヤ	(40.3)	1.1	1.0	第57図3
第1号竪穴	72	部材	周辺材1	スギ	(26.7)	3.2	2.8	第58図3
第1号竪穴	66	部材	板目材1	スギ	9.6	2.5	0.8	第58図4
第1号竪穴	40	角材	板目材1	スギ	(31.4)	5.0	2.3	第58図1
第1号竪穴	71	板材	板目材1	スギ	(30.2)	4.0	1.0	第58図2
第1号竪穴	68	加工痕を持つ木材	枝幹材	ウツギ	(30.6)	1.9	1.8	第58図10
第1号竪穴	69	加工痕を持つ木材	枝幹材	ウツギ	(15.7)	2.8	2.6	第58図6
第1号竪穴	70	加工痕を持つ木材	枝幹材	ウツギ	(22.9)	2.1	2.0	第58図9
第1号竪穴	73	加工痕を持つ木材	枝幹材	ウツギ	(32.4)	2.4	2.2	第58図8
第1号竪穴	67	加工痕を持つ木材	枝幹材	ウツギ	(9.1)	(2.7)	1.8	第58図5
第1号竪穴	65	加工痕を持つ木材	一木材	ウツギ	(12.4)	1.7	1.6	第58図7
第1号溝	45	はし状木製品	周辺材2	スギ	(15.6)	0.6	0.5	第57図13
第1号溝	46	はし状木製品	周辺材2	スギ	(18.0)	0.6	0.4	第57図9
第1号溝	47	はし状木製品	周辺材2	スギ	19.0	0.7	0.4	第57図8
第1号溝	48	はし状木製品	周辺材2	スギ	(19.8)	0.6	0.4	第57図7
第1号溝	49	はし状木製品	周辺材2	スギ	(16.9)	0.6	0.5	第57図11
第1号溝	50	はし状木製品	周辺材2	スギ	(20.4)	0.6	0.4	第57図23
第1号溝	51	はし状木製品	周辺材2	スギ	(22.8)	0.7	0.7	第57図25
第1号溝	52	はし状木製品	周辺材2	スギ	(15.9)	0.7	0.6	第57図12
第1号溝	53	はし状木製品	周辺材2	スギ	24.0	0.6	0.4	第57図26
第1号溝	54	はし状木製品	周辺材2	スギ	(19.2)	0.5	0.4	第57図22
第1号溝	55	はし状木製品	周辺材2	スギ	(16.6)	0.5	0.4	第57図15
第1号溝	56	はし状木製品	周辺材2	スギ	(13.7)	0.7	0.7	第57図14
第1号溝	57	はし状木製品	周辺材2	スギ	(17.3)	0.5	0.4	第57図16
第1号溝	58	はし状木製品	周辺材2	スギ	(17.0)	0.5	0.4	第57図21
第1号溝	59	はし状木製品	周辺材2	スギ	(17.4)	0.5	0.5	第57図10
第1号溝	60	はし状木製品	周辺材2	スギ	18.6	0.5	0.4	第57図18
第1号溝	61	はし状木製品	周辺材2	スギ	(21.2)	0.7	0.5	第57図24
第1号溝	62	はし状木製品	周辺材2	スギ	(17.0)	0.7	0.3	第57図17
第1号溝	63	はし状木製品	周辺材2	スギ	19.4	0.6	0.5	第57図20
第1号溝	64	はし状木製品	周辺材2	スギ	(18.6)	0.5	0.4	第57図19
第20号溝	74	しゃもじ形木製品	板目材1	スギ	(16.3)	4.3	0.7	第57図27
第20号溝	75	はし状木製品	周辺材2	スギ	17.2	0.6	0.6	第57図28

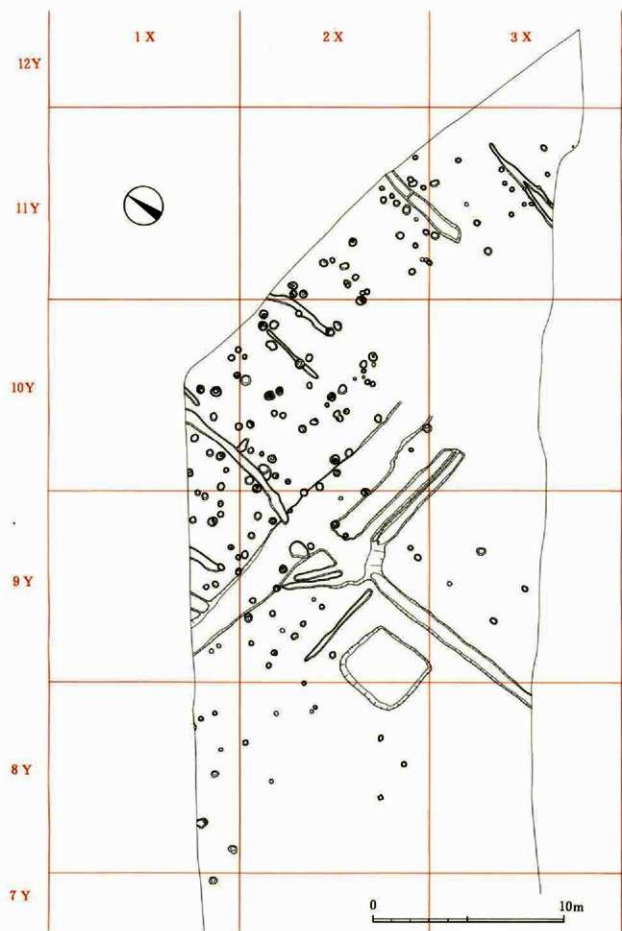
第5表 漆器観察表

[単位はcm。()を付したものは現存値を示す]

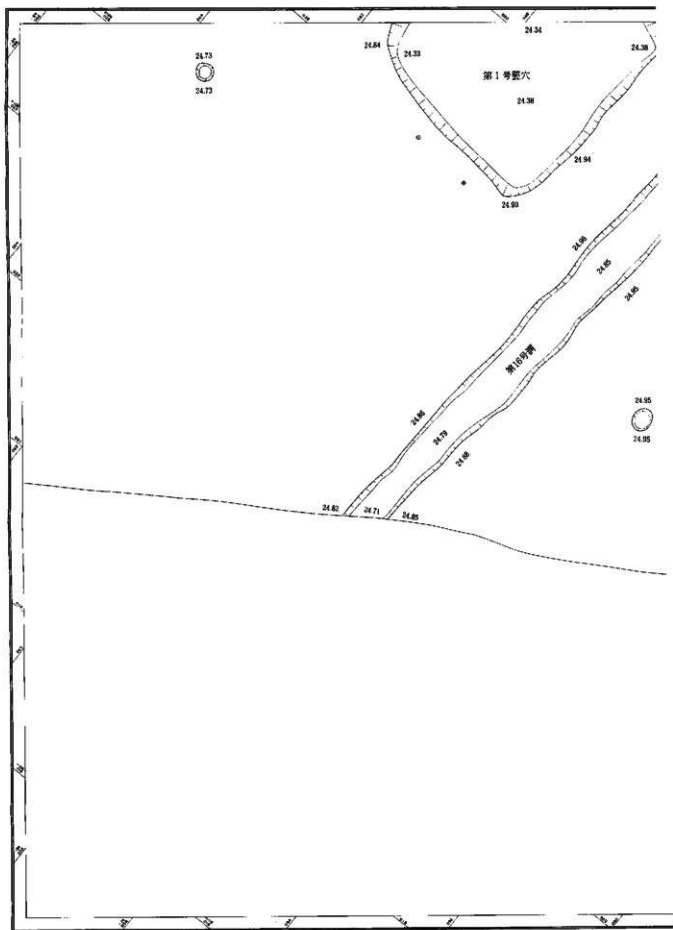
遺 構	遺物番号	器 種	木 取 り	樹 種	口 径	底 径	器 高	挿 図 番 号
第101号土坑	140	漆器小皿	縦木取り	ケヤキ	9.8	7.2	1.5	第56図3
第1号溝	139	漆器小皿	縦木取り	ブナ属	9.3	6.5	1.1	第56図2
第6号上坑	145	漆器碗	縦木取り	ケヤキ	15.0	7.6	4.5	第56図1
第1号竪穴	146	漆器小皿	縦木取り	ケヤキ	—	—	—	—



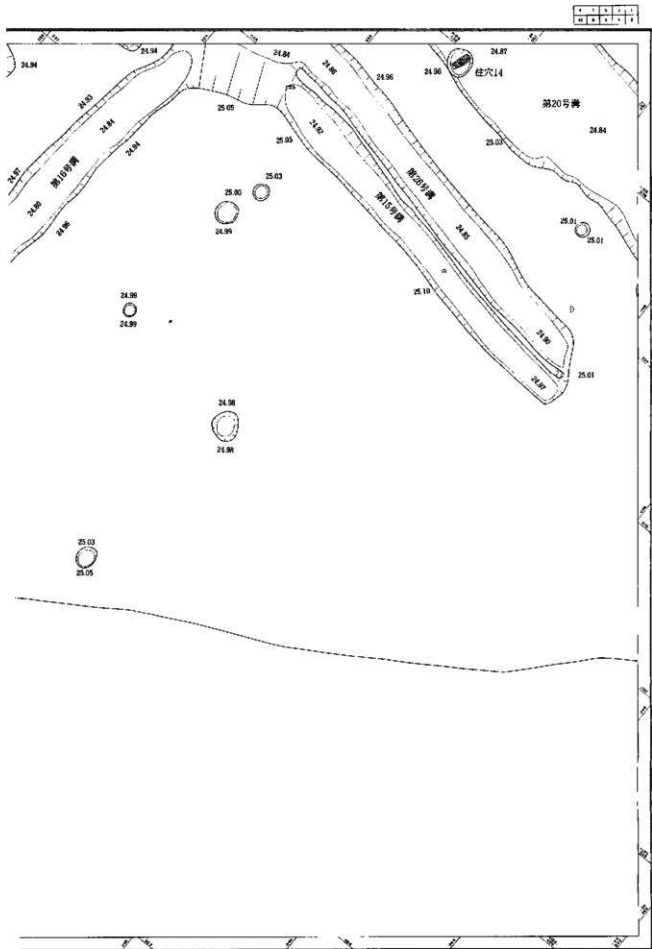
第7圖 遺構全体図1 (縮尺 1/200)



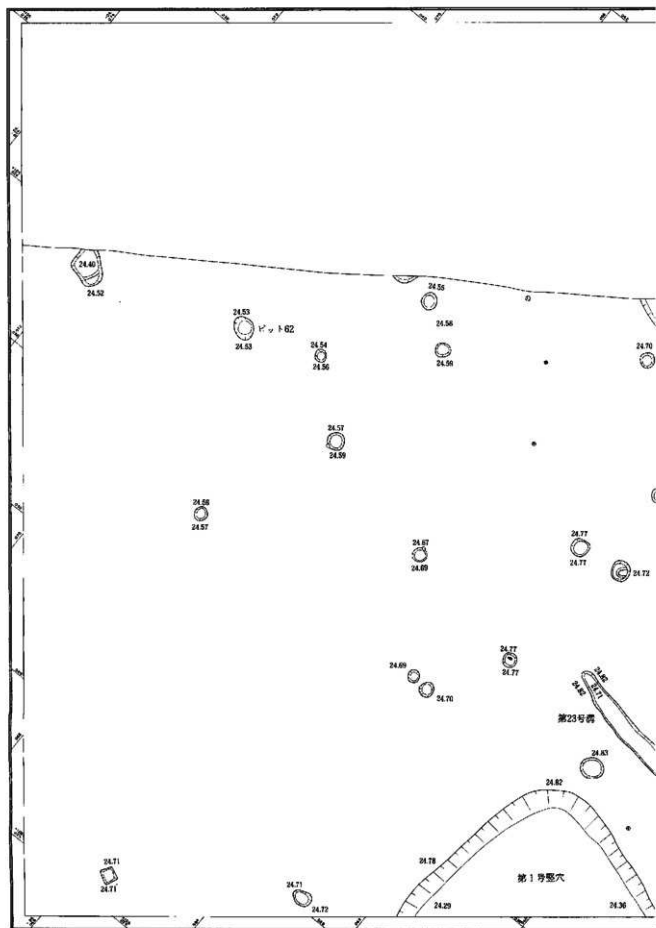
第8圖 遺構全体図2 (縮尺 1/200)



第9图 透視図1 (縮尺 1/60)

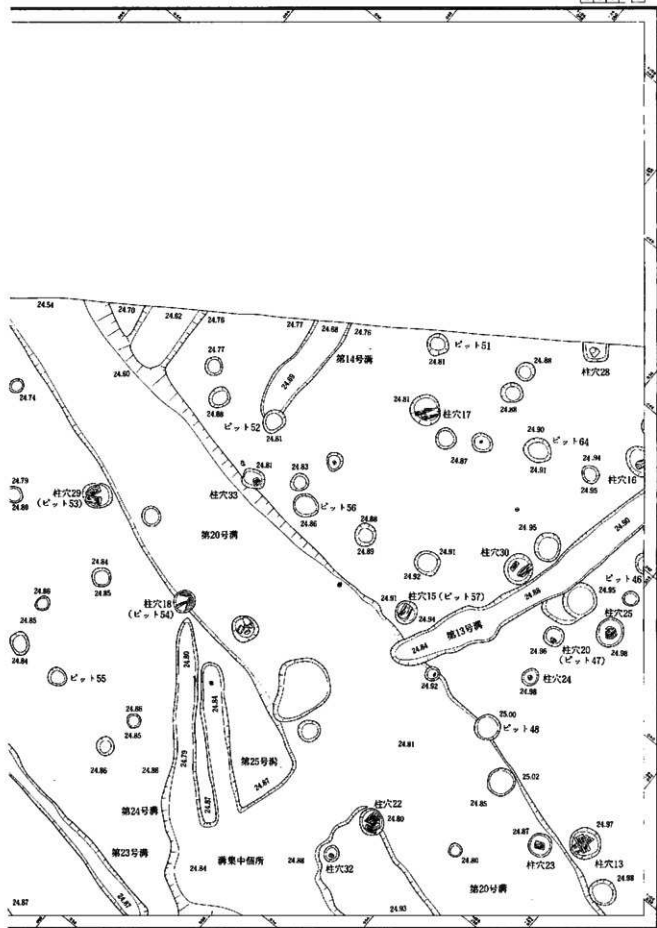


第10図 遺構図2 (縮尺 1/60)

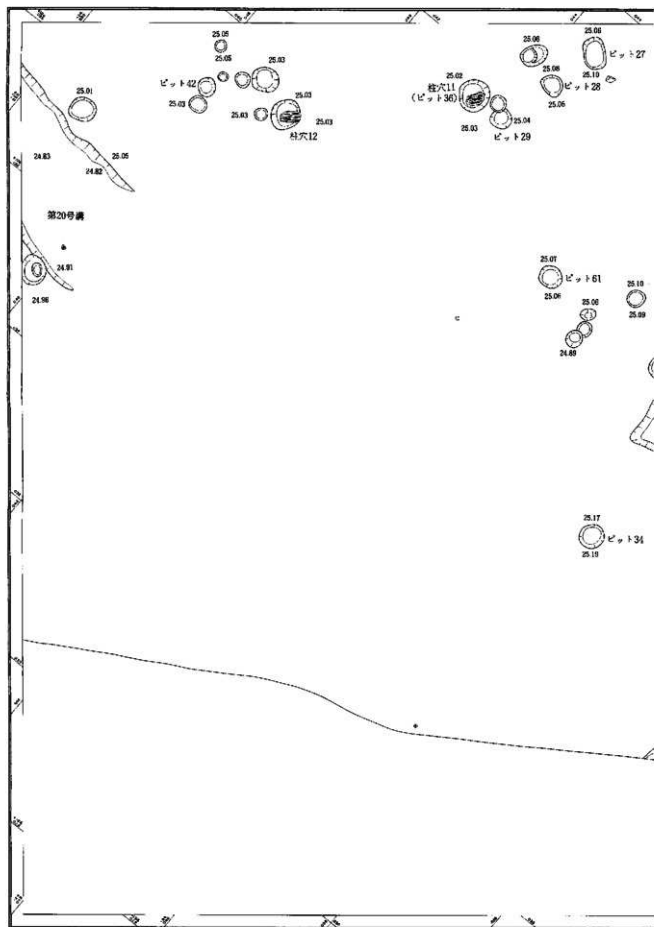


第11圖 遺構図3 (縮尺 1/60)

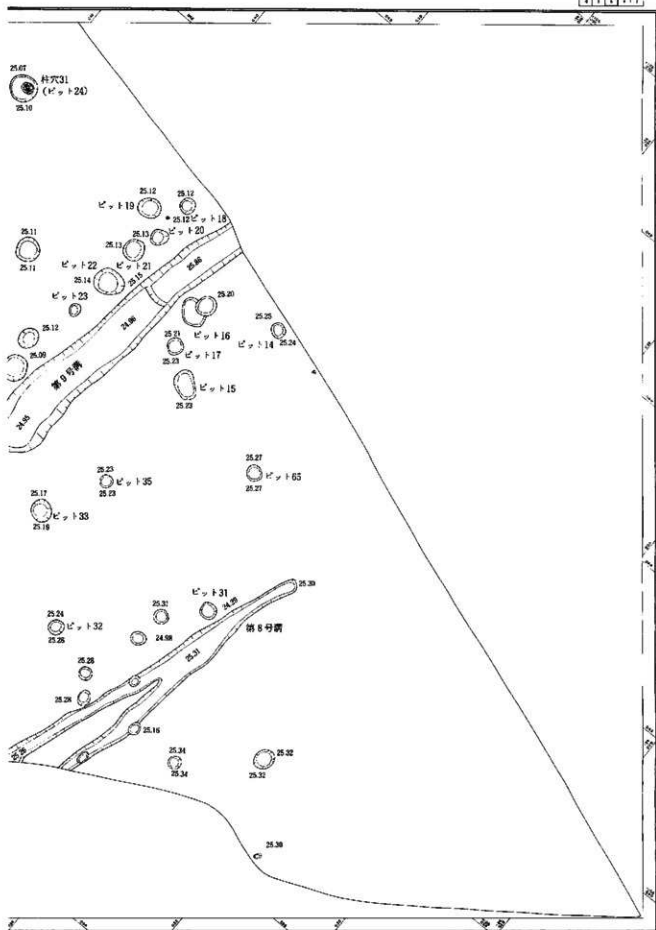
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12



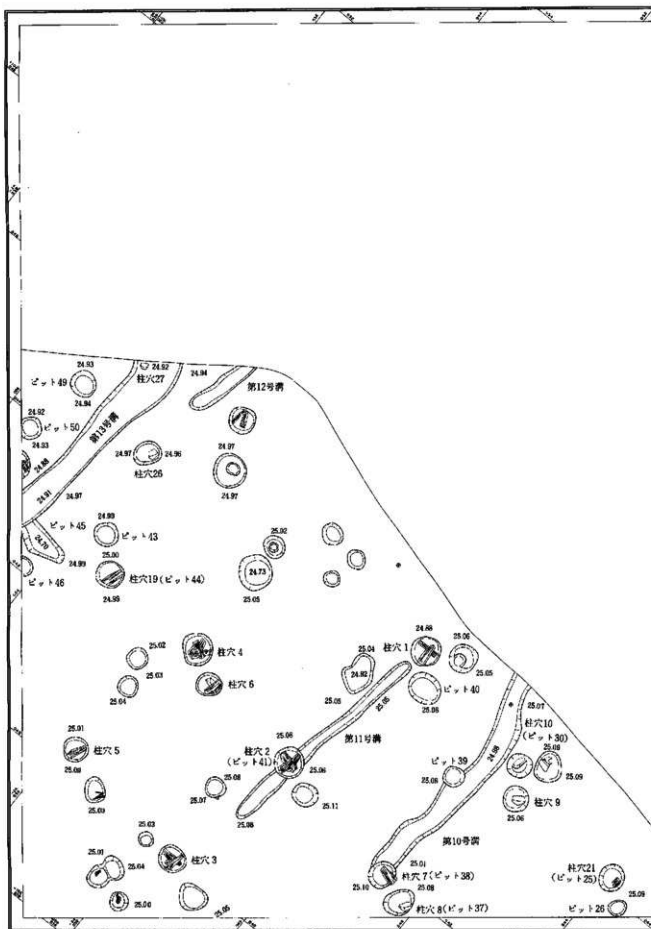
第12図 遺構図4 (縮尺 1/60)



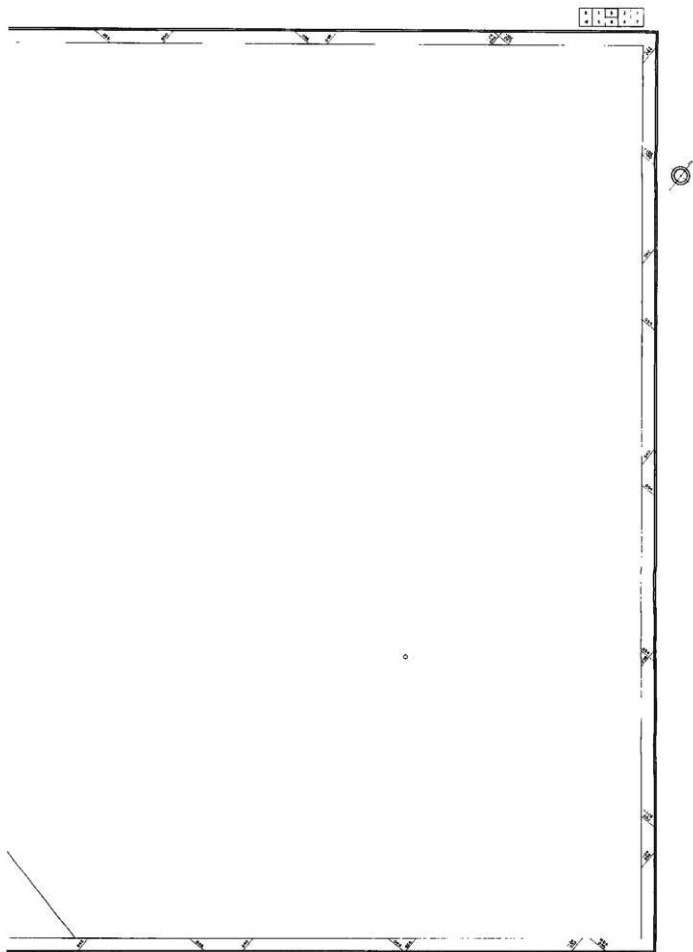
第13圖 遺構図5 (縮尺 1/60)



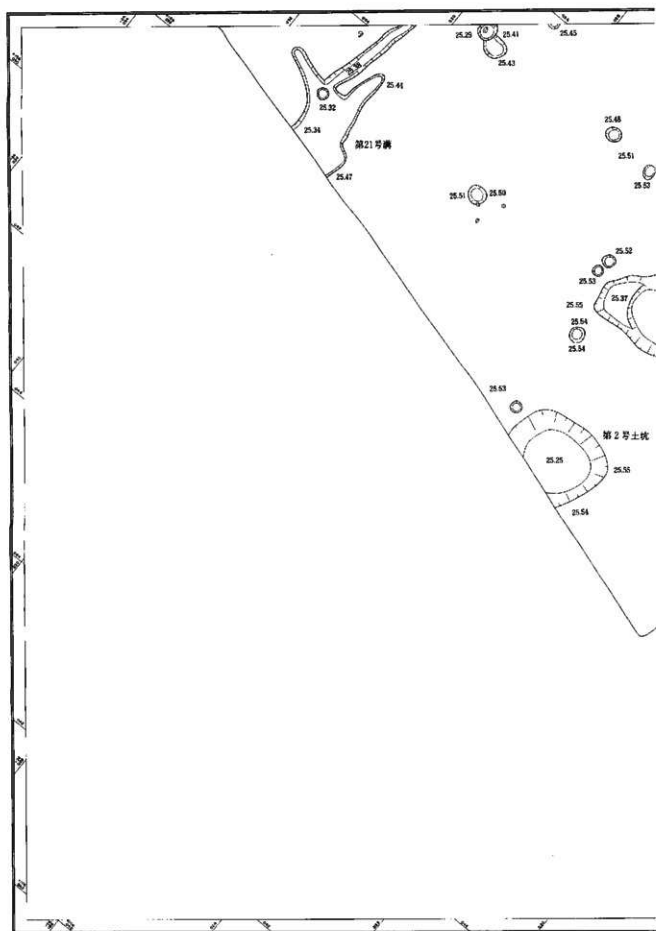
第14圖 遺構図6 (縮尺 1/60)



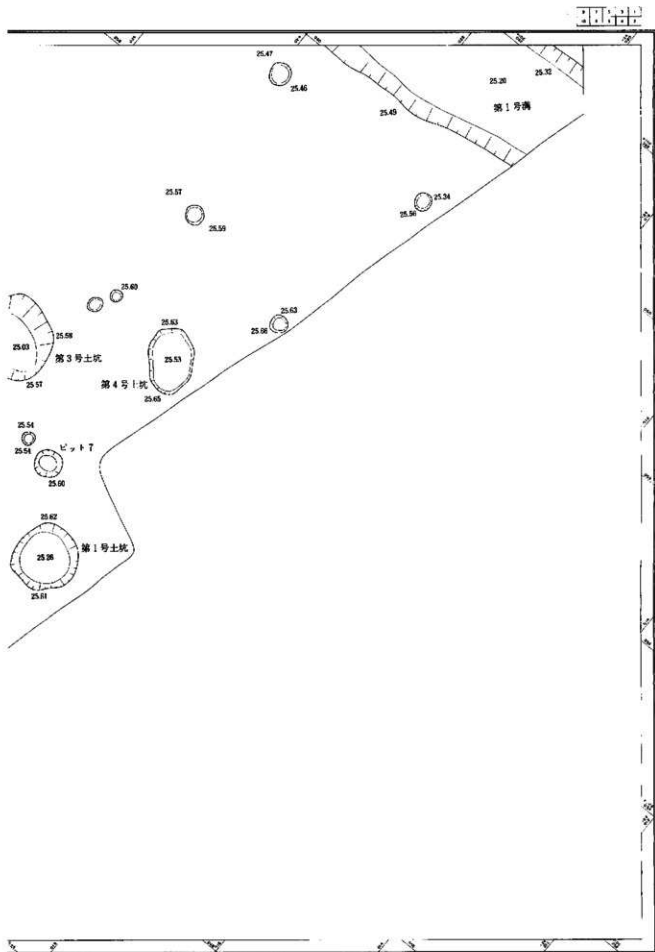
第15圖 遺構図7 (縮尺 1/60)



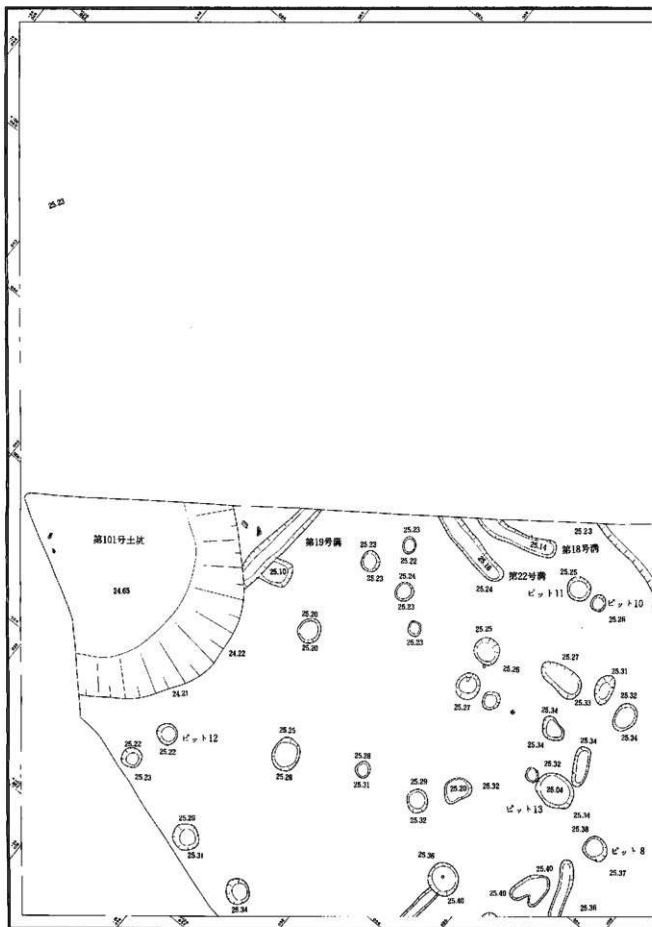
第16圖 遺構圖8 (縮尺 1/60)



第17圖 遺構圖9 (縮尺 1/60)

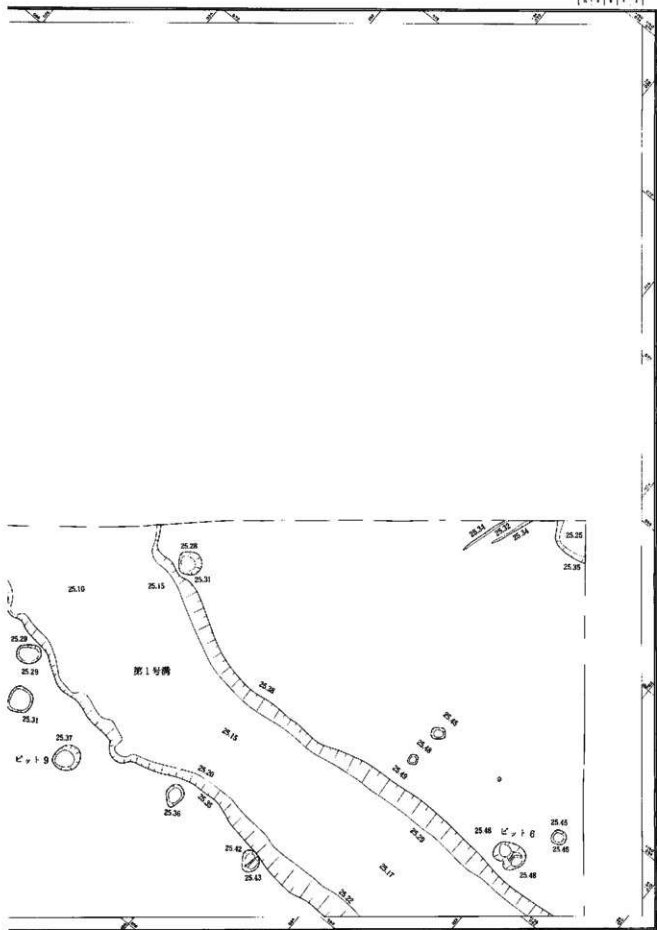


第18圖 遺構図10 (縮尺 1/60)

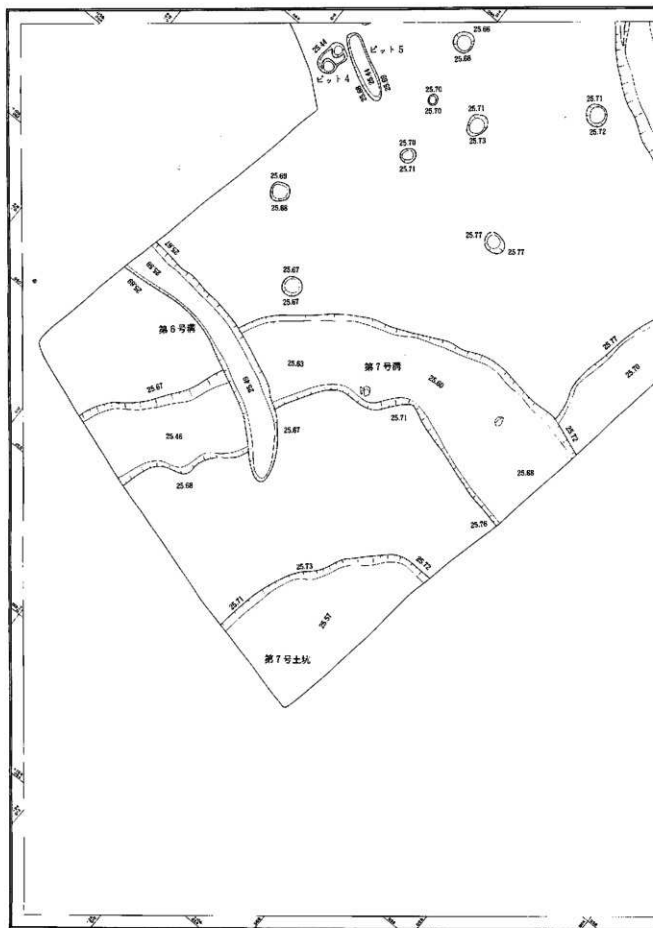


第19図 遺構図11 (縮尺 1/60)

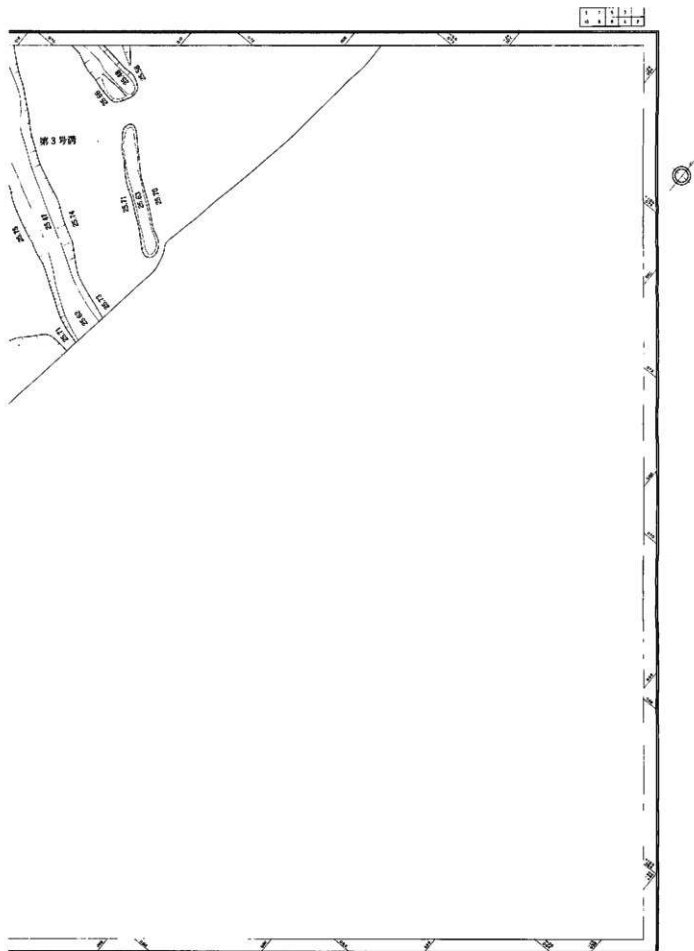
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16



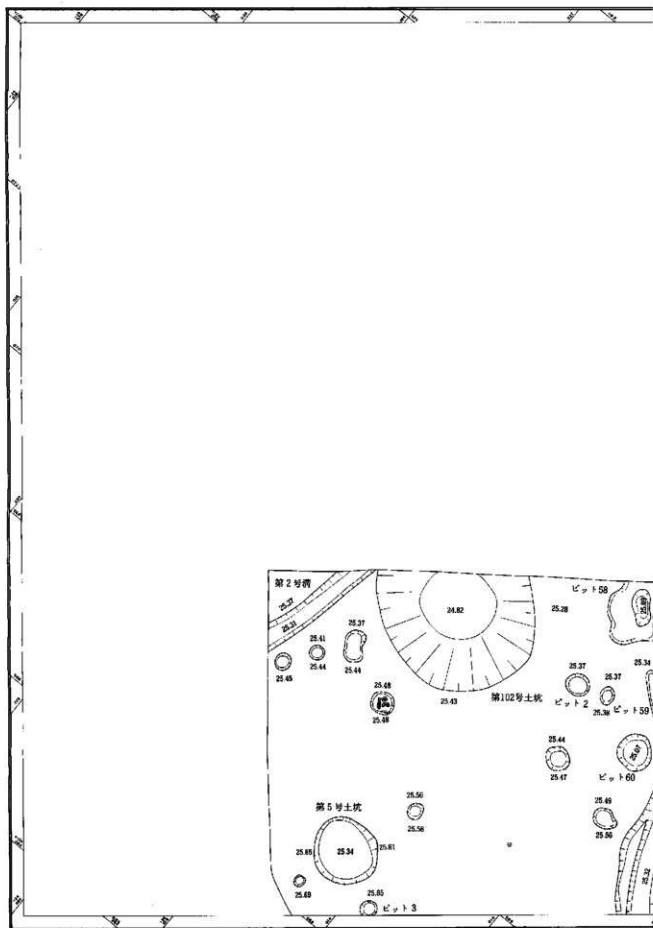
第20図 遺構図12 (縮尺 1/60)



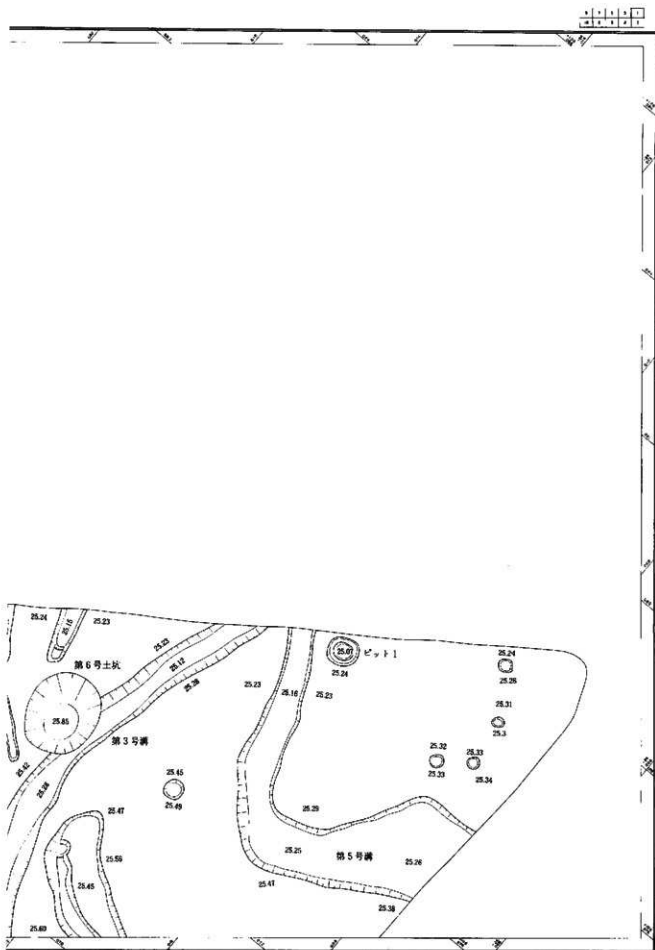
第21図 遺構図13 (縮尺 1/60)



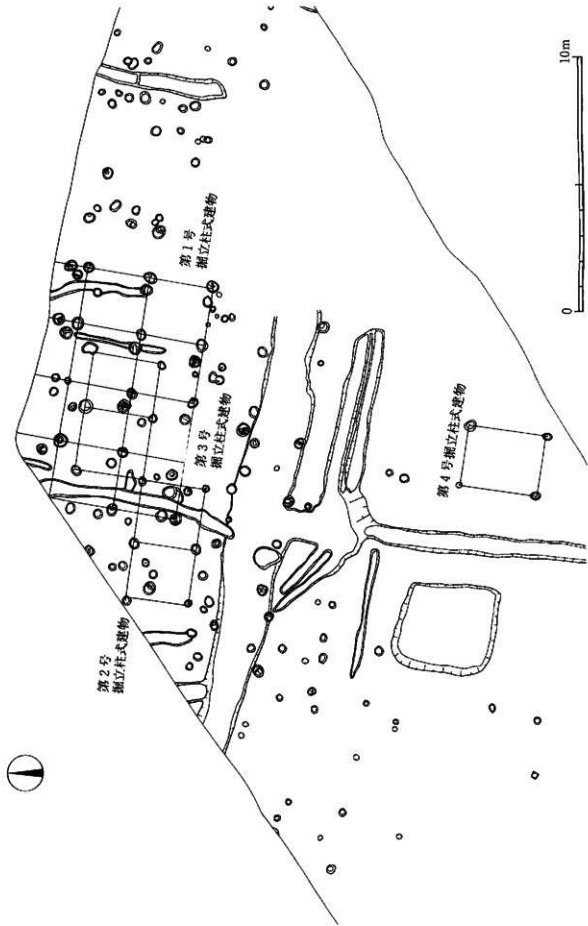
第22図 遺構図14 (縮尺 1/60)



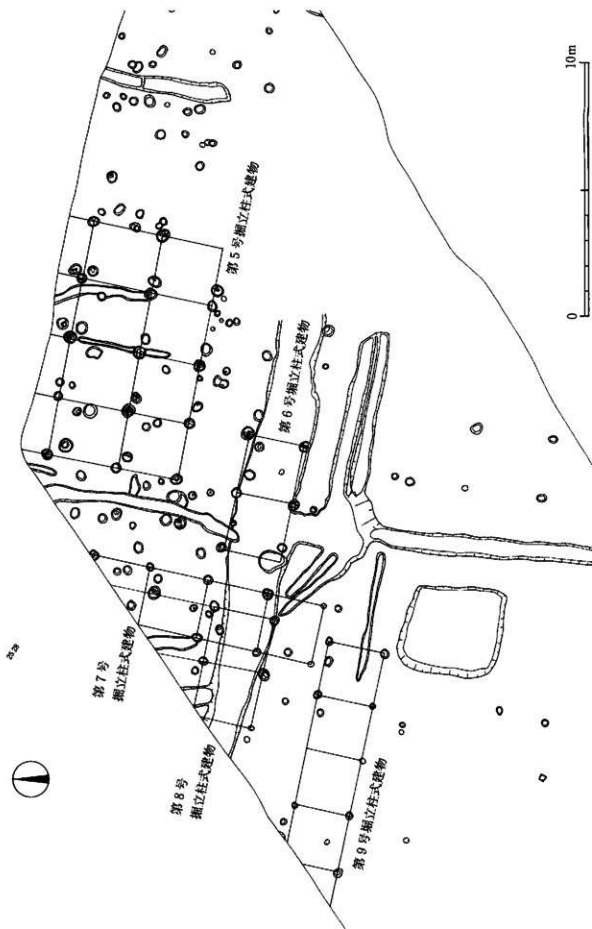
第23図 遺構図15 (縮尺 1/60)



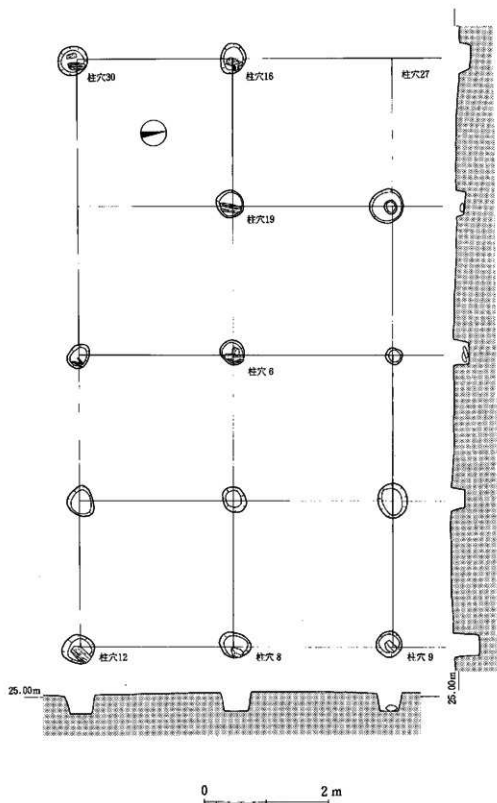
第24図 遺構図16 (縮尺 1/60)



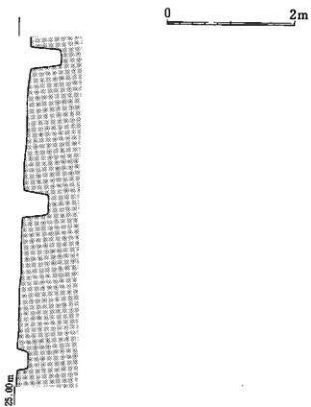
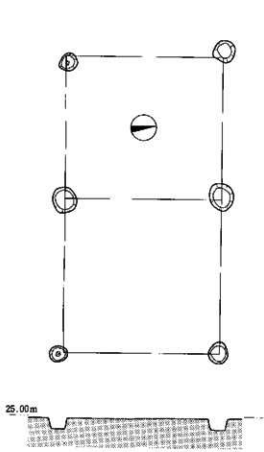
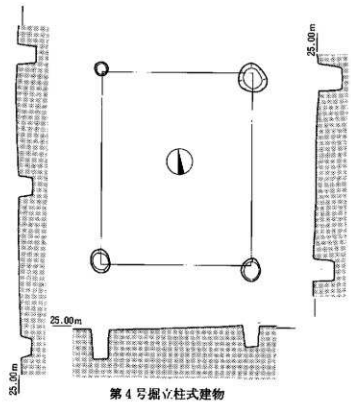
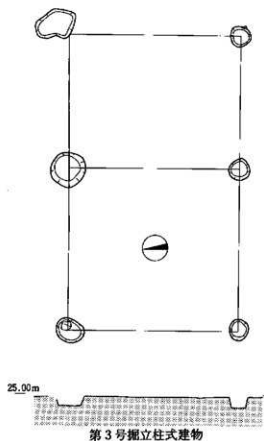
第25图 独立柱式建物配置图1



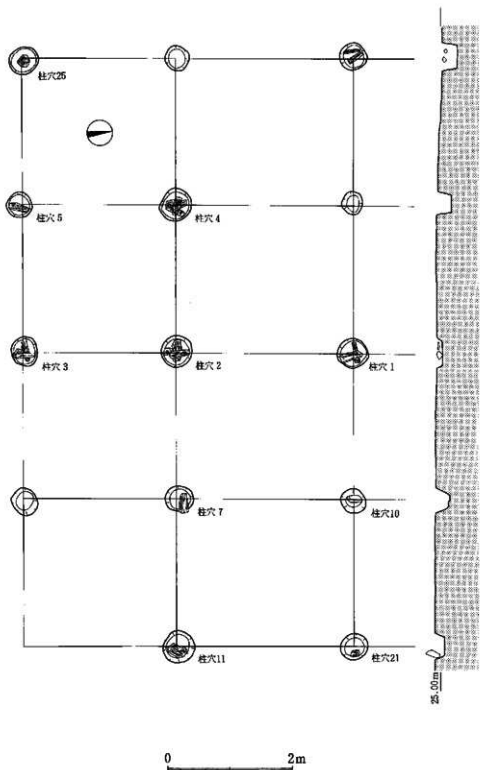
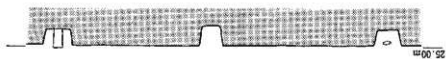
第26圖 獨立柱式建物配置圖2



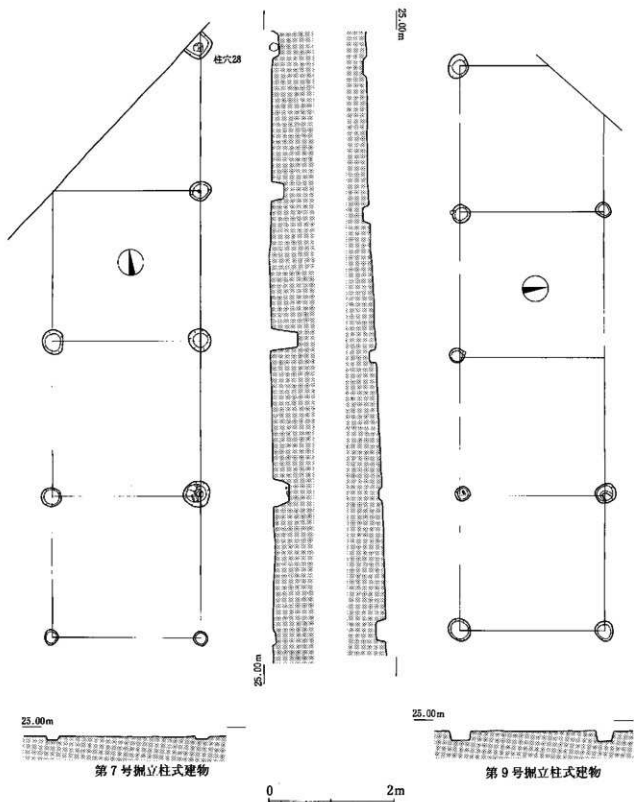
第27图 第1号掘立柱式建物实测图 (缩尺 1/60)



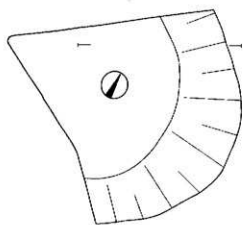
第28图 第2~4号掘立柱式建物灾测图(缩尺 1/60)



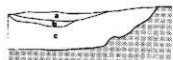
第29图 第5号掘立柱式建物实测图 (缩尺 1/60)



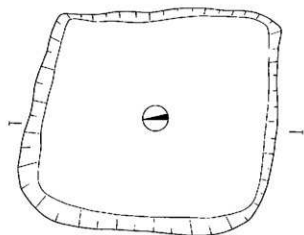
第30图 第7・9号掘立柱式建物実測图(縮尺 1/60)



24.50m



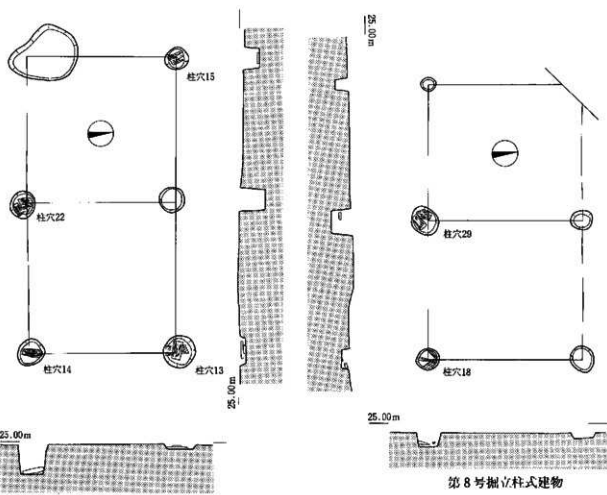
第32图 第101号土坑实测图 (縮尺 1/60)



25.00m



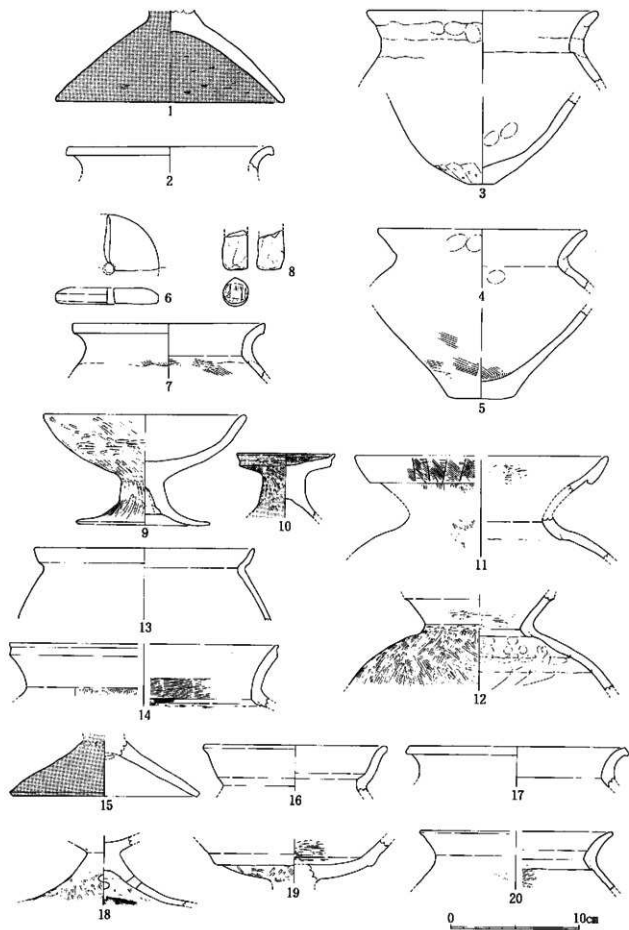
第33图 第1号竖穴实测图 (縮尺 1/60)



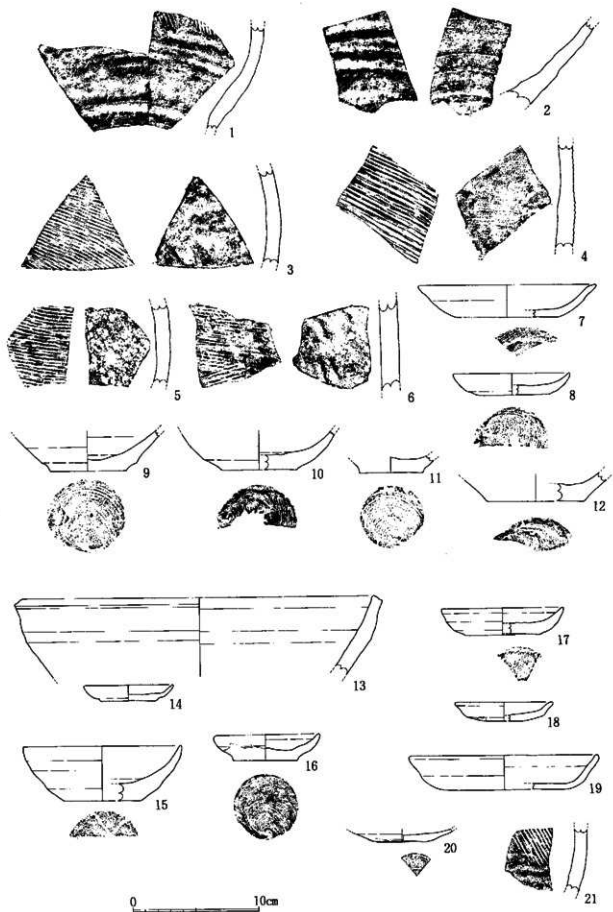
第6号独立柱式建物

第8号独立柱式建物

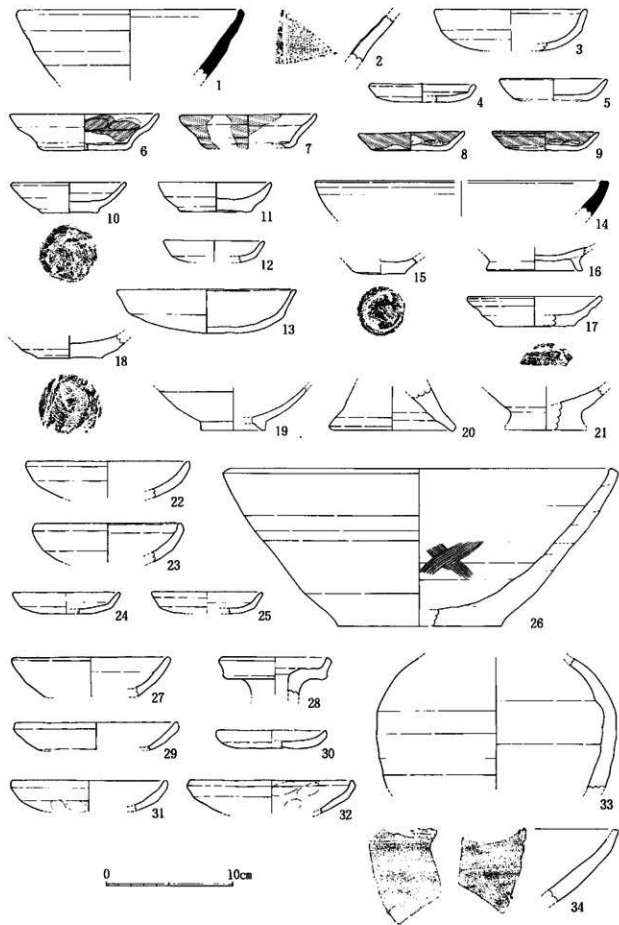
第31图 第6·8号独立柱式建物实测图 (縮尺 1/60)



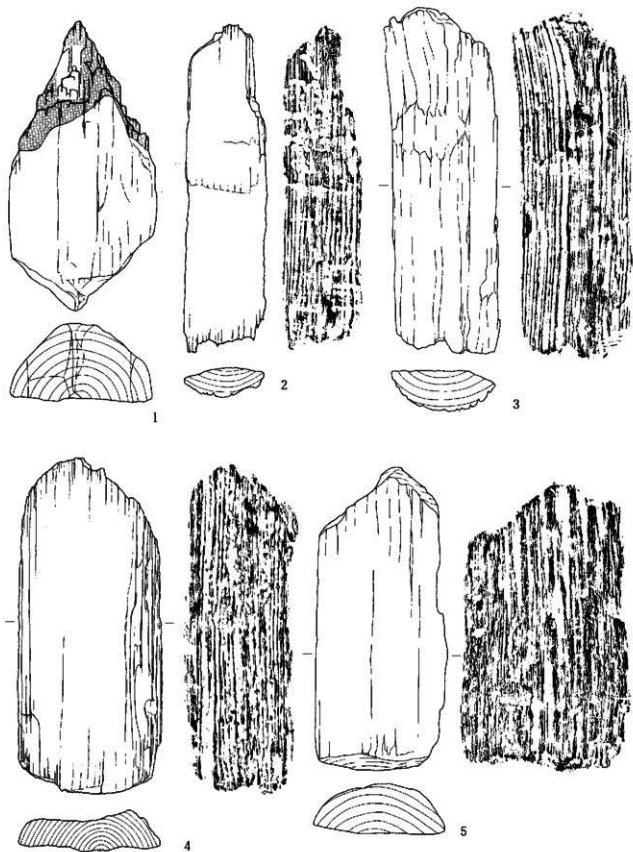
第34圖 遺構出土土器実面図(縮尺 1/3)



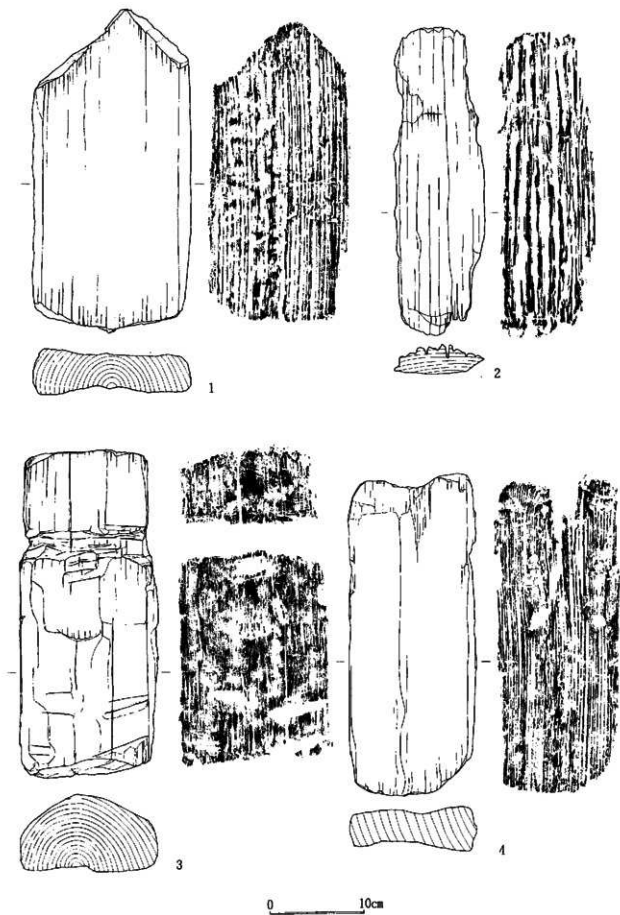
第35圖 土坑·整穴出土土器実測図(縮尺 1/3)



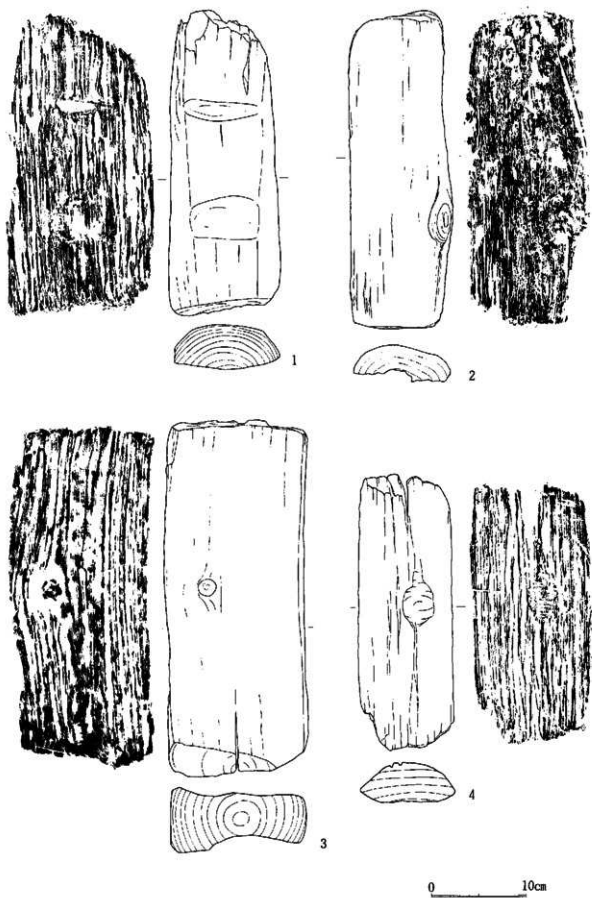
第36圖 溝・ピット出土土器実測図(縮尺 1/3)



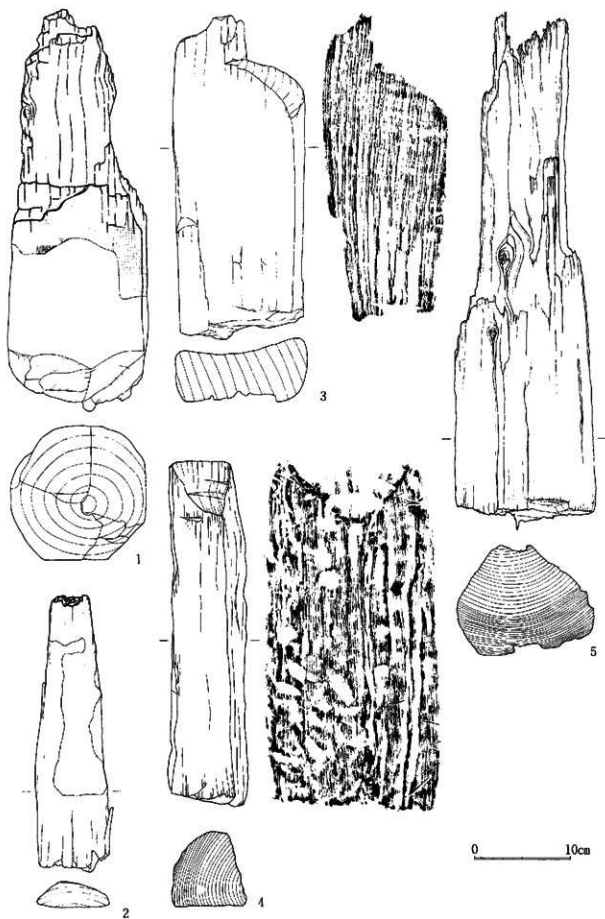
第37圖 柱穴1出土柱痕·礎板實測圖(縮尺 1/4)



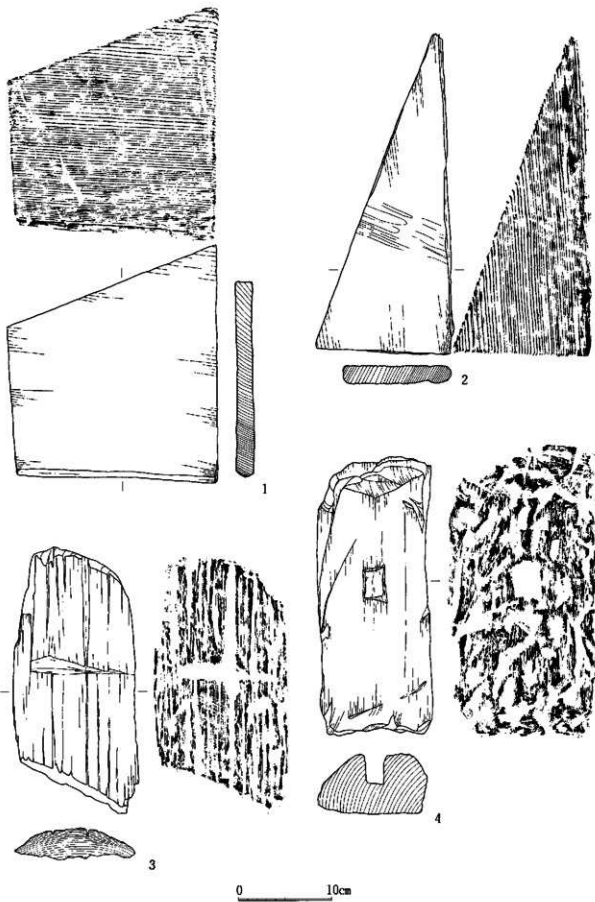
第38圖 柱穴1・2出土礎板実測図(1 柱穴1、2~4 柱穴2、縮尺1/4)



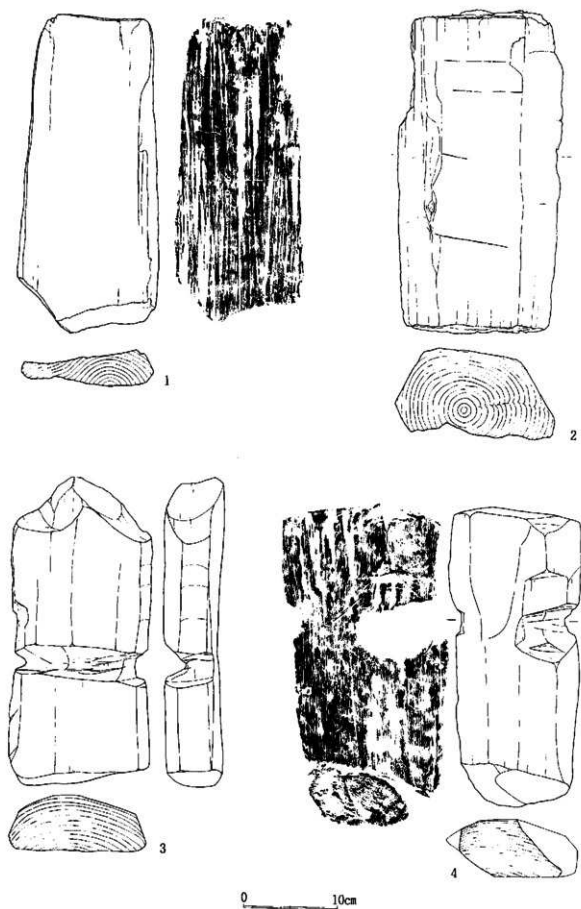
第39圖 柱穴4・5出土硬板突洞圖(1~3 柱穴4、4 柱穴5、縮尺1/4)



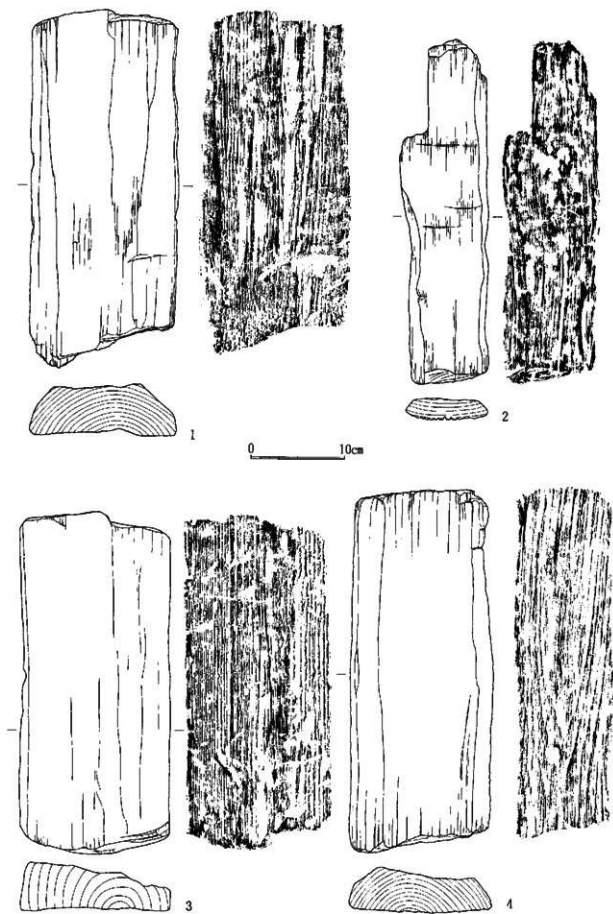
第40圖 柱穴3・6・24出土柱痕・礎板実測網(1・2 柱穴3、3・4 柱穴6、5 柱穴24、縮尺1/4)



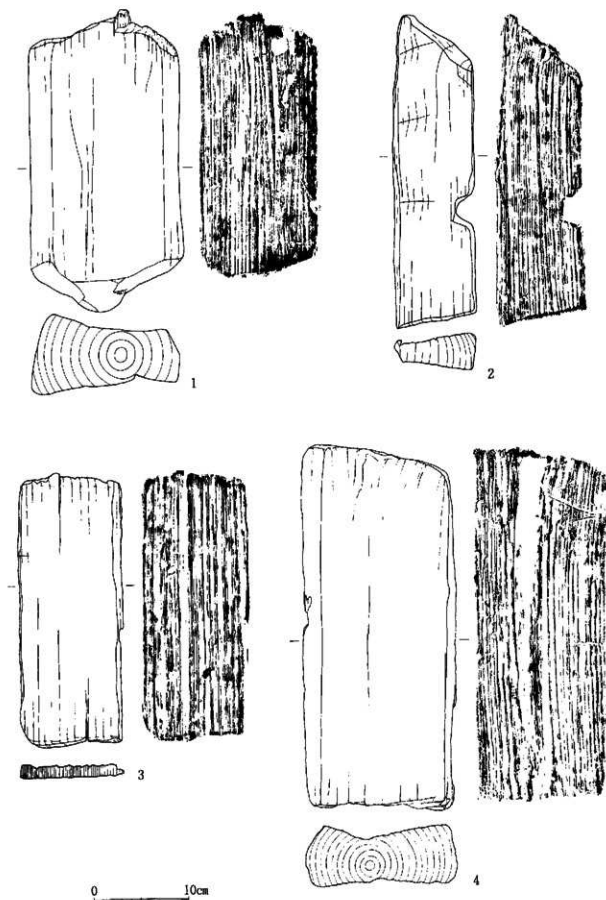
第41圖 柱穴6出土礎板実測図(縮尺 1/4)



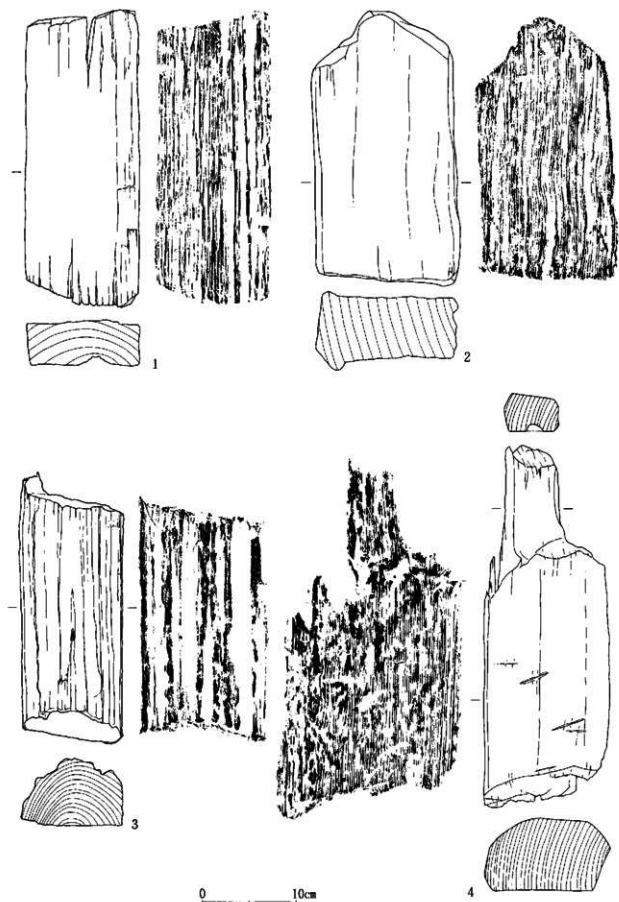
第42圖 柱穴7～9出土礎板実測図（1・2 柱穴7、3 柱穴8、4 柱穴9、縮尺1/4）



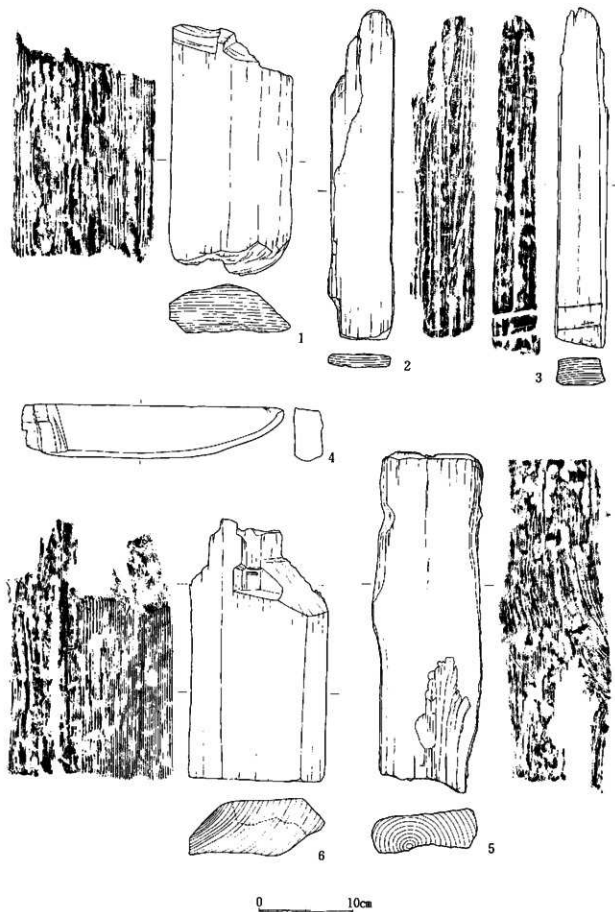
第43圖 柱穴10出土木板實測圖 (縮尺 1/4)



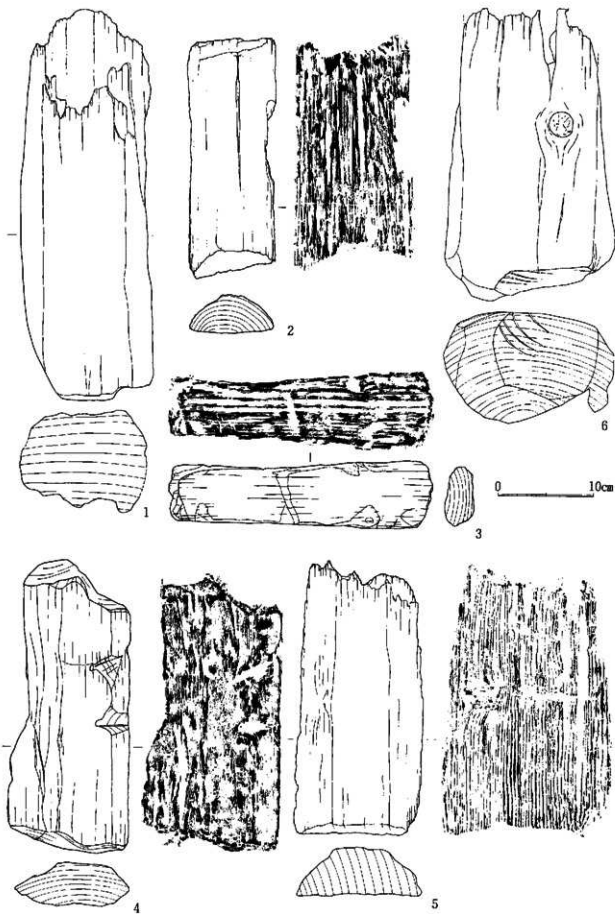
第44圖 柱穴11~13出土礎板実測図(1 柱穴11, 2 柱穴12, 3・4 柱穴13, 縮尺1/4)



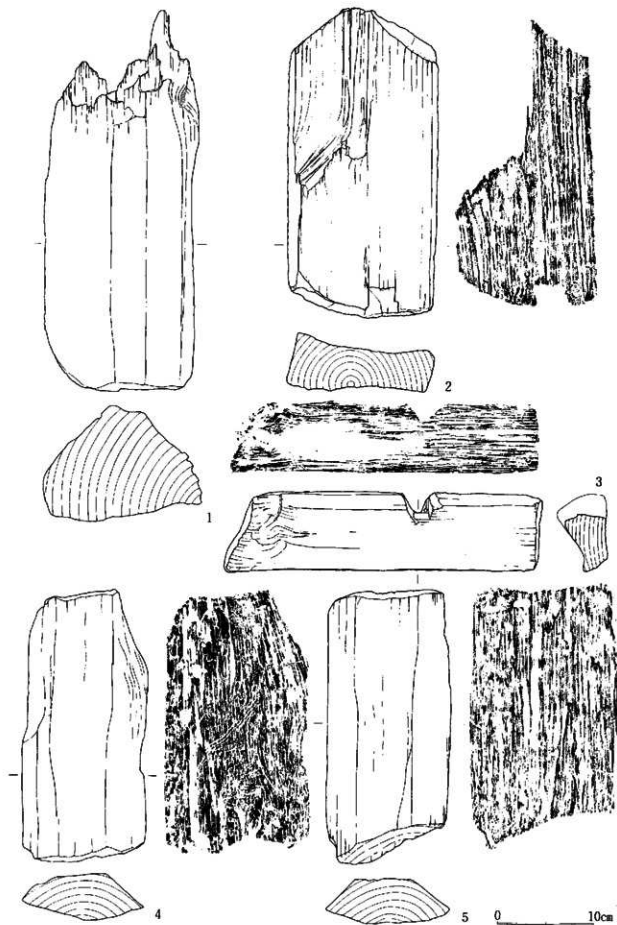
第45图 柱穴14~17出土柱底·礎板实测图 (1 柱穴14, 2 柱穴15, 3 柱穴16, 4 柱穴17, 缩尺 1/4)



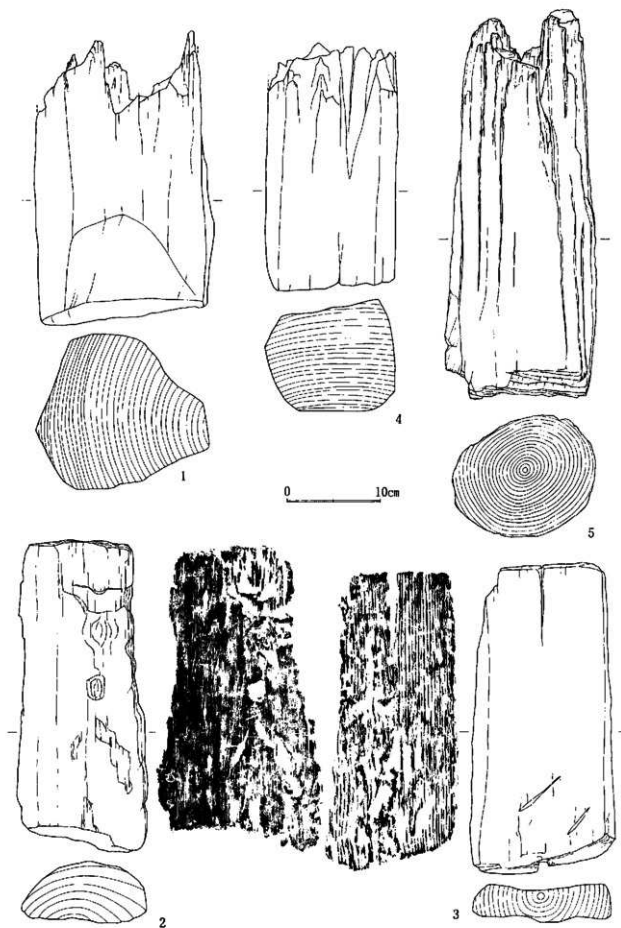
第46圖 柱穴18~20出土礎板突面圖(1~4 柱穴18、5 柱穴19、6 柱穴20、縮尺1/4)



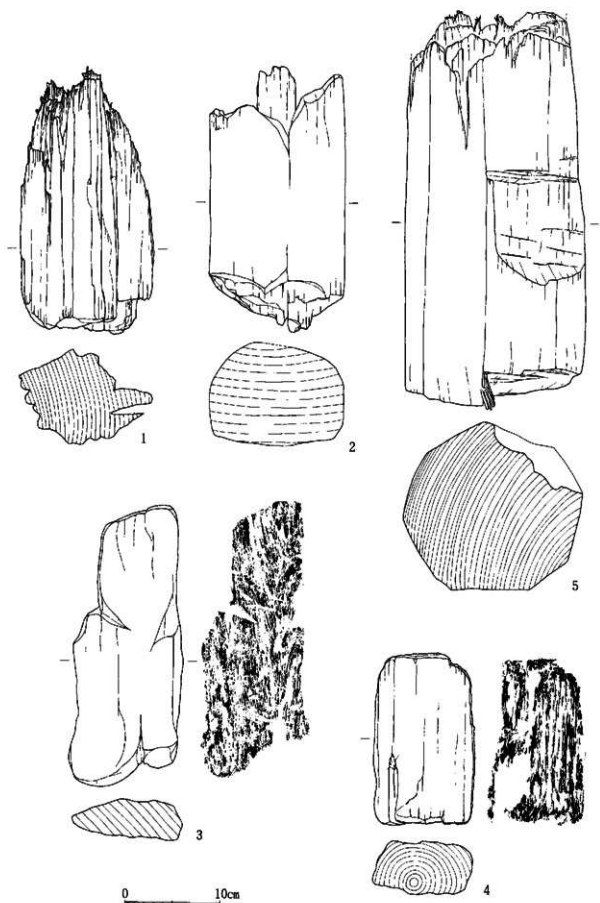
第47图 柱穴21~23出土柱痕·礎板実測图 (1 柱穴21、2~5 柱穴22、6 柱穴23、縮尺1/4)



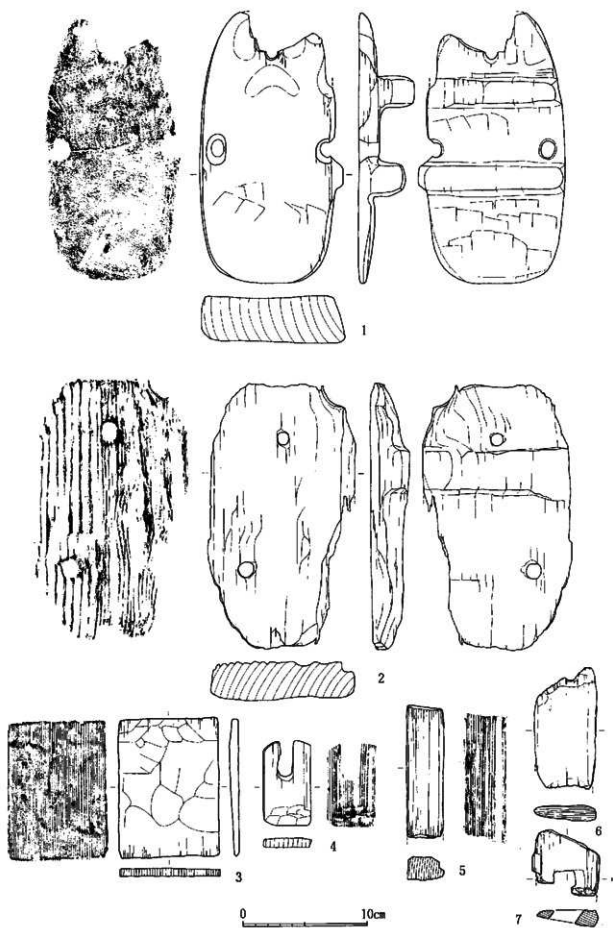
第48圖 柱穴22出土柱痕・礎板実測図(縮尺 1/4)



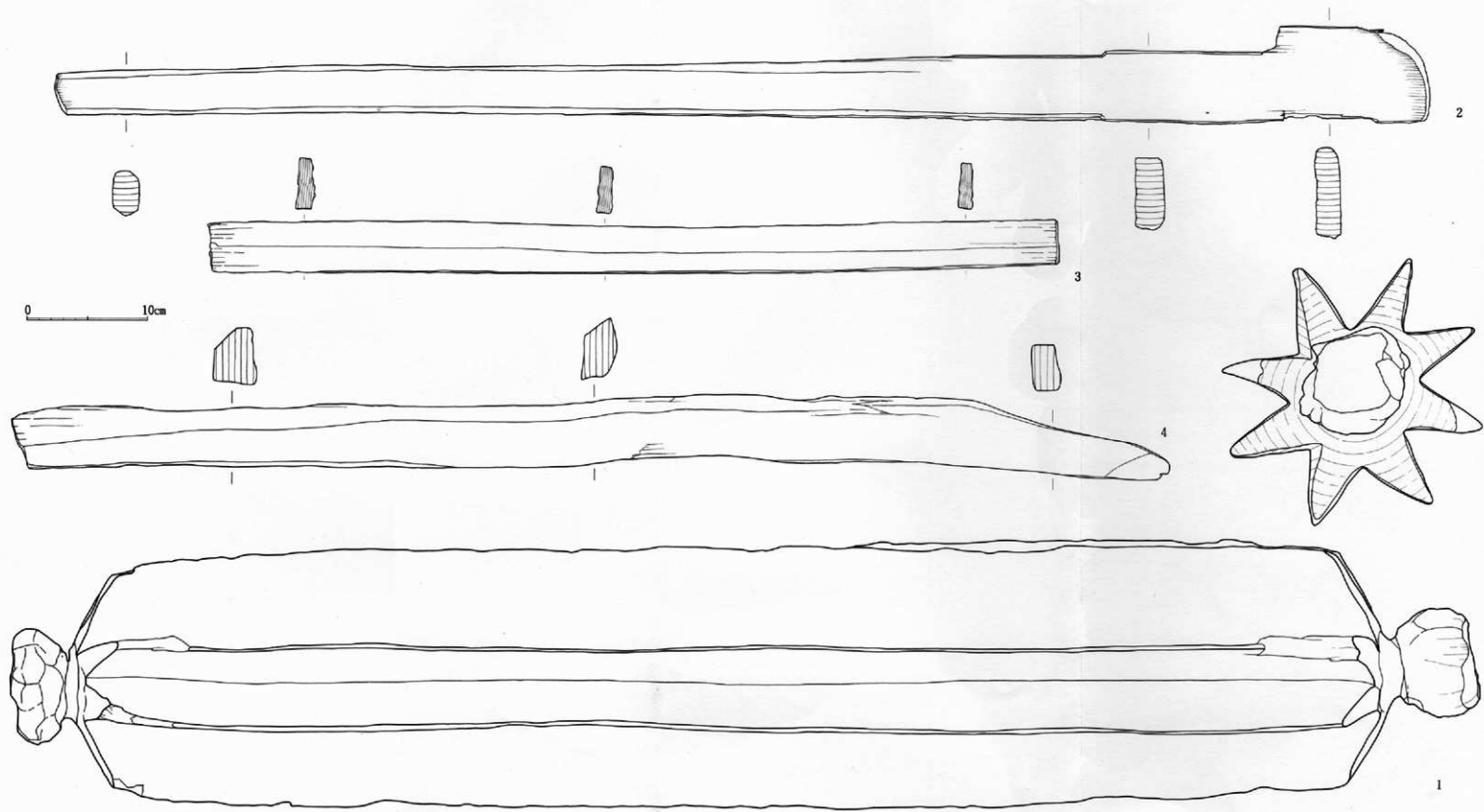
第49圖 柱穴25~27出土柱痕・礎板突測圖(1~3 柱穴25、4 柱穴26、5 柱穴27、縮尺1/4)



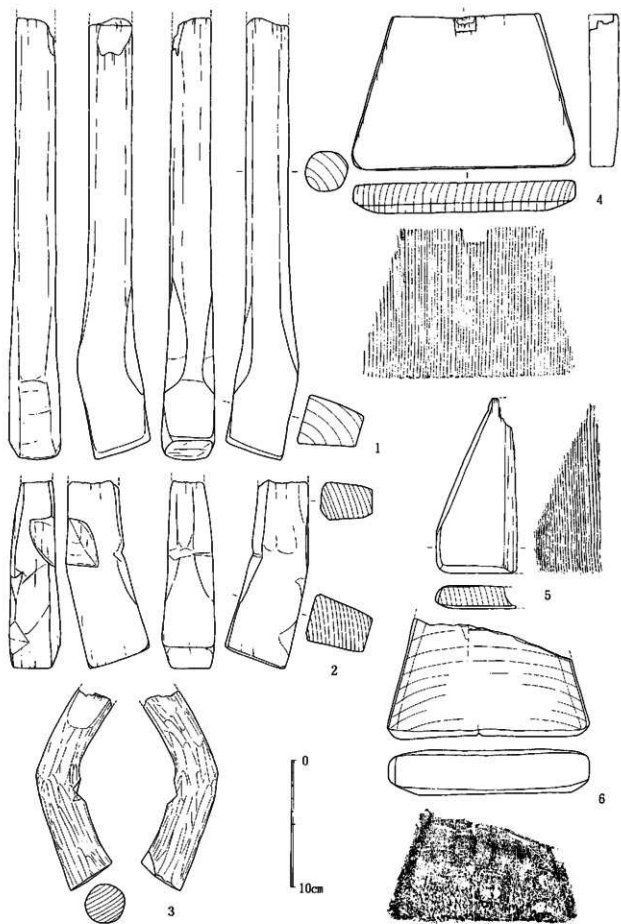
第50圖 柱穴28~30出土柱痕・礎板実測図（1 柱穴28、2 柱穴29、3・4 柱穴30、5 柱穴31、縮尺 1/4）



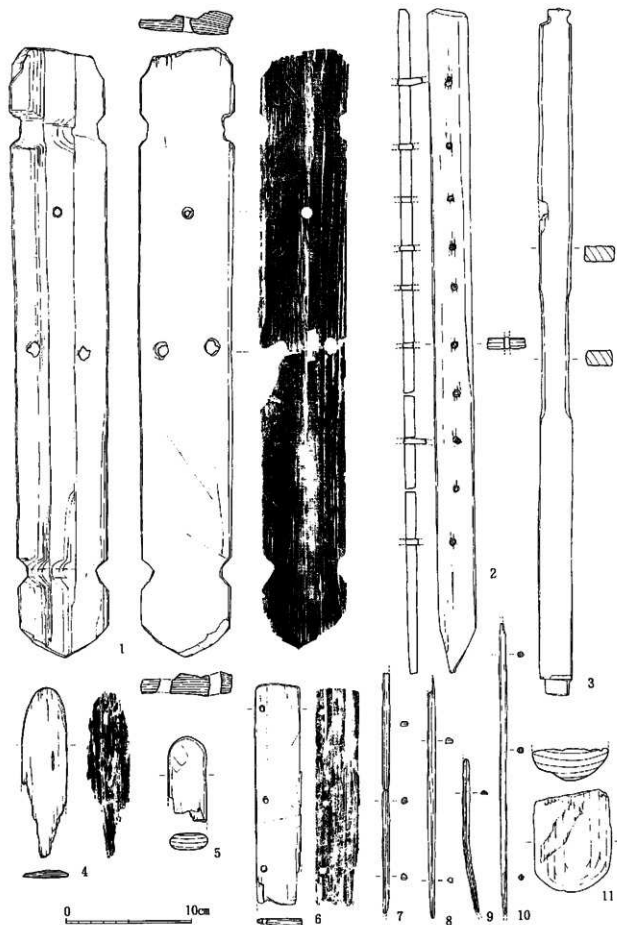
第52圖 第101号土坑出土木製品実測圖2 (縮尺 1/3)



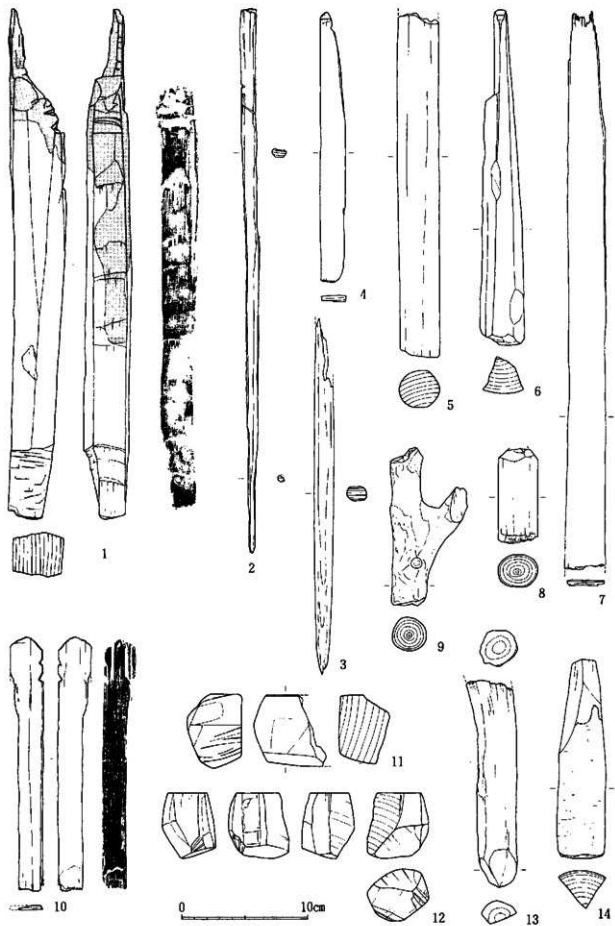
第51图 第101号土坑出土木製品実測图1 (縮尺 1/3)



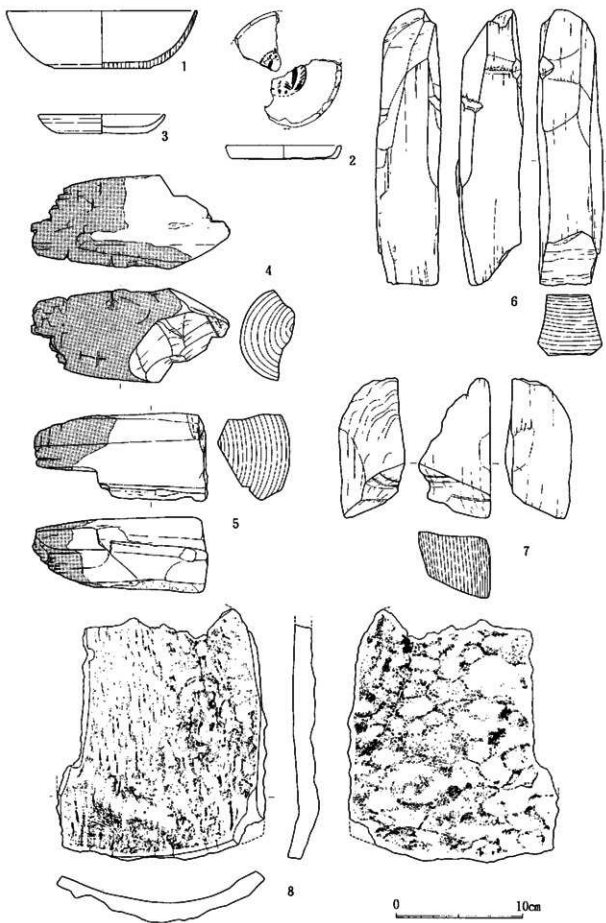
第53圖 第101号土坑山土木製品実測図3 (縮尺 1/3)



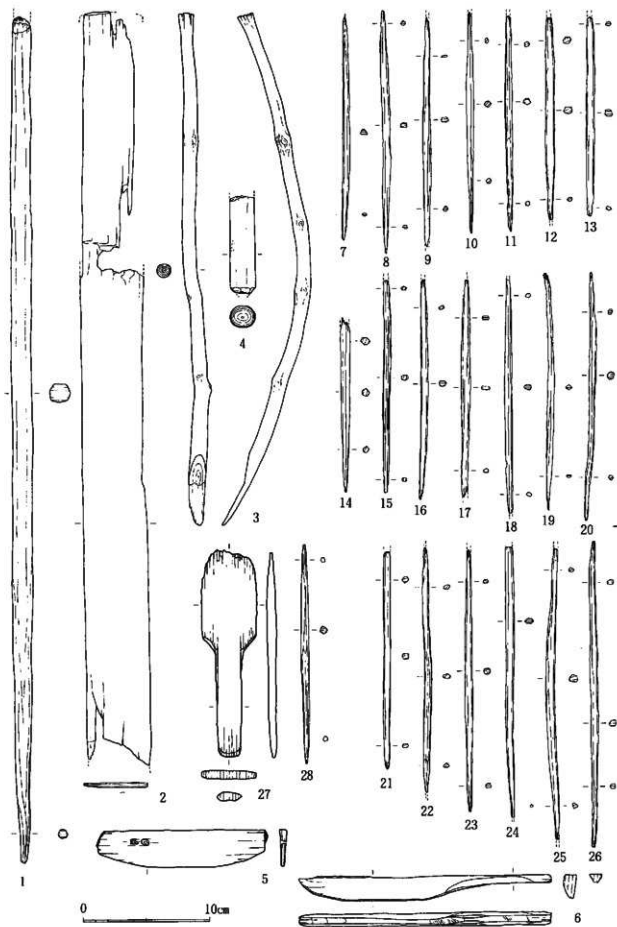
第54图 第101号土坑出土木製品类例图4 (缩尺 1/3)



第55圖 第101号土坑出土木製品実測圖5 (縮尺 1/3)

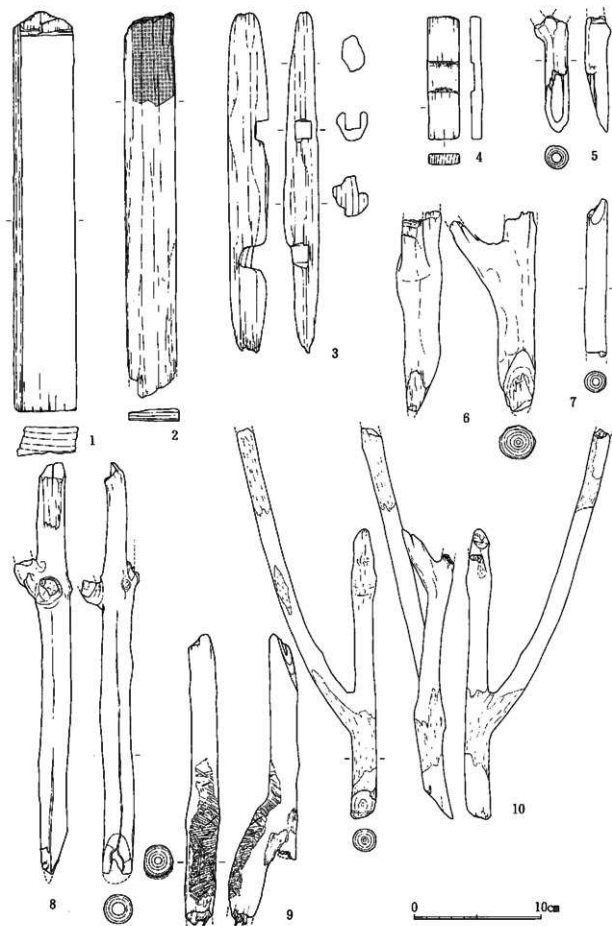


第56图 漆器·第101号土坑出土木製品实测图(缩尺 1/3)



第57图 第102号土坑·第1号溝·第20号溝出土木製品大要圖

(1~6 第102号土坑、7~26 第1号溝、27·28 第20号溝、縮尺1/3)



第58图 第1号竖穴出土木製品実測图(縮尺 1/3)

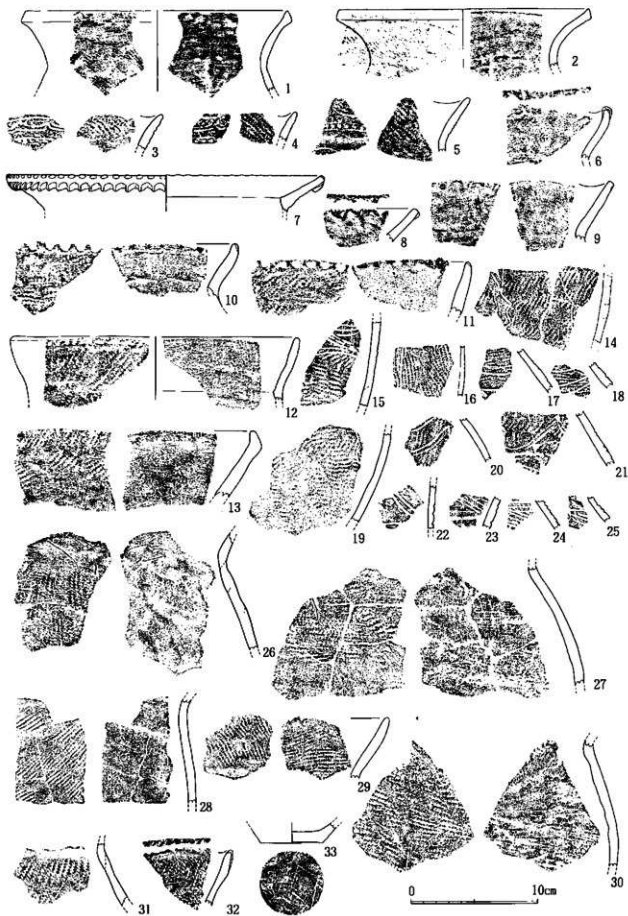
第5章 包含層出土遺物

(第6表、第59～77図、図版31～42)

第1節 弥生時代の遺物

1は口径20.8cm、頸部径17.4cmを測る壺で、縄文(RL)を持つ。口唇部外側に粘土を貼付け、受口状を呈している。内面はヘラでヨコナデされ、色調は浅黄褐色である。2は口径19.6cm、頸部径14.8cmを測り、縄文(RL)を持ち、色調は浅黄褐色である。3～6波状口縁を持つ甕である。3は地文に縄文(RL)を持つ。口縁に沿った沈線と2条沈線間内の刺突文との間にヘラで2条の弧線文が施され、色調はにぶい褐色である。4は縄文(RL)を地文に持ち、文様と色調は3と同様である。5は口縁部下半に2条沈線間内の刺突文を持ち、その上は縄文(RL)と2条の連弧文が施されている。頸部には1条の連弧文が向かいあって施されている。3～5は口縁部内面にも縄文が施される。6は表面が荒れているが、外面には縄文(LR)を持つ。波頂部に突起を持ち、その中央に刻みを入れ、口唇部外面を指で凹ませた後にヘラで刻みを入れている。色調は褐灰色である。7は内外面ともナデ調整である。口唇部先端を上へ擠みあげ、刻みを入れている。外面には粘土を貼付け、下端には刻みを入れている。色調は褐灰色である。8・9は同一個体であり、色調は浅黄褐色である。ナデ調整であり、口唇部外面を指で凹ませて、余った粘土を突起状に貼付している。凹んだ部分にはヘラによる刻みを持つ。9は粘土の貼付はない。10は口唇部を指で凹ませた後にヘラ先か爪先で刺突を入れている。縄文(LR)を持ち、色調は褐色である。11は縄文(LR)を持ち、口唇部外面には刻目が施され、左隈には突起が付く。突起内面の先端には上からの刺突を持つ。色調はにぶい褐色である。12は口径22.4cm、頸部径20.2cmを測り、縄文(LR)を持ち、色調はにぶい褐色である。13はやや厚みを持つ土器であり、他の土器とは異質であり、新崎式の粗製深鉢の可能性が高い。色調は褐色で、縄文(LR)を持つ。14は縄文(LR)を持ち、V字の先に円形の刺突を持つ。V字は右側は左下がり、左側は右下がりの沈線が2本施されている。V字の下は縦長の鋸歯文が施されている。15は縄文(LR)を持ち、弧線文が施されている。中央の2条の弧線文は押しで施されている。14・15・19は同一個体と思われる。色調は暗褐色である。16は裏面が割離している。縄文(LR)を持ち、2条の平行沈線文が走り、色調は暗褐色である。17・18は円形ないし渦巻状の文様を持ち、色調もにぶい褐色であるが、縄文は17はLR、18はRLと異なる。19は縄文(LR)を持ち、縦長の鋸歯文を持つ。20は縄文(RL)を持ち、弧線文が連続している。色調は浅黄褐色である。21は縄文(LR)を持ち、2条の大きな連弧文ないし波状文が施され、波頂部には刺突を持つ。下半部には2条の押し文が施されている。色調は灰褐色である。22は2条の連弧文が施され、色調は淡い灰褐色である。23は地文に縄文(LR)を持ち、下半には2条の押し沈線文を持つ。色調は灰褐色である。24は縄文を持ち、重菱形文が施されている。25も縄文を持ち、重菱形文が施されている。26は縄文(LR)を持ち、内面は輪積み痕を持つが、ナデは丁寧である。色調はにぶい褐色である。27は肩部上半に縄文(LR)を持ち、内面下半はケズリである。色調は灰褐色である。28は縄文(LR)を持つ。29は粗製甕の口縁部であり、内外面とも縄文(RL)を持ち、頸部をナデている。色調は明赤褐色である。30外面は縄文(LR)を施し、下半には煤が付着、内面は上半ナデ、下半ケズリである。色調は灰褐色である。31は縄文(LR)を持ち、頸部は無文である。32は波状口縁であり、波頂部のほうが厚い。外面と口唇部に縄文(LR)を持つ。色調は明褐灰色である。33は口径5cmを測り、色調は褐色である。

まとめ この一群は13と33は不明確であるが、天王山式系土器であると思われる。特徴は、壺では口唇部に幅広い面を持つものがある。甕では、精製(文様を持つもの)と粗製がある。精製は波状口縁に沿って、沈線を引き、交互刺突文が退化したと思われる文様(2条沈線間内の刺突文)と連続した弧線文を持ち、口縁内面には縄文を施している。交互刺突文は1例(図版31-34)だけ存在する。粗製は口縁部に外面に縄文を持つものと無文



第59圖 包含層出土土器實測圖1 (縮尺 1/3)

のものがある。ともに口唇部外面に指頭による刻目を持つが、後者はヘラ先による刺突文を加え、口唇外面に突帯を持つ。胴部外面には縄文を持ち、頸部を無文とするものが殆どである。内面は上半がナデ調整、下半はケズリ調整がなされている。縄文は全体の3分の2がLRである。

第2節 古墳時代の遺物

1. 土師器の器種分類、形式分類

高杯形土器 A類(第60図1~5)はいわゆる東海系の高杯である。型式差はさほどなく口径22~24cmの円形品が11立つ。口縁部は内湾ぎみに大きく開き、端部には丸みを帯びた面取りを行う。杯底部外面の縁は明瞭である。調整はミガキを主とした丁寧なものが多く、赤彩品の比率が高い。脚部の透しは通常3孔である。B類(第60図18~21、第61図1~4)はいわゆる布留系に相型あるものを一括した。口径20cmを越える大型品や破の部分に突帯を持つものはBⅡ類としておく。BⅠ類は口径16~17cm前後。杯部の屈曲は内外ともあまく、脚部は低脚化して中ぶくれの形状を示す。調整はミガキないしはナデであるがA類に比べて雑である。赤彩品はない。BⅡ類の調整等はBⅠ類に準ずる。第60図20は杯部内面黒色化の可能性がある。C類(第34図9)は杯部碗形のもので出土例は少ない。

小型高杯形土器 (第34図18、第60図6、7)。脚部が発達して大きく開くのが特徴で、調整はミガキ。透しは4孔が一般的であるが、7は3孔2段である。

中型器台形土器 (第60図8)。本例は杯部に5孔ないしは、2孔一対4孔の透しをもつ。作り・調整とも丁寧で赤彩を施す。出土例は少ない。

小型器台形土器 A類(第34図10)は口縁部に面をもつもので、本例は貫通孔を持たない。B類(第60図10)は口縁部が有段のもの、C類(第60図11~15)内湾ぎみの器受部をもち、口縁部を丸くおさめるもの。量が多く型式差がある。

小型鉢形土器 A類(第61図7・9)は有段口縁をもつもの。底部は小さな平底とみられる。B類(第61図8)は畿内にみられるような二段屈曲の丸底鉢。C類(第61図14)は半球形の体部で口縁部に面を持つもの。D類(第61図5)は半球形の体部から口縁部が直線的に開くもので、出土例はB類とともに僅少である。E類(第61図6)は小さな平底をもち、短かい口縁部が外開きに折れるもので、本例は粗製である。第61図10、11はいわゆる小型丸底鉢形土器で、10は体部が極端に小形化、仮器化したものである。2点とも底部は平底を作る。

鉢形土器 (第61図18、19)。内湾する口縁部で深身の体部を持つ。内面は細かいハケの後、ナデによって平滑に仕上げられている。

碗形土器 A類(第61図16、17)は不定形なものを一括した。B類(第61図12)は碗形で口縁部に面を作る。内外面ともナデ、口縁部はヨコナデで外面にやや段を持つ。C類(第61図13)は口縁部を丸くおさめるもの。類例は多く、型式差がかなりある。13は外面ハケ、内面ナデで口縁部はヨコナデ。D類(第61図15)は口縁部を外反させるもの。15は精製品、深身の腰の張る体部で、内外面ともミガキ調整を行う。本遺跡ではD類の出土例は僅かである。

直口壺形土器 A類(第61図23)は口縁部が直線的にのび、下方に僅かな段をもって頸部を作り出すもの。精製品である。B類(第61図24)はA類と類似した特徴をもつが口頸部径の大きいもの。C類(第61図25~27)はややどぶくれ扁球形の体部に内湾する口頸部をもつもの。25は底部に小さな平底を作り出す。

小型丸底壺形土器 (第61図20)。調整はやや雑である。

手捏土器 (第61図21)。

壺形土器1 小形品。A類(第62図8、9)は有段口縁のもの。図化したものはともに端部に外植する面をと

る。B類（第62図10、11）は口頸部が外反し、外面みに粘土を貼り付けて口縁帯を作り出し有段化されているもの。C類（第62図12）は筒状の頸部をもつ二重口縁のもの。本法量のものでは例は少ない。

壺形土器 2 中壺品。B類（第34図11、第62図1）はくの字に外反する口頸部に断面三角形の口縁帯をもつ東海西部系とみられるものを一括した。口縁帯は、11は平行線と山形の波状文、1は3木一単位の棒状浮文で加飾する。C類（第62図2、4）は二重口縁壺の影響下にあるものをまとめた。

甕形土器 1 甕形土器の法量は大きめに3つに分けられるとみられ、口径・器高15cm前後の小形品を1、口径18cm、器高20～30cm前後の中形品を2、口径25cm前後の大形品を3としておく。

A類（第34図16）は在地系の有段口縁甕。B類（第62図15、17……以下代表的なものをあげる）はくの字に外反する口縁部をもつもので、端部は上外方からの面取りを行って主に下方へふくらむ。頸部と体部の境は丸味をもってくびれるものが多い。体部内面はナデが一般的である。C類（第62図3）は口縁端部にヨコナデによる面をもち、先端をつまみ上げるもの。肩が張らず、胴部最大径は口径は越えない程度である。体部内面はナデが多い。底部はB類とともに小さな平底である。D類（第62図14）は受口状を呈するもの。本例は典型的ではないがなんらかの影響下にあるものとみられる。F類（第63図6、7）は口縁端部が内面肥厚する布留系のもの。H類（第64図3）はくの字に外反し、端部を丸くおさる口縁部をもつもの。体部形態、体部内外面の調整、底部形態など不明な部分が多く後述のI・J類との形式差や個々の型式差の峻別は難しい。少々概念的にならざるをえないが、H類は、口縁部中程がやや屈曲、先細りぎみに外反し、体部は中位に最大径をおき、底部は尖がりぎみの丸底ないしは小さな平底をもつものとしておく。体部内面はハケ・ナデで、器肉は厚くはない。I類（第64図6）は全般的に肉厚な作りで、粘土組の痕跡を残すものが多い。口縁部は立ちぎみで端部が小さく外反する。体部はJ類に比べて肩の張りがあり丸みをもつ。外面は木目の粗いハケで、内面はケズリないしはナデとする。底部は肉厚な丸底。J類（第64図4）は口縁部が厚手で先細りするもので、外反せず、外傾の度合も弱い。肩は張らず寸胴で、内外面とも粗いハケを施す。粘土組の痕跡を残す雑な作りのものが目立つ。

甕形土器 2 B類（第63図9）、C類（第63図13）、D類（第34図13）、F類（第63図15）、H類（第64図8）、I類（第65図1）、J類（第64図12）がある。その他、G類（第63図5）として口縁部が丸みを帯びて受口状となるものがあり、D類とは区別しておきたい。なお、A類はごく僅かしかない。

甕形土器 3 いわゆる山陰系のE類（第62図7）のみである。

小型甕形土器（第65図4）。口径・器高約10cmの小型品。形態手法は甕形土器I・J類に準ずる。

甕形土器 第63図8は器上部が不明であるが、有孔鉢形土器ないしは第65図5とともに甕形土器の底部穿孔品の可能性がある。A類（第65図6、7）は単孔式、B類（第65図8）は多孔式のもの。

カマド形土器 脚部、底部、頸部の破片がある（第66図1、2）。

2. 土師器の編年観

ここで扱う本道跡の土師器は、古墳時代初頭～同後期に及ぶ時期幅のある包含層出土品である。先に形式分類した上器群や抽出した個別型式の土師器の編年的な対比の作業に際して、能登地域と対象としたような上器編年は現在のところない。北陸地域での土師器編年としては、その大綱を定め、研究の方法と方向性を示した吉岡編年（吉岡1967）、加賀地域を対象とし、その後の累積資料をもとに形式的検討と器種構成の把握を通してより細かな「型式区分」を提示した田嶋編年（田嶋1986、同1987）などがある。ともに土師器の編年作業を通して、地域社会の歴史的考察に言及したものであり、当然のことながら、地域差の問題についても、個々の土器型式や様式ごとに論述されている。したがって、能登地域の資料においても先学の研究に照らして、大枠での編年の位置付けは可能と言える。しかし、今後の能登地域での土師器編年の策定に向けて、在地出土土器群の特性をより明らかにしていくという意味で、それらとの対比により位置付けを行っていきたい。

能登地域の資料は近年急激に増加、遺構出土品をもとにした型式学的研究が可能な段階にあってその実践が待たれている。ここではそれらのうち幾つかの土器群を取り上げて先に分類した形式や個別型式の対比を行っているが、取り上げた土器群は型式的に検討、整理したものでないことをあらかじめこわっておきたい。

- a. 竹生野遺跡第1次大型土坑群 大型土坑の出土品は、4・8号土坑例の古相の一群と、26・28号土坑例の新相の一群に2大別できる。両者の違いは多岐にわたるが、高杯形土器では、杯部の大きな中製品から、台付鉢形土器をも言える矮小化した有段鉢小型品へ、後者での中型器台の欠落・装飾器台形土器の存在・中型鉢（有段鉢）形土器の欠落、大型（把手付）鉢形土器の欠落、甕形土器では、器種（法量）は大・中・小・鉢形と変化ないが、中・小型を中心に新形式（本稿B類）の出現、在来形式（同A類）の型式変化、（中型甕形土器は後者に欠落するため詳細は不明であるが、形式の消長—長頸壺の消滅などが考えられる）があげられる。新段階に併行すると考える3号壺穴住居跡では、高杯形土器など一部でいわゆる外来系の形式が共存している。
- b. 徳前C遺跡第2次74~76ライン溝状遺構（第2群土器） 高杯形土器はA類及びその影響を受けたものが主体を占める。小型器台形土器が盛行し、小型鉢形土器は定量ある。中型甕形土器は在来形式の他に二重口縁のC類がある。精製小（中）型壺類では、在来の有段口縁の小型甕形土器、いわゆる台付装飾器形土器、外来形式の直口甕形土器がある。甕形土器は、B類が約7~8割と主体を占め、その他型式変化した在来系のA類がある。外来系としては、受口状のD類が1点ある。甕形土器では特定形式への集中度が著しい。全体としては甕形土器を主体とした在来系土器（B類を仮にそう考えておく）と精製土器群を主体とした外来系土器で構成された組成といえる。
- c. 宿向山遺跡5・6・8・14号住 これらの遺構出土品はほとんどが住居廃絶後の投棄資料である。やや時期幅を含んだものとしての組成を整理したい。高杯形土器はA類のみで、徳前C遺跡のような形態上のバリエーションは少ないようである。小型器台形土器があり、小型鉢形土器は多様なものが定量ある（8号住上層のX形の小型器台と小型丸底鉢形土器は後出のものともみられ保留しておく）。14号住27は外来形式とみられる。甕形土器は中製品が二重口縁のC類、くの字口縁のD類、小形品はA類、（C類）がある。甕形土器はB類、C類、E類、II類、K類（14号住3、系譜は保留）がある。主体はC類で、口縁部先端を上方をつまみあげるもの（C₁）と上方向へのびるもの（C₂）とに分かれ、ともに外面には面をもつ。頸部と肩部の境が明瞭にくびれることと、口縁端部のつまみ出し処理の点でB類とは異なっている。この特徴は中型の壺D類にも共通する。E類は量は少ないが、小型壺のほか中型品らしいものもある。H類は極僅かであるが形式的に確立したものかとは分らない。
- d. 竹生野遺跡第2次21号壺穴 壺穴状遺構上層への投棄による土器群とみられる。高杯形土器A類、中型甕形土器C類がある。甕形土器はA類、B類、（B類?）があり、B類が多い。B類は大型土坑群新相のものに比べて若干口縁部が長くなり、先端をつまみあげる傾向がある。宿向山遺跡にみられるC類との中間的形態をもつものもある。
- e. 竹生野遺跡第2次6号住 壺穴住居の床面及び最下層出土品を主体とした土器群。高杯形土器はA類のほか、裾でハの字に開き円孔をもたないB類に近いもの（B₂）、大きく裾が開き横ミガキを施すもの（B₃）がある。小型精製土器群では小型器台形土器や小型鉢形土器などがある。中型甕形土器はC類とみられるものが上坑2から出土している。甕形土器はII類、C類、（B類）がある。その他、A類の退化型式とみられる小片が床面から、E類（大型甕）の小片が覆土から出土している。また能登では現在唯一とみられる吉備系の甕が床面から出土している。B・C類は口縁部の差が不明瞭となり、体部は球胴化し、平底も形骸化したものとなっている。
- f. 竹生野遺跡第2次8号住 上層への投棄土器群とみられ、高杯形土器A類?、小型器台形土器、小型丸底鉢形土器、甕形土器B類?、H類がある。小型丸底鉢、甕形土器H類の底部は丸底であるが、備かな平坦面を作り出す特徴がある。
- g. 宿向山遺跡B地区 壺穴住居、溝、土坑などの出土品で新古の2相の土器群に分けることができる。まず新

相の土器群は、型的に安定した高杯形土器B類、小型丸底鉢形土器、(小型器台形土器)、精製小型壺形土器D類(『報告書』O・P類)、中型壺形土器C類、甕形土器H類(その他、『報告書』のI類、J類)がある。15・16号住床面、SX-04などの土器群からなる。

古相は、高杯形土器ではB類でも型的に古いもの(『報告書』G類)、A類の名残をもつものがある。小型土器群は、小型器台・小型丸底鉢・小型壺形土器の他、バラエティーのある小型鉢形土器があって、調整は丁寧さを保ち、赤彩品も少量存在する。中型壺形土器はC類、甕形土器は、『報告書』のF類(本稿B・C・G類)、G類、H類などがある。廃棄土器群が主体となるが、18号住、SX-03、SD-31・32などがあげられる。

h. 金丸宮地遺跡A群土器 吉岡氏により土師器第4様式の標式とされた土器群である。高杯形土器はBⅠ類、BⅡ類、碗形土器D類、手捏土器、小型壺(埴)形土器(甕形土器)、長頸壺(埴)形土器、中型壺形土器C類、壺形土器I類ほか、などがある。本土器群については、手捏土器・碗形土器と小型壺(埴)形土器の共存関係をめぐって、出土状態の再検討やその後の資料によって、2期に分けて捉える意見(山崎1987)がある。

i. 高田遺跡祭祀遺構土器 四柳氏によって「高田式」として整理されたもの(四柳1983)である。高杯形土器B類、碗形土器C・D類、台付碗(D類)形土器、鉢形土器、手捏土器、甕形土器、無頸・短頸・長頸壺形土器、壺形土器I・J類、甕形土器、カマド形土器などがあり、須恵器はTK47型式期のものが伴う。碗形土器は大半が「赤色土器」で「黒色土器」はごく僅かとされている。

j. 竹生野遺跡第2次14号住 床面、ピット、壁溝内の資料としては、高杯形土器(黒色)、大型台付碗(E類)形土器(黒色)、壺形土器I類があり、須恵器は甕、無蓋高杯があってMT15型式期とみられる。その他、覆上で共存は不明であるが、碗形土器C類(黒色)、E類(口縁部が大きく外反して浅身の杯部をもつ、無蓋高杯杯部に類似した形態のもの、黒色)がある。

以上、とりあげた土器群について、編年的な整理を行うにあたっては、遺構の性格をふまえた共存関係の検証や型式学的検討の作業を十分に行う必要がある。しかし、ここでは本遺跡出土土器の大まかな編年的対比を旨とすこととし、土器群の新古の様相の配列をもとにした整理にとどめておく。

I期 高杯形土器A類、小型高杯形土器、小型器台形土器、小型鉢形土器、直口壺形土器、壺形土器B～D類、壺形土器B・C類など、この時期に新たに出現し定量化したものが盛行する段階。a、b、dの資料の示される前半期は、高杯形土器ではA類が出現し、在来の型式(竹生野第1次4号土坑26・27)は消滅するか極端に矮小化する。加賀地域の主要形式の有段鉢形高杯も同様の型式変化(杯・脚部の矮小化)を示し、この段階には能登でも裝飾器台とともに比較的出土例が多い。c、eの資料に示される後半期には、在来形、有段鉢形とも消滅する。壺形土器では、前半期にはB類が主体となって、型式変化したA類と共存する(相対的にA類は減少の方向をたどる)が後半期には、B類にある影響が加わって派生成立したとみられるC類が主体を占め、A類は基本的には消滅する。後半期は、外来形式流入の点ではひとつの画期で、C類成立の要因になったとみられる畿内系の壺形土器(タタキを持つ庄内期の系統のもの)や壺形土器D類、山陰系的大型壺形土器E類、吉備系の壺形土器、近江系の壺形土器J類などがある。II期に普遍化する壺形土器H類もこの段階に出現して量は少ないが存在する。小型鉢形土器は宿向114号住や竹生野2次6号住のような碗形のものが出現する。また、後者では高杯形土器で、B₁、B₂といった新たなものが出現する。

II期 I期のI器種が複数形式で構成される多様なあり方が整理され、器種が明確化する。初期の段階とみられるgの古相資料では、壺形土器はII類、壺形土器はC類、高杯形土器はB類(型的に古いもの)、と各器種で主体的な形式が確立するが、依然としてI期の系譜を引くものも認めうる。g新相土器群では個別説明の項で述べたように各器種・形式が整理されるが、ここでの大きな変化のひとつとして、高杯形土器が定式化するとともに

に相対的に量が増え、逆に小型鉢形土器は小型丸底鉢形といった仮器的なものに集約されて認められるだけとなり、ほとんど姿を消していく。この動きは、小型丸底鉢形土器の祖型が出現し、小型鉢そのものが多様化したⅠ後半期にすでに始まったもの言え、この段階で確立したと考えられる。Ⅰ前期に盛行した精製土器等の赤彩は、Ⅰ後期に衰退し、Ⅱ期にはほとんど認められなくなる。

Ⅲ期 新たな土器様式が展開する両期で、hのほか、倉垣遺跡大溝の資料などがある。食膳具類では大型高杯の出現、碗形土器A～D類の出現が特色としてあげられ、祭祀用？土器として埴形の土器、手づくね土器が盛行する。その他、甕形土器ではⅠ類が主要形式となり、壺形土器はC類が認められる。須恵器の共伴が始まり（中村畑遺跡、倉垣遺跡）、甕形土器の出現にみられるように、大陸系の新たな土器様式が導入された段階である。須恵器ではTK23型式期以前が併行する。

Ⅳ期 須恵器在地窯が存在し、集落に一定量の製品の普及が認められる段階で、i、jの資料が本期に該当する。七器組成を検討できる資料はないが、食膳具・小型貯蔵具・大型貯蔵具などで土師器、須恵器相互に器種を共有するようなあり方が考えられる。食膳具類では十師器碗形土器、須恵器蓋杯の普及により、土師器高杯形土器は急減する。碗形土器ではE類が新たに出現する。黒色土器の出現も本期である。須恵器はTK47～MT15型式期が併行する。

3. 土師器の編年的位置付け

高杯形土器 第60図1～3は杯部が深身・人形で、後も明瞭なことからA類でもやや占めの型式、Ⅰ期半ば頃のものとする。BⅠ類はⅡ～Ⅳ期、BⅡ類はⅢ期、C類はⅢ～Ⅳ期に位置付けられる。

小型高杯形土器 第60図7の脚部は柱状部が明瞭で高さもあり、裾が大きく開くやや古い特徴を持つことからⅠ前期、6は基部から大きく開き低脚であることや、杯部の峻から立ちあがりか緩やかであることからⅠ後期と考える。

中型器台形土器 高松町二ツ屋遺跡（浜岡・吉岡1962）などⅠ後期に特徴的に器種であるが、いくつかの型式差があり、木土器は人形の緩やかに反外する杯部をもつものである。杯部のたちあがり弱いことからやや後出的な印象を受ける。

小型器台形土器 A・B類はⅠ前期、C類は第60図11・12・13が型的にやや占くⅠ期、他はⅠ後期～Ⅱ期と考える。

小型鉢形土器 A類はⅠ前期、B類はⅠ後期～Ⅱ期、C類はⅢ期、D類はⅠ後期、E類はⅢ期に位置付けられる。小型丸底鉢形土器は、10がⅡ期、11はⅡ期の古い段階のものともみられる。

鉢形土器 全形は不明であるが、作り・調整は第61図6に類似する。bの資料に類品があるが同一様式かはわからない。

碗形土器 A類はⅢ期、B類はⅢ期、C類はⅢ期、D類はⅢ期でも新しい段階かⅣ期の古い段階に位置づけられる。

直口壺形土器 A類はいわゆる台付裝飾壺の系譜下で派生したものとみられ、Ⅰ前期と考える。

そのほかC類はⅡ？～Ⅲ期、B類はC類と似るが、口縁部は有段口縁の変化したものとみられⅠ期のものとみられる。

小形丸底甕形土器 Ⅲ期の特徴的な器種である。

手捏土器 Ⅲ期頃のものか。

壺形土器1 A類は在地系のものでⅠ前期、B・C類はⅠ期に位置付けられる。

壺形土器2 B類はⅠ期、C類は4がⅠ後期、2がⅡ期前後と考える。

甕形土器 1 A類はⅠ前期、B類はⅠ前期、C類はⅠ後期、D類はⅠ前期、F類はⅡ期でも古い段階、H類はⅡ期、I類はⅢ～Ⅳ期、J類はⅣ期と考える。

甕形土器 2 B類はⅠ前期、C類はⅠ後期、D類はⅠ後期、F類はⅡ期の古い段階、G類はⅠ後～Ⅱ期、H類はⅢ～Ⅳ期、I類はⅢ～Ⅳ期、J類はⅣ期と考える。

甕形土器 3 本器種はE類で占められる。第62図5・6はⅠ後期、7はⅡ期と考える。

小型甕形土器 Ⅲ～Ⅳ期。

甕形土器 第63図8はⅠ期を下らない時期、第65図5およびA・B類はⅢ～Ⅳ期と考える。

コマ形土器 Ⅲ～Ⅳ期。

4. 須恵器 (第66図)

古墳時代の須恵器は、個体識別で杯蓋10、蓋杯6、無蓋高杯1、甕3、中型甕2、大型甕1個体が確認できる(杯類は口縁部遺存のもののみで識別)。

杯類はTK47型式(田辺1966)併行のものがほとんどで一部MT15型式期に下るか(4)とみられるものもある。3のみは小片ながら、天井部に間隔の密な回転ヘラケズリを最後まで施した精良品で、保留部分を残すとはいえTK208型式を下るものではないとみられる。無蓋高杯(11)は、口縁部が短く、縁は沈線表現に近くなったもので、脚部は3方透し、カキが入る。MT15型式頃か。甕は3個体があるが、いずれも短頸の小型品で9はTK47型式、10はTK23型式前後と考えられる。甕は第66図12が口縁部にカキ、櫛描波状文を施したものでTK47型式、14は内面同心円文アテ具痕をスリ消したものでは同型式頃とみられる。もう一個体の中型甕も体部は外面がタタキ後一定間隔のカキ、内面アテ具スリ消しではほぼその前後のものともみられる。須恵器は、総体としてはTK23～MT15型式の幅の中でTK47型式併行期、土師器のⅣ期前半のものが主体を占めている。

TK47型式併行期には在地窯として羽咋市柳田ウワノ1号窯(福島1982)があり、須恵器の供給のあり方が問題となる。押水町竹生野遺跡では、TK47～MT15型式期に和泉陶邑窯を中心とした供給から、在地の羽咋窯産を主体とした供給へ転換したことが明らかにされている(木立1988)。本遺跡出土品の胎土の観察では、前地窯との比較から羽咋産と推定できるものが杯類で、蓋が4点(4ほか)、身が3点(8ほか)あり、非在地産(陶邑周辺?)とみられるものは蓋が2点(6ほか)、身が2点(7ほか)ある。他は不明であるが、加賀南部産とみられるものはない。他の器種では、無蓋高杯が不明、(在地?、羽咋窯以外か)甕は2点が非在地産(1点は陶邑周辺)、甕は3点とも在地産?とみられる。

資料数が少なく比率を算定するには至らないが、本遺跡でもTK47型式期、在地窯の出現期には両者の混在したあり方が確認でき、竹生野遺跡同様、羽咋窯の製品が一定量を占めているとみられた。また、両遺跡や矢田遺跡の例(木立1986)などを考えると、能登地域でも拠点的な集落を中心に一定程度は須恵器が普及したとみられ、今後は土師器も含めた組成の検討が必要である。今回、不明としたものの中には在地の最も至近に位置する島屋窯産を含んでいる可能性がある。MT15型式併行期には確実に窯があり(深沢1号窯)、羽咋窯跡群ともに未発見のものを考慮するとTK47～MT15型式期に両地域に産地があった可能性が強く、非在地産も含めた供給圏のあり方が問題となる。本遺跡のTK47型式を主とする包含層資料の中では、非在地産+羽咋産+ α で、 α に島屋窯産が含まれるとしても羽咋産よりも頻度が低いと日されることは興味深い供給関係と言える。また、竹生野遺跡同様、この時期には南加賀地域の能美窯・南加賀窯の製品がほとんど入らないことは、今後の追証を必要とするが、能登地域に普遍化できる可能性がある。南加賀産はMT15型式期には戸水C遺跡(平田ほか1986)10号土坑例にみるごとく、北加賀地域にも主体的に供給しているが、その供給圏は日常品に限ってこれを大きく越えることはなかったと推定している。TK10～TK43型式期の能登地域の須恵器窯の実態は不明確で、消費地の資料も断片的なものがほとんどであることから、その後の展開の究明は今後の課題である。

5. まとめ

本遺跡出土の古墳時代の土器は（コンテナ約20箱）は大半が包含層資料であり、遺構との関係を明らかにできたものは少ないが、遺跡がⅠ期～Ⅳ期までほぼ連続と営まれたことを明らかにできたことは重要である。その間の展開については、ここでは土器量の点から推測せざるをえないが、まずⅠ期、すなわち古墳時代の開始とともに始まり、同期とⅢ期～Ⅳ期前半の2つ時期にピークを向えたことが考えられる。分布は前者が第3・5号溝や第6・7号土坑の位置する1X15Y～2X14Yにかけての地区に集中し、一部3X11Yにも中心をもつ。後者は1X12Y～1X15Y、2X15Yに集中する傾向がある。

古墳時代の当地は、三角縁神獣鏡2面を出土した小田中親王塚古墳をはじめ、小山中亀塚古墳、水白鍋山古墳、小竹ガラボ山古墳と、邑知地溝帯東部における前期後半～後期前半の首長墓域に当たり、集落遺跡はその前面に広がっている（水白A・B遺跡、久江ツカノコシ遺跡、久江サザミヤシキ遺跡）。首長墓の成立基盤をどのような範囲でとらえるかは問題であるが、墓域の前面に展開するこれらの集落遺跡群を、それらと無関係に理解することはできない。首長を擁立した集落群かどうかは別として、古墳群の動向を反映するであろうことは予想できる。このような視点でみるならば、本遺跡がⅢ期に比べ、Ⅲ期からⅣ期にかけて盛期を向えることは、首長墓がⅢ期には小田中付近にあり、Ⅲ期に至って水白付近へ移動することもあながち無縁ではないような気がしてくる。ともあれ古墳群と集落の動向は今後調査報告される久江地区等の遺跡の成果とあわせて考察する必要がある。

第3節 古代の遺物

本遺跡では古代の遺構は未確認で、遺物量も少ない。分布は2X9Y周辺に偏っている。各時期とも断片的な資料にすぎないが、遺跡の存続期間などを知る意味で簡単にふれておきたい。

第66図13は7世紀前半代の大甕口縁部で、押水・高松窯産とみられる。15は器種不明であるが、高台の作りや側底のロクロケズリからみて7世紀末～8世紀前半代のもつと推定できる。胎土は押水・高松窯産ないしは鳥屋窯産である。16は杯BⅡで8世紀末～9世紀前半、鳥屋窯産とみられる。17は杯Aで8世紀半ば～後半頃の羽咋窯産（胎土②）とみられる。18は大甕の体部片で内面に同心円文D類（花塚1984）のタタキ痕をもつ。8世紀後半～9世紀前半代とみられる。鳥屋窯産か。

その他では、7世紀末～8世紀前半代のもつものが6点（杯B蓋1、杯B4、杯A1）あり、鳥屋窯産とみられるものがほとんどである。9世紀半ば頃のもつものは2点（杯蓋）あり、鳥屋窯産とみられる。10世紀に下る杯Aは3点あり、骨片を定量含むもので、羽咋～志賀町付近の窯産か。時期不明の瓶・壺・甕では鳥屋産とみられるものがほとんどである。

古代の土器は、断続的ではあるが7世紀～10世紀まで認められる。しかし土器の量や破片の大きさ・磨耗度からみて、本調査区は住居を伴うような区域ではなかったと推定できる。また少ない資料ながら、7世紀末～9世紀半ば頃までは、ほぼ在地窯一鳥屋窯が主要な土器の供給地であったと考えうる。

引用文献

- 木立雅朗1986 「須恵器」『矢田遺跡』 七尾市教育委員会
 木立雅朗1988 「竹生野遺跡出土須恵器について」『竹生野遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
 田嶋明人1986 「考察一漆町遺跡出土土器の編年的考察一」『漆町遺跡Ⅰ』 石川県立埋蔵文化財センター
 田嶋明人1987 「遺構・遺物の検討」『永町ガマノマガリ遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター

- 田辺昭三1966 『陶器古案址群Ⅰ』 平安学園考古学クラブ
- 花塚信雄1984 「須恵器産類叩き目文について」『金沢市須田・寺中遺跡』 金沢市教育委員会ほか
- 浜岡賢太郎・吉岡康暢1982 「加賀・能登の古式土器器」『古代学研究』第32号 古代学研究会
- 平田天秋ほか1986 『金沢市戸水C遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 福島正実1982 「柳田ウワノ1号窯跡」『柳田タンワリ1号窯跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 吉岡康暢1987 「北陸における土器器の編年」『考古学ジャーナル』6 ニューサイエンス社

参 考 文 献

- 『竹生野遺跡』石川県立埋蔵文化財センター 1988
- 『鹿島町穂前C遺跡(Ⅱ・Ⅲ)』石川県立埋蔵文化財センター 1986
- 『宍向山遺跡』石川県立埋蔵文化財センター 1987
- 『宿東山遺跡』石川県立埋蔵文化財センター 1987
- 吉岡康暢・橋本澄夫「石川県鹿島郡鹿西町金丸宮地遺跡の土器器」『石川考古学研究会会誌』第9号 石川考古学研究会 1965
- 四橋嘉章「古墳時代の沙庭と祭具—富来町高田遺跡祭祀遺構の一考察—」『北陸の考古学』石川考古学研究会 1983
- 『志賀町中村畑遺跡 能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター 1982
- 『舟浜遺跡』志賀町教育委員会ほか 1985
- 『鹿首モリガフチ遺跡—能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』石川県立埋蔵文化財センター 1984
- 『鹿首モリガフチ遺跡』志賀町教育委員会 1986
- 『万行赤岩山遺跡』七尾市教育委員会 1983

註① C類器の口縁端部処理方法やプロローションは、ⅡD類とともに、B類器のそれからは直接的には生まれないと考える。該期のタタキ要の存在(宍向山遺跡、永町ガマノマゴリ遺跡、小菅波遺跡)などからみて、畿内ないしはその周辺部のV様式系要、庄内式系要の影響を考慮することができる。H類器についても、I期以前から類似形態のものはあるが、Ⅱ期の能登での主要形式となる本類が定量的に確認できるようになるのは該期からで、C類器同様前期地域からの波及と考えている。

② 本窯採集品の坯類は、流量や調整、細部形などTK47型式の特徴をもつが、蓋の天井部から口縁部にかけてゆるやかに内湾するものが多いという点や口縁部の短いものが一定量ある点で新祖の要素を含んでいるとみられる。同様の特徴をもつものは加賀地域の消費遺跡(下開発赤白山古墳群、下開発遺跡)でも在地産として出土しており、在地窯成立期の地域色やその後の独自の型式変化を解明した上での編年の位置づけが必要かと考えられる。

③ 柳田ウワノ1号窯採集品の観察では以下の特徴がある。①、焼きがやや軟質、淡青灰色を呈するもので、角ばった粒径のやや不均質な石英、長石片を含み、酸化粒の吹き出しもある程度認められるもの。素地は粉っぽい質感があり、破断面は不規則で磨耗しやすい。②、①と類似するが混和砂が少なく、酸化粒の吹き出しの顕著なもの。発泡して軽くなったものがある。③、硬質で自然釉を帯び、①が焼きしまったとみられるもの。砂粒の量や質には若干バラエティーがある。断面赤褐色のものが一定量ある。これらの直接対比によって同定した。

本窯では③が最も多く、②は少ない。いずれも細粒の骨片を夾取で発見できるほど含有しているのが大きな特徴で、②はその量が著しい。②は7世紀後半の柳田タンワリ1号窯で主体を占める粘土であり、骨片の量や発泡の状況から、純粋に近い構成粘土を使用したことも考えられる。押水町宿地内で採取した同様の粘土は(龍川泥岩層)は焼成実験の結果(奥田尚氏による)、1,100℃で部分的に発泡し、1,200℃では全体がスポンジ状となった。ウワノ1号窯やタンワリ1号窯では耐火度の高くない、流成層に起因する粘土が普遍的に使われていたとみられる。

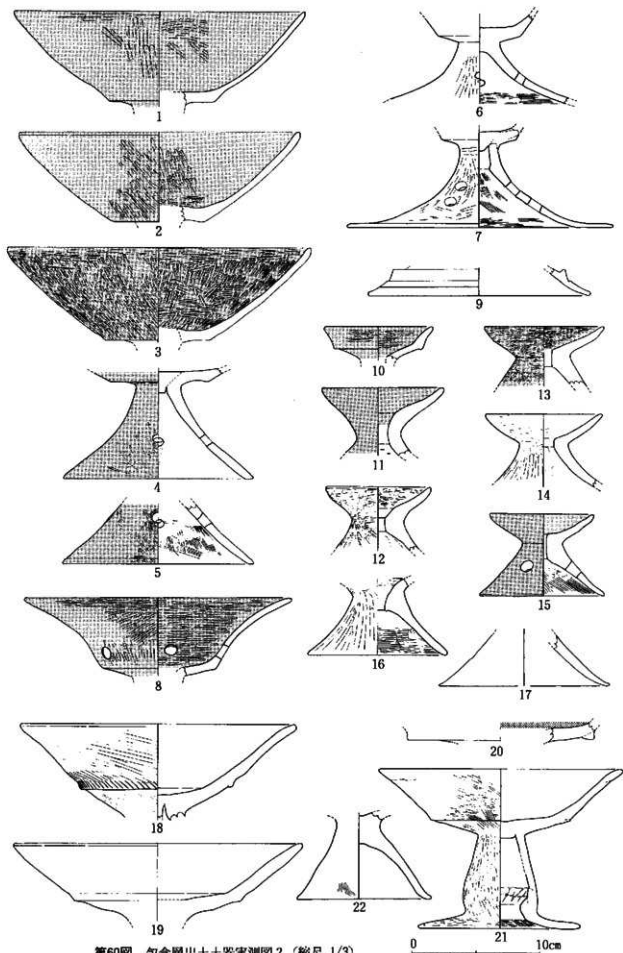
④ 押水・高松窯跡群産は、大粒(2mm以上)の角ばった石英、長石粒を少量〜中量含むものが多い。粒径は不揃いで、半透明の石

第6表 包含層出土器観察表

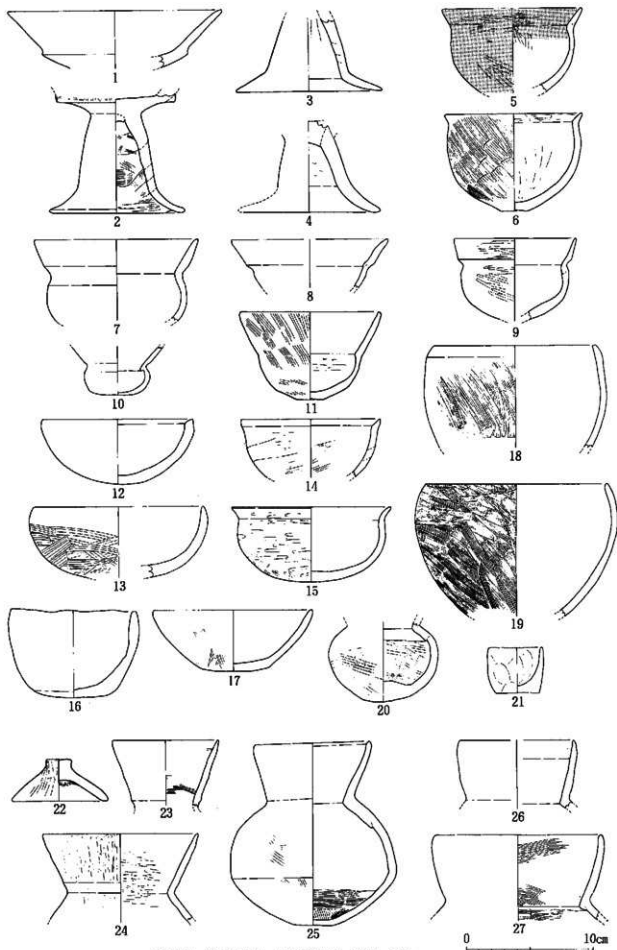
図・番号	器種	出土地点	法量	その他
第60図				
1	高杯	1 X15Y	口：22.0	赤彩
2	"	1 X15Y	口：21.9	赤彩
3	"	1 X15Y	口：23.8	赤彩
4	"	1 X15Y	脚：14.9	外面赤彩
5	"	1 X15Y	脚：15.0	外面赤彩
6	小型高杯	1 X15Y		
7	"	2 X15Y	脚：21.0	
8	中型器台	2 X14Y	口：21.2	赤彩
9	不附	1 X15Y	脚：17.2	
10	小型器台	1 X15Y	口：8.4	赤彩
11	"	2 X14Y	口：9.6	赤彩
12	"	1 X15Y	口：8.1	
13	"	1 X15Y	口：9.3	脚内面以外赤彩
14	"	2 X15Y	口：9.0	
15	"	2X13-14Y	口：8.0 高：6.5	脚内面以外赤彩
16	"	3 X11Y	脚：11.0	
17	"	1 X14Y	脚：13.0	
18	高杯	1 X13Y	口：21.5	縁部分に剥み目
19	"	2 X15Y	口：22.7	
20	"	1 X13Y		内黒、破突角
21	"	1 X13Y	口：18.9 高：12.6	
22	"	1 X15Y	脚：10.6	
第61図				
(5)	押水・高松窯跡群産に比べて、泥和材の鉱物種で乳白色を呈する長石が主体となるのが特徴である。素地は7世紀後半以降のものでは、緻密な質感で破断面が平滑・鋭利なものが一般的である。色調はくすんだ灰色～暗青灰色が多く、断面がクリーム色を呈する特徴的なものもある。			
1	高杯	2 X15Y	口：17.0	
2	"	1 X14Y	脚：10.0	
3	"	3 X11Y	脚：11.7	
4	"	2 X15Y	脚：11.4	
5	小型鉢	2 X15Y	口：10.8	体内面以外赤彩
6	"	2 X15Y	口：10.8 高：7.6	
7	"	1 X15Y	口：12.8	
8	"	2 X15Y		
9	"	2 X14Y	口：9.6	
10	小型丸底鉢	1 X15Y		平底
11	"	2 X15Y	口：11.0 高：6.9	平底
12	碗	1 X15Y	口：12.0 高：5.1	丁寧なナデ
13	"	1 X15Y	口：13.4	
14	"	1 X15Y	口：11.0	小型鉢か
15	"	2 X15Y	口：12.6 高：5.9	丁寧なミガキ
16	"	1 X12Y	口：9.8 高：7.0	ナデ
17	"	1 X15Y	口：12.6 高：4.8	外面ハケ後ナデ

図・番号	器種	出土地点	法量	その他
18	鉢	1 X15Y	口:12.4	
19	"	1 X15Y	口:14.0	
20	小皿丸底壺	2 X11Y		
21	手づくね	1 X15Y	口:4.2 高:3.6	
22	蓋	1 X15Y	口:7.7	
23	直口壺	3 X11Y	口:8.4	
24	"	3 X11Y	口:12.2	
25	"	1 X13Y	口:9.1 高:14.6	
26	"	1 X14Y		
27	"	2 X14Y	口:13.0	
第62図				
1	壺2	3 X14Y	口:21.4	貼付一単位3本
2	"	1 X15Y	口:18.4	類内面使用済?
3	"	1 X15Y	底:5.2	
4	"	2 X15Y	口:24.8	後に刻み目
5	壺3	2 X14Y	口:(29)	
6	"	2 X15Y		
7	"	1 X15Y	口:26.0	
8	壺1	3 X11Y		
9	"	1 X14Y	口:14.4	
10	"	2 X14Y	口:15.6	
11	"	1 X15Y	口:14.8	
12	"	3 X11Y	口:14.4	
13	"	3 X11Y	口:11.6	■期
14	壺1	2 X14Y	口:14.0	
15	"	3 X11Y	口:14.6	
16	"	1 X15Y	口:15.0	
17	"	1 X15Y	口:15.8	
第63図				
1	壺1	1 X15Y	口:15.8	
2	"	1 X15Y	口:15.8	内面靱圧痕2
3	"	1 X15Y	口:16.9	
4	"	1 X15Y	口:15.0	
5	"	1 X15Y	口:15.8	
6	"	3 X11Y		布留系
7	"	3 X11Y		"
8	"	2 X14Y		
9	壺2	1 X15Y	口:17.6	
10	"	3 X14Y	口:18.8	
11	"	1 X15Y	口:18.2	
12	"	2 X14Y	口:18.6	
13	"	1 X15Y	口:18.0	
14	"	1 X15Y	口:19.6	
15	"	2 X15Y	口:17.4	布留系
第64図				
1	壺1	1 X15Y	口:14.2	
2	"	1 X15Y	口:14.2	

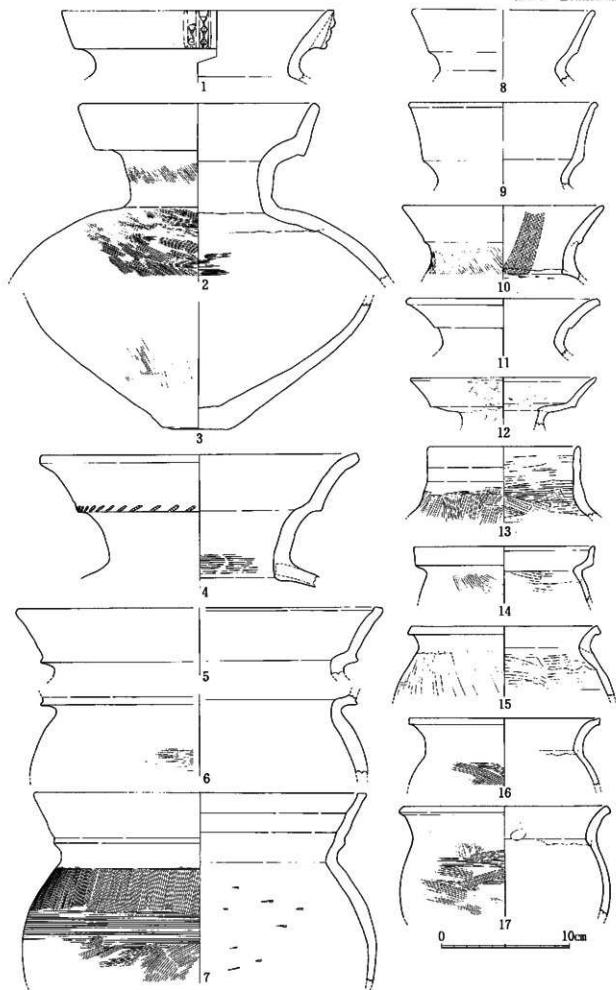
図・番号	器種	出土地点	法量	その他
3	壺1	1 X14Y	口:14.9	
4	"	1 X15Y	口:16.6	
5	"	1 X15Y	口:16.3	丸底
			高:15.9	
6	"	1 X15Y	口:18.2	
7	壺2	1 X15Y	口:14.6	
8	"	1 X15Y	口:18.8	
9	"	1 X15Y	口:19.8	
10	"	1 X15Y	口:17.8	丸底
11	"	3 X11Y	口:19.3	
12	"	2 X15Y	口:21.4	
第65図				
1	壺2	1 X12Y	口:16.8 高:29.3	
2	"	1 X12Y	口:18.4 高:30.0	
3	"	1 X12Y	口:16.6 高:27.4	
4	小型壺	1 X14Y	口:10.0 高:9.5	
5	瓶	1 X15Y		
6	"	2 X15Y	孔:5.7	
7	"	1 X15Y	孔:6.8	
8	"	2 X15Y		多孔式
第66図				
1	カマド	1 X15Y	脚:(43)	
2	"	1 X15Y		底
3	杯H蓋	2 X15Y		
4	"	2 X11Y		
5	"	1 X15Y		
6	"	2 X15Y		
7	杯H	1-2X10Y	口:11.6	
8	"	1 X15Y		
9	はそう	2 X15Y	口:13.3	
10	"	1 X15Y		
11	無蓋高杯	3 X11Y	口:12.0	
12	壺	1 X13-14Y		
13	人甕	2 X9Y		
14	"	1 X13-14Y		
15	不明	3 X9Y		
16	杯B	2 X9Y		
17	杯A	2 X9Y		
18	人甕	1 X13Y		



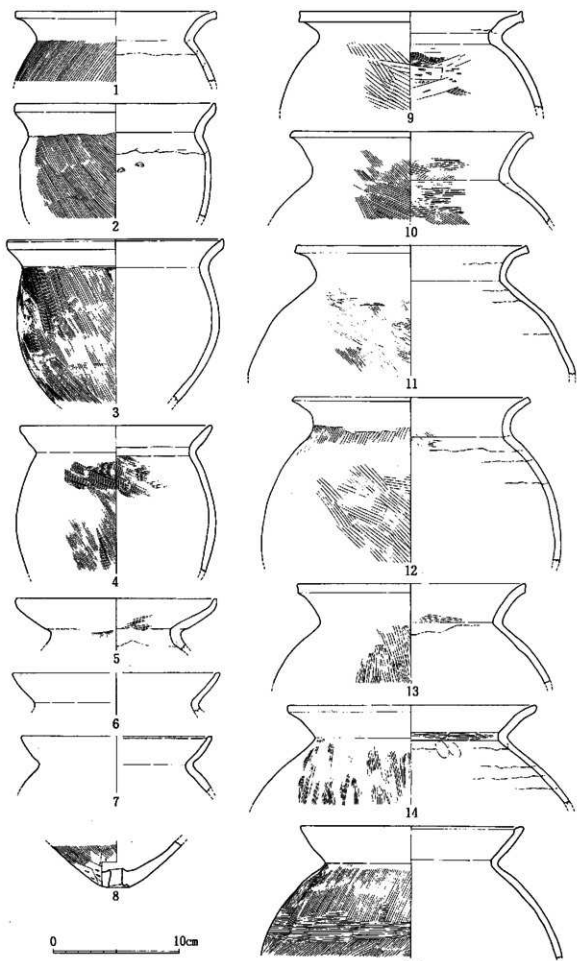
第60圖 包含層出土土器実測図2 (縮尺 1/3)



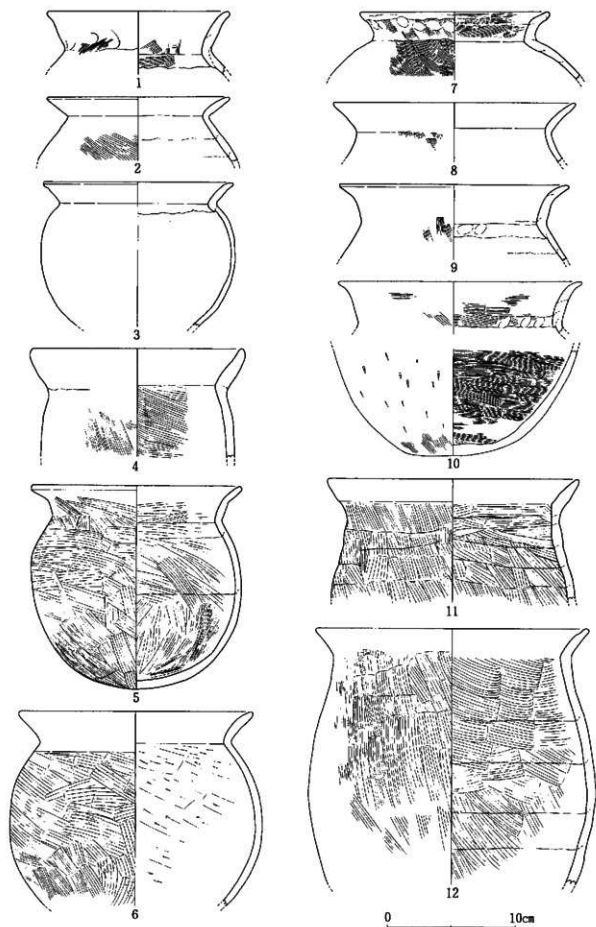
第61图 包含层出土土器尖刻图3 (缩尺 1/3)



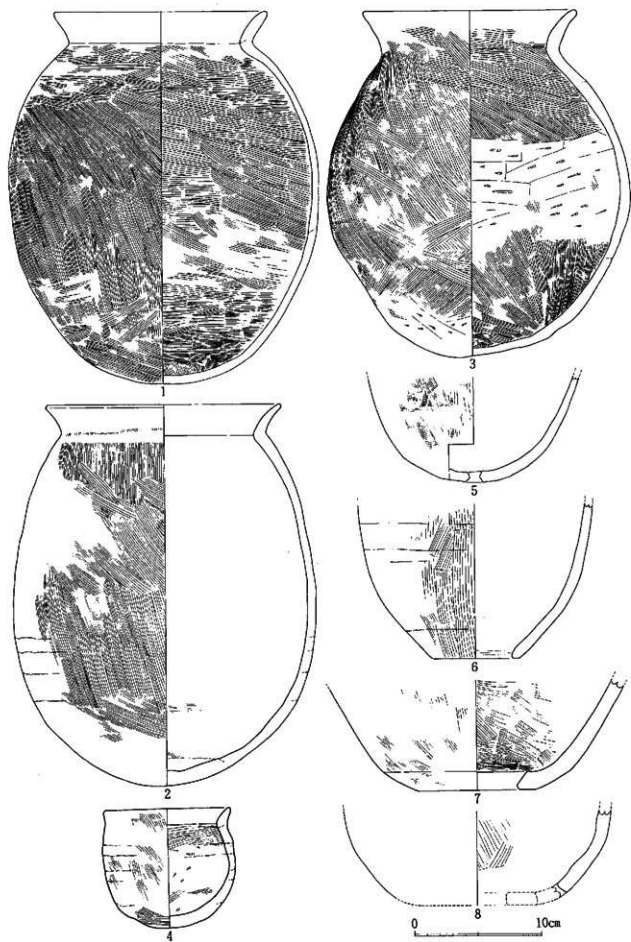
第62圖 包含層出土土器実測圖4 (縮尺 1/3)



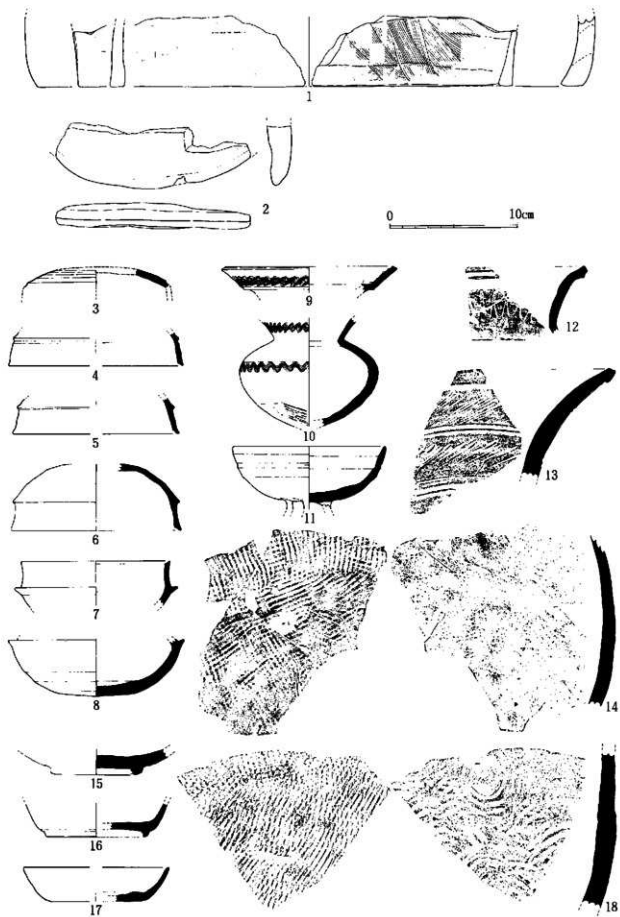
第63圖 包含層出土器実測圖5 (縮尺 1/3)



第64圖 包含層出土土器火網6 (縮尺 1/3)



第65图 包含层出土土器实测图7 (缩尺 1/3)



第66圖 包含層出土土器実測図8 (縮尺 1/3)

第4節 中世の遺物

包含層から出土した中世の遺物については、第7表・第59～77図に示したとおりである。

第7表 包含層出土中世土器観察表

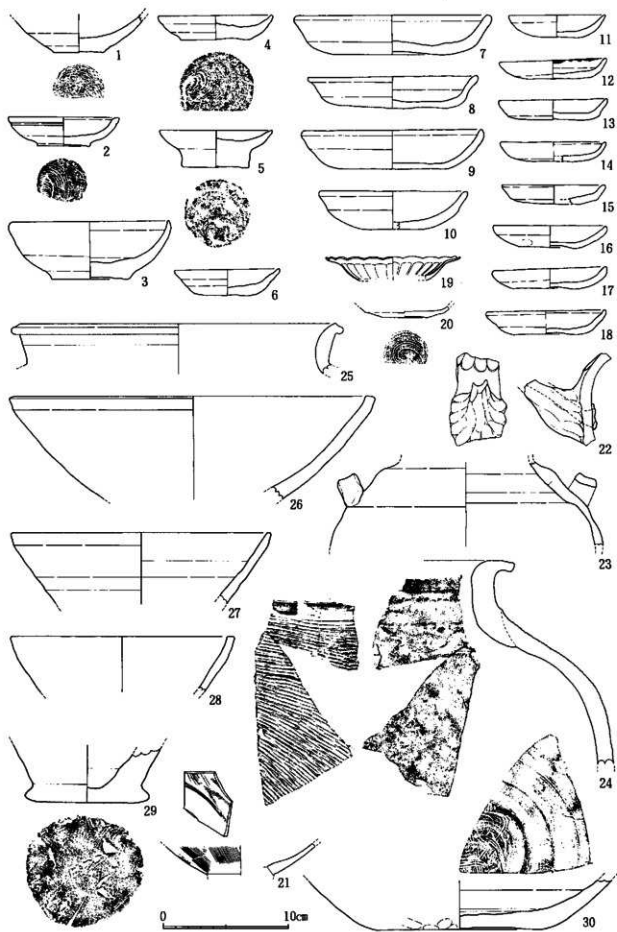
[単位はcm、()を付したものは現存値を示す]

図番号	出土遺構・区	製 品	器 種	法 量 (cm)				色 調	調整・胎十・焼成・その他
				口 径	底 径	器 径	高		
第67図1	2 X 9 Y区	土師器	皿	—	4.0	(3.0)	褐灰色	内面ナデ 外面ナデ 底面回転糸切り	
第67図2	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.6	4.0	2.3	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り	
第67図3	2 X 9 Y区	土師器	碗	12.3	6.1	4.6	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ	
第67図4	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.9	5.6	1.9	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 海綿骨片を含む	
第67図5	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.8	5.1	2.9	浅黄褐色	底面回転糸切り	
第67図6	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.2	3.4	2.1	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り	
第67図7	2 X 9 Y区	土師器	皿	15.1	9.0	3.1	灰黄褐色	内面ナデ 外面ナデ 外底面指頭圧痕	
第67図8	2 X 9 Y区	土師器	皿	13.3	8.5	2.6	灰黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 外底面指頭圧痕	
第67図9	2 X 9 Y区	土師器	皿	14.2	8.3	3.1	浅黄褐色	内面指頭圧痕 外面底面に指頭圧痕	
第67図10	2 X 9 Y区	土師器	皿	11.6	4.8	3.0	褐色	内面ナデ 外面ナデ 海綿骨片を少量含む	
第67図11	2 X 9 Y区	土師器	皿	7.5	3.1	1.8	褐色	外底面に弱く指頭圧痕	
第67図12	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.3	3.9	1.6	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 外底面に指頭圧痕	
第67図13	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.4	4.8	1.7	浅黄褐色	内面薄く指頭圧痕 外面ナデ 外底面に指頭圧痕 海綿骨片を少量含む	
第67図14	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.2	6.0	1.5	褐色	両面ともに磨耗しているため調整不明	
第67図15	2 X 9 Y区	土師器	皿	7.9	6.6	1.6	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデ	
第67図16	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.6	4.7	1.8	浅黄褐色	外底面斜め指頭圧痕	
第67図17	2 X 9 Y区	土師器	皿	8.7	5.1	1.7	浅黄褐色	両底面に指頭圧痕	
第67図18	2 X 9 Y区	珠洲	皿	9.3	4.9	1.9	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片が目立つ	
第67図19	2 X 9 Y区	白磁	皿	10.2	—	(1.9)	素地灰色 釉明彩・灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 内面に菊花文 口縁に輪花 型づくり	
第67図20	2 X 9 Y区	白磁	—	—	3.6	(0.9)	白色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 型づくり	
第67図21	2 X 9 Y区	青磁	皿	—	—	(2.4)	青地灰白色 黒オリーブ黄色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデとハケ 同安窯	
第67図22	2 X 9 Y区 他	珠洲	水注	—	—	(7.2)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片を含む	

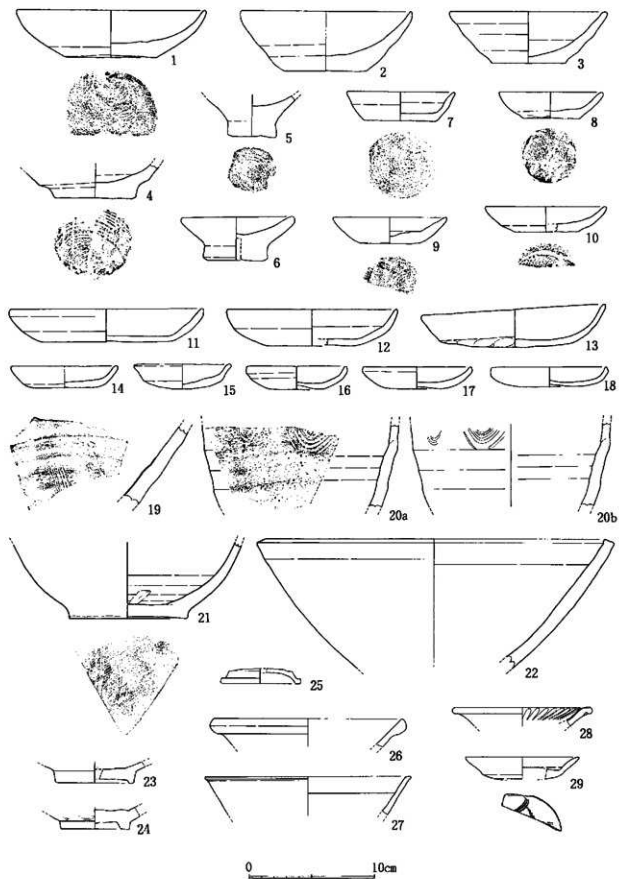
扉画番号	出土遺構・区	製 品	器 種	法 量 (cm)			色 調	調整・胎土・焼成・その他
				口 徑	底 径	器 高		
第67図23	2 X 9 Y区	珠洲	耳付壺	—	—	(6.6)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片を含む
第67図24	2 X 9 Y区 他	珠洲	壺	—	—	(16.0)	暗灰色	内面タタキ 外面タタキ
第67図25	2 X 9 Y区	珠洲	壺	25.1	—	(3.9)	灰白色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 少量の海綿骨片を含む
第67図26	2 X 9 Y区	珠洲	鉢	28.2	—	(8.1)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片含む
第67図27	2 X 9 Y区	珠洲	鉢	20.2	—	(5.6)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第67図28	2 X 9 Y区	珠洲	鉢	12.4	—	(5.4)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第67図29	2 X 9 Y区	珠洲	壺底部	—	9.8	(4.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面ナデ 海綿骨片含む
第67図30	2 X 9 Y区	珠洲	播鉢	—	13.6	(4.9)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ おろし目の1単位は5条で幅1cmである
第68図1	2 X 10 Y区	土師器	皿	14.8	7.2	3.7	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 海綿骨片含む
第68図2	2 X 10 Y区	土師器	碗	13.4	6.6	4.2	浅黄褐色	内面磨耗のため不明 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図3	2 X 10 Y区	土師器	碗	12.0	4.8	4.1	黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図4	2 X 10 Y区	土師器	碗	—	6.6	(2.2)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図5	2 X 10 Y区	土師器	皿	—	3.9	(3.3)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図6	2 X 10 Y区	土師器	皿	8.7	5.1	3.5	褐色	内面磨耗のため不明 外面ヨコナデ
第68図7	2 X 10 Y区	土師器	皿	8.4	5.5	2.3	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図8	2 X 10 Y区	土師器	皿	8.0	4.5	2.1	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図9	2 X 10 Y区	土師器	皿	8.8	4.9	2.1	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 海綿骨片を含む
第68図10	2 X 10 Y区	土師器	皿	9.2	5.0	2.0	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第68図11	2 X 10 Y区	土師器	皿	15.2	11.0	2.6	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ 海綿骨片を多く含む
第68図12	2 X 10 Y区	土師器	皿	13.4	8.8	2.9	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ
第68図13	2 X 10 Y区	土師器	皿	14.2	11.8	3.4	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ 海綿骨片を含む
第68図14	2 X 10 Y区	土師器	皿	8.2	6.4	2.2	黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ
第68図15	2 X 10 Y区	土師器	皿	7.5	5.0	2.0	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデ
第68図16	2 X 10 Y区	土師器	皿	7.8	7.4	1.8	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ 外底面指頭圧痕を残す
第68図17	2 X 10 Y区	土師器	皿	8.4	5.6	1.7	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ
第68図18	2 X 10 Y区	土師器	皿	9.0	8.8	1.6	浅黄褐色	内面ヨコナデとナデ 外面ヨコナデとナデ 海面骨片を含む
第68図19	2 X 10 Y区	珠洲	播鉢	—	—	(6.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ おろし目の1単位は12条で幅1.6cmである
第68図20	2 X 10 Y区	珠洲	壺	—	—	(6.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 胴径15.8cm 海綿骨片含む

庫号番号	出土遺構・区	製 品	器 種	法 量 (cm)			色 調	調整・胎土・焼成・その他
				口 径	底 径	器 高		
第68図21	2 X 10 Y区	珠洲	鉢	—	9.4	(5.9)	灰色	内面ヨコナデ外面ヨコナデ 使用痕がある 海綿骨片を含む
第68図22	2 X 10 Y区 他	珠洲	鉢	26.6	—	(10.2)	灰白色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片を 含む
第68図23	2 X 10 Y区	青磁	有台碗	—	6.2	(1.8)	素地灰白色 釉オリーブ色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸 切り細かい貫入あり 阿安窯系
第68図24	2 X 10 Y区	青磁	有台碗	—	(5.4)	(1.7)	素地明け灰色 釉オリーブ色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 外底面ハケ 第67図21と同一個体
第68図25	2 X 10 Y区	青白磁	蓋	6.1	—	1.2	素地灰白色 釉オリーブ黄色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第68図26	2 X 10 Y区	白磁	碗	14.9	—	(2.2)	素地灰白色 釉オリーブ色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 玉縁口縁
第68図27	2 X 10 Y区	白磁	碗	16.2	—	(3.1)	素地灰色 釉灰白色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 貫入があっ て外面にとくに著しい 端反り
第68図28	2 X 10 Y区	瀬戸系陶 器	皿	10.5	—	—	素地灰色 釉明緑灰色	両面に灰釉 貫入あり 内面に菊花文を押 捺している
第68図29	2 X 10 Y区	青磁	皿	8.8	6.1	(1.8)	素地灰色 釉明緑灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 龍泉窯系
第69図 1	2 X 7 Y区	土師器	皿	—	4.1	(3.2)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸 切り
第69図 2	1 X 9 Y区	珠洲	鉢	27.2	—	(5.8)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片を 多く含む
第69図 3	1 X 10 Y区 他	珠洲	鉢	30.3	—	(5.4)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図 4	3 X 9 Y区	土師器	皿	8.0	3.6	1.4	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図 5	3 X 9 Y区	土師器	皿	8.4	3.5	1.8	浅黄褐色	内面ヨコナデと指頭庄残れる 外面ヨコナ デ 少量海綿骨片を含む
第69図 6	3 X 9 Y区	土師器	皿	9.0	5.4	1.4	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図 7	1 X 10 Y区	土師器	碗	13.4	4.3	2.7	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図 8	1 X 10 Y区	珠洲	鉢	—	—	(5.8)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図 9	1 X 10 Y区	珠洲	片口鉢	—	—	(10.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片含 む
第69図10	1 X 10 Y区	珠洲	鉢	—	—	(3.1)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片含 む
第69図11	1 X 10 Y区	白磁	碗	16.0	—	(3.4)	素地灰色 釉オリーブ灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図12	2 X 10 Y区	珠洲	壺	—	—	(11.4)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデとカキ目 胴 径17.9cm 海綿骨片を含む
第69図13	2 X 11 Y区	土師器	皿	8.1	3.9	2.5	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸 切り
第69図14	3 X 11 Y区	土師器	皿	8.7	4.3	2.1	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図15	3 X 11 Y区	土師器	皿	9.0	5.1	1.7	褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片少 量含む
第69図16	1 X 15 Y区	土師器	皿	9.5	4.4	3.3	浅黄色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸 切り
第69図17	1 X 13 Y区	青磁	碗	—	—	(4.8)	素地灰色 釉オリーブ灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 龍泉窯系
第69図18	3 X 11 Y区	青磁	碗	—	5.7	(2.3)	素地灰色 釉オリーブ灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 龍泉窯系 鍋蓋蓮弁文
第69図19	1 X 13 Y区	白磁	四耳壺	9.6	—	(4.2)	素地灰白色 釉オリーブ色	外面ヨコナデ

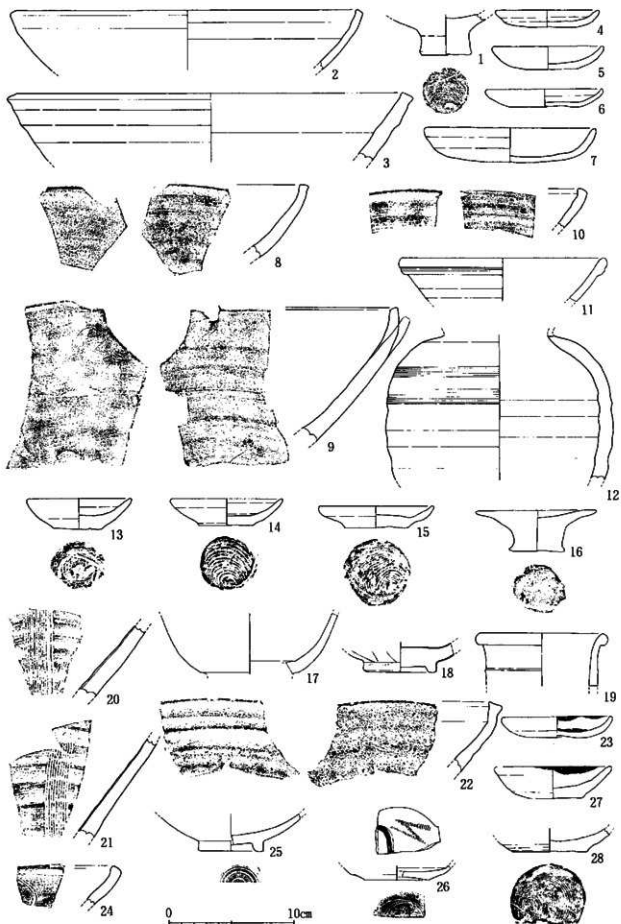
採収番号	出土遺構・区	製 品 器 種	法 量 (cm)			色 調	調整・胎土・焼成・その他	
			口 径	底 径	器 高			
第69図20	1 X 12 Y区	珠洲	撚鉢	—	—	(5.2)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ おろし目の1単位は15条で幅2.5cmである
第69図21	1 X 12 Y区	珠洲	撚鉢	—	—	(7.7)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ おろし目の1単位は10条で幅1.9cm 海綿骨片を含む
第69図22	1 X 13 Y区	珠洲	鉢	—	—	(5.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片含む
第69図23	1 X 13 Y区	土師器	皿	8.5	4.5	1.7	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ
第69図24	2 X 13 Y区	珠洲	撚鉢	—	—	(3.1)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 海綿骨片含む
第69図25	2 X 13 Y区	白磁	有台碗	—	5.2	(3.1)	素地灰白色 釉緑灰白色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第69図26	2 X 13 Y区	青磁	皿	—	5.1	(1.2)	素地灰色 釉明輝・灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 軸に貫入あり 内底面に凹文様の文様
第69図27	1 X 14 Y区	土師器	皿	9.0	4.2	2.5	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り 海綿骨片含む
第69図28	1 X 14 Y区	土師器	皿	—	5.8	(1.8)	浅黄褐色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 底面回転糸切り
第70図1	3 X 14 Y区	珠洲	甕	48.6	—	(9.7)	灰色	内面タタキ 外面タタキ
第70図2	溝築中個所 他	珠洲	甕	60.1	—	(10.6)	赤灰色 断面にぶい 赤褐色	内面タタキ 外面タタキ
第70図3	溝築中個所 他	珠洲	甕	51.0	—	(20.2)	灰色	内面タタキ 外面タタキ 海綿骨片を少量含む
第71図1	2 X 9 Y区	珠洲	甕	39.6	—	(8.2)	オリーブ灰色	内面タタキのあとナデ 外面タタキ 接合痕が明瞭に残っている
第71図2	2 X 9 Y区	珠洲	甕	38.0	—	(13.8)	灰色	内面タタキ 外面タタキのあとナデ 内面ともクレーター状に刻線している
第71図3	第26号溝他	珠洲	甕	47.0	—	(15.7)	赤灰色	内面タタキ 外面タタキ 口唇部が全体的に小さなクレーター状に刻線している
第72図1	2 X 15 Y区	珠洲	甕	—	—	(6.5)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 胴径18cm 櫛歯状底文具により文様
第72図3	2 X 9 Y区	珠洲	甕	—	20.0	(6.6)	灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデとタタキ 底部と胴部に砂付着
第72図4	1 X 12 Y区 他	珠洲	甕	—	19.0	(5.1)	暗灰色	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ 胎土はしっかりとっている
第73図1	2 X 10 Y区 他	珠洲	甕	—	13.4	(10.2)	灰色	内面ヨコナデ 外面タタキ タタキは細くて鋭い 海綿骨片を少量含む
第73図1	2 X 9 Y区 他	珠洲	甕	—	—	(11.5)	赤灰色	内面タタキ 外面タタキ タタキの単位は12条で幅4.5cmである
第74図2	2 X 11 Y区	珠洲	甕	—	—	(6.9)	灰色	内面タタキ 外面タタキ
第74図3	1 X 13 Y区	珠洲	甕	—	—	(8.7)	灰色	内面タタキ 外面タタキ
第74図4	1 X 15 Y区	珠洲	甕	—	—	(18.2)	灰色 外面暗灰色	内面タタキ 外面タタキと自然釉 タタキの単位は13条で幅4.2cmである
第75図1	ビット60	珠洲	甕	—	—	(21.2)	灰色	内面ナデ 外面タタキ
第75図2	第15号溝他	珠洲	甕	—	—	(29.1)	灰色	内面タタキ 外面タタキ 海綿骨片少量含む
第76図	第1号竪穴 他	越前	甕	—	20.0	(53.3)	灰赤色	内面タタキのあとナデ 外面タタキ 蓮子格子目文



第67图 2 X 9 Y区包含层山土器实例图(缩尺 1/3)



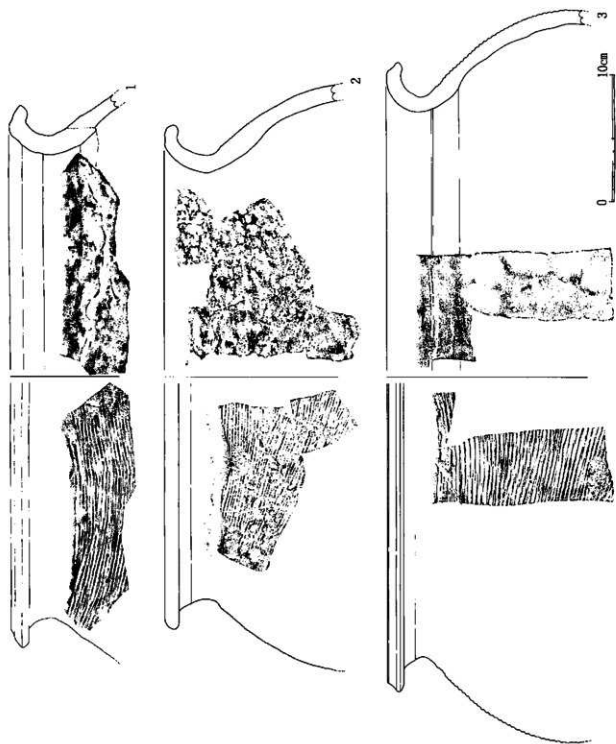
第68圖 2 X 10 Y 区包含層出土土器実測圖 (縮尺 1/3)



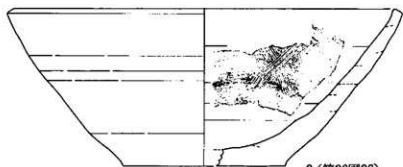
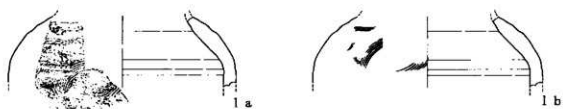
第69圖 包含層出土土器実測圖9 (縮尺 1/3)



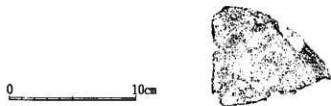
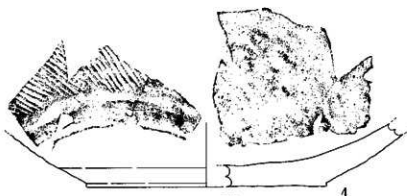
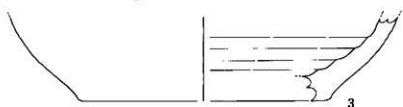
第70圖 孫州史前圖1 (縮尺 1/3)



第71图 珠洲尖副图2 (缩小 1/3)

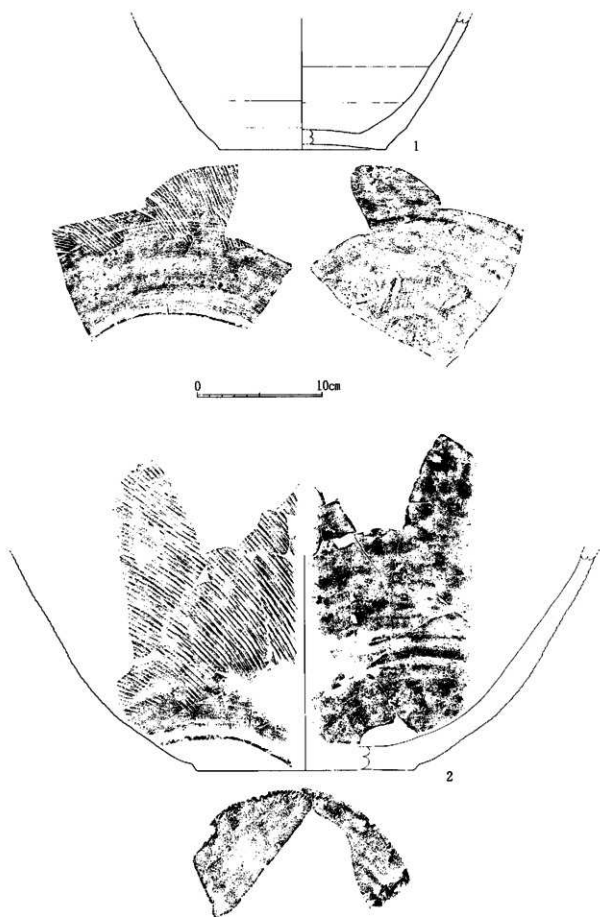


2 (第36圖26)

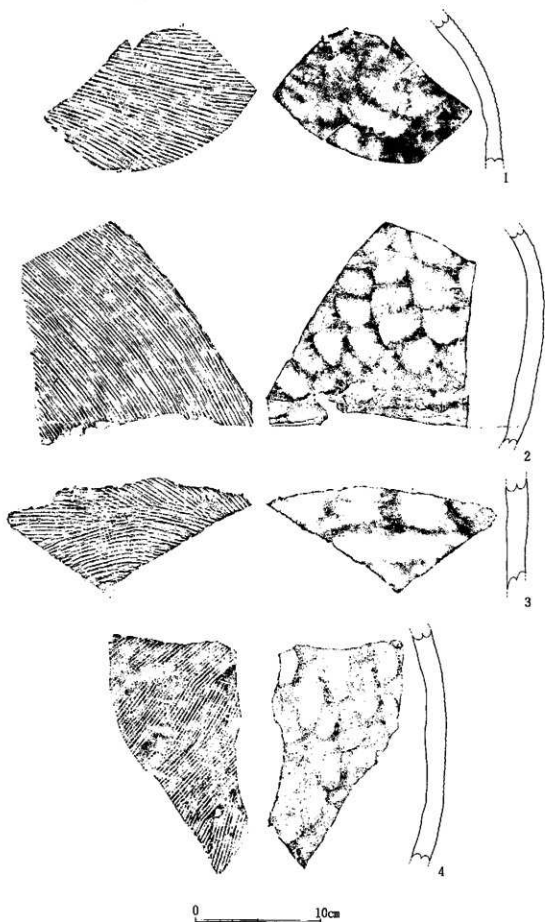


0 10cm

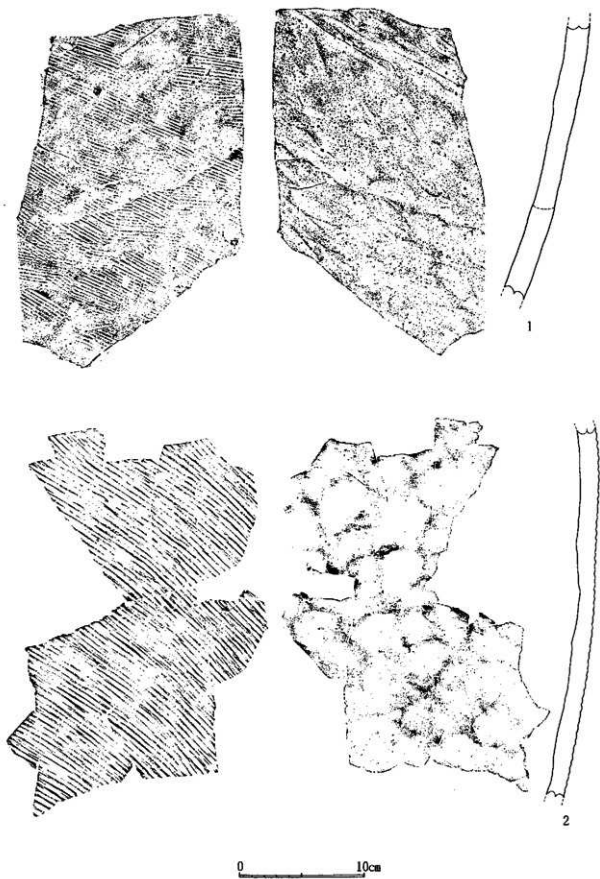
第72圖 珠洲実測図3 (縮尺 1/3)



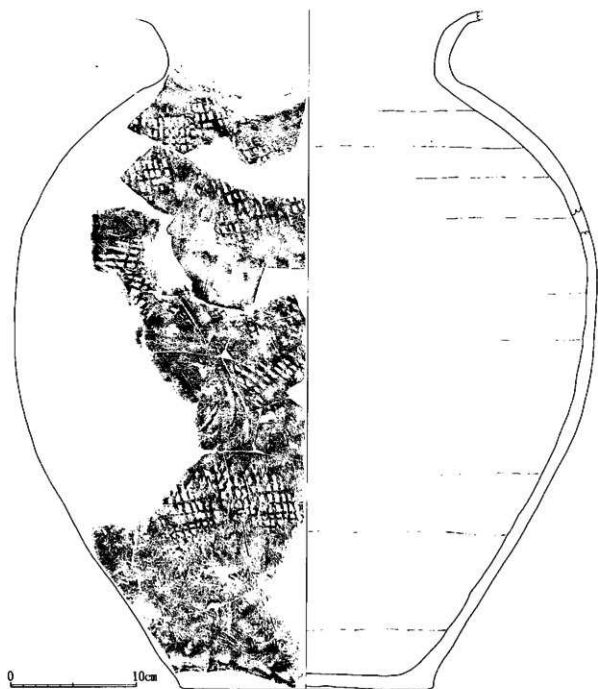
第73圖 珠洲実測図4 (縮尺 1/3)



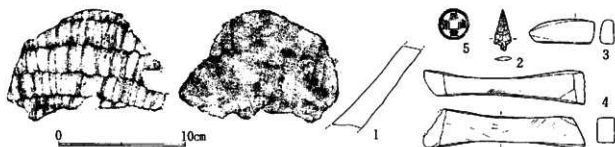
第74圖 珠洲穴測岡5 (縮尺 1/3)



第75圖 珠洲突面網6 (縮尺 1/3)



第76図 越前実測図 (縮尺 1/3)



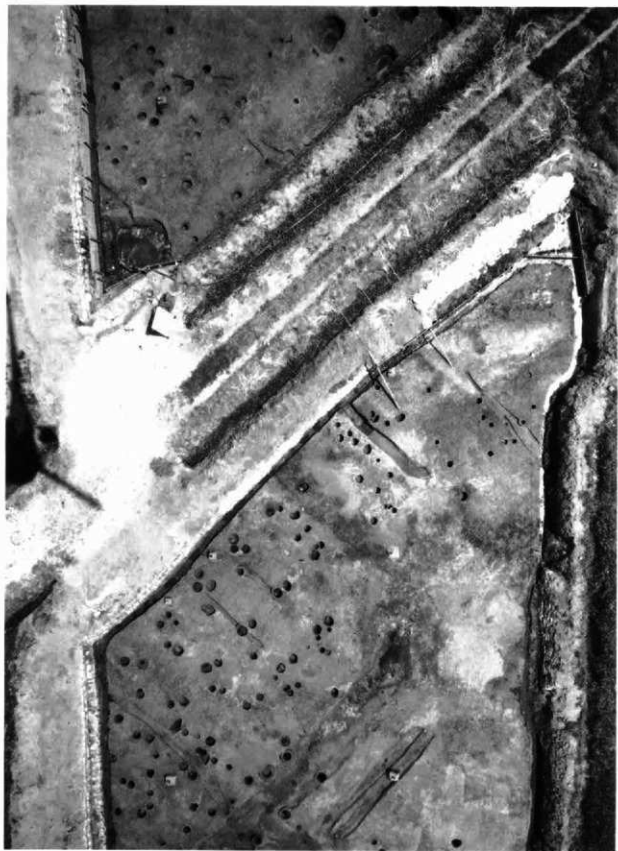
第77図 石製品・天聖元寶実測図 (縮尺 1/3)



航空垂直写真1（左上側が北）

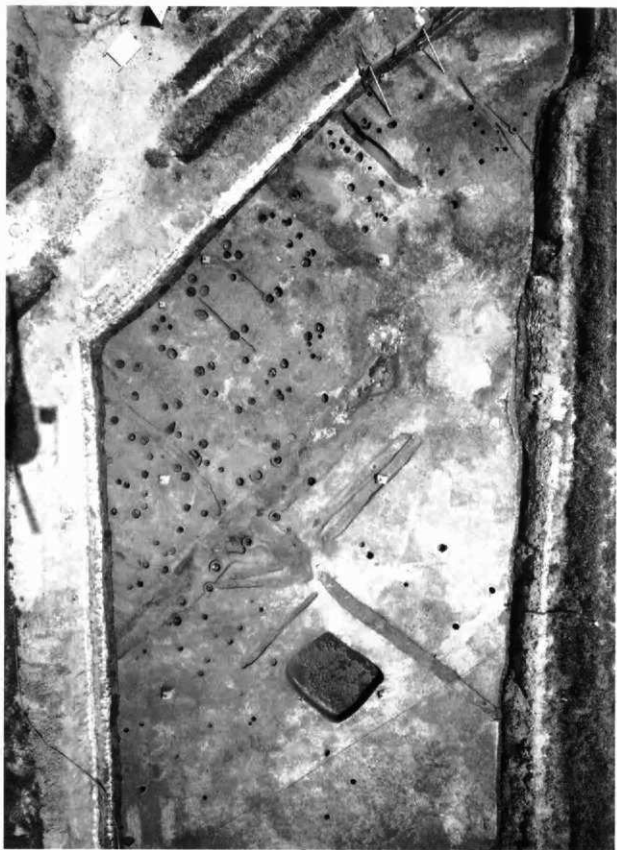


航空垂直写真2



航空垂直写真3





航空垂直写真5



1. 遺跡遠景1 (北西より)



2. 遺跡遠景2 (西より)



1. 調査風景3 (北東より)



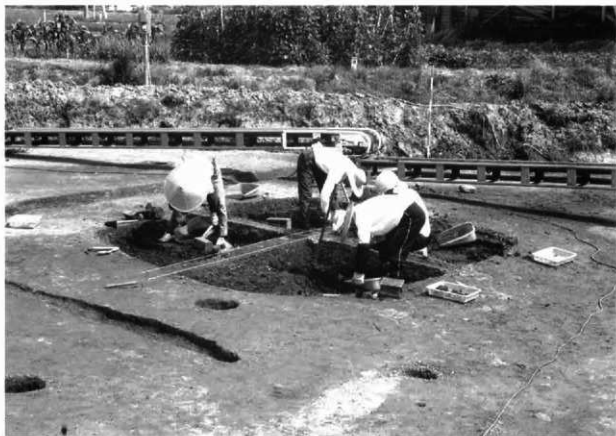
2. 調査風景4 (北より)



1. 調査風景 5 (南より)



2. 調査風景 6 (東より)



1. 第1号竖穴調査風景（北西より）



2. 第20号溝調査風景（西より）



1. 8～11Y区完掘状況1（東より）



2. 8～11Y区完掘状況2（西より）



1. 8~11Y区完掘状況3 (南より)



2. 14~15Y区完掘状況 (西より)



1. 掘立柱式建物1（北より）



2. 掘立柱式建物2（北より）



1. 2 X14Y区西壁



2. 3 X12Y区东壁



1. コロバシ出土状況3 (西より)



2. コロバシ出土状況4 (西より)



1. コロバシ出土状況5 (南西より)



2. コロバシ出土状況6 (北西より)



1. コロバシ出土状況7 (南東より)



2. コロバシ出土状況8 (東より)



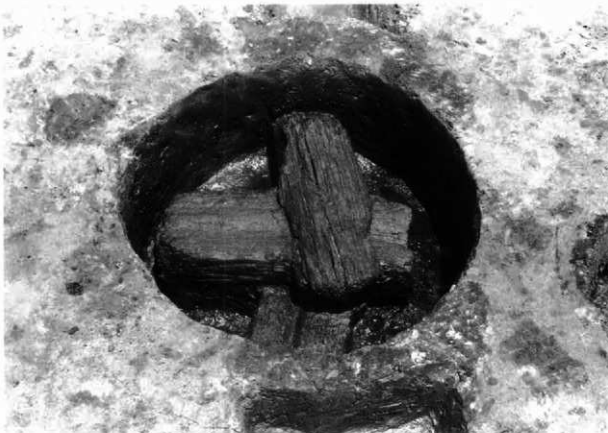
1. 第1号堅穴（西より）



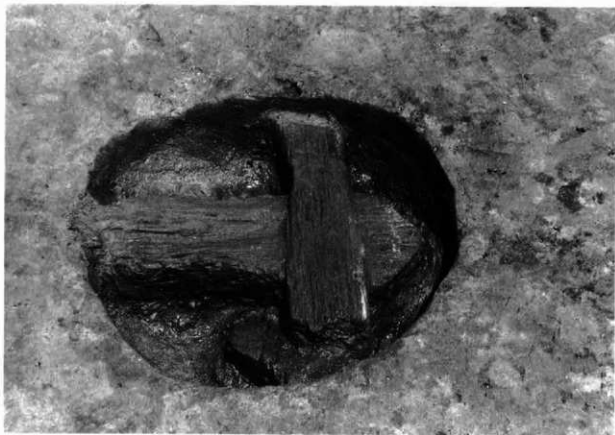
2. 第1号堅穴層序（西より）



1. 柱穴1礎板出土状況（南より）



2. 柱穴2礎板出土状況（南より）



1. 柱穴3礎板出土状況(南より)



2. 柱穴4礎板出土状況(南より)



1. 柱穴7礎板出土状況(南より)



2. 柱穴25柱頭出土状況(北より)



1. 柱穴21柱痕出土状況（南より）



2. 柱穴12礎板出土状況（南より）



1. 柱穴22柱痕・礎板出土状況（西より）



2. 柱穴29柱痕・礎板出土状況（北より）



1. 柱穴8礎板出土状況(南より)



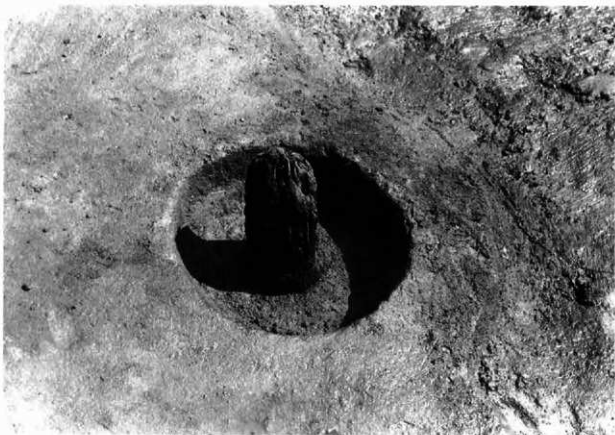
2. 柱穴12礎板出土状況(南より)



1. 柱穴6礎板出土状況(西より)



2. 柱穴31柱痕出土状況(南より)



1. 柱穴32柱痕出土状況（北より）



2. 柱穴33柱痕出土状況（南より）



1. 第102号土坑（南東より）



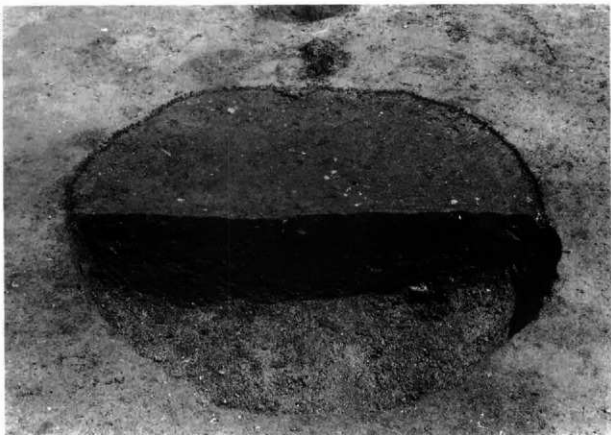
2. 第6号土坑漆器碗出土状況（東より）



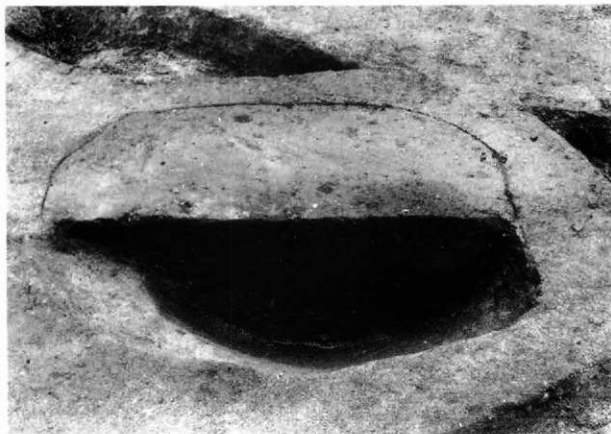
1. 第1号土坑（南より）



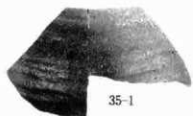
2. 第3号土坑（南より）



1. 第5号土坑（西より）



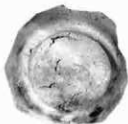
2. 第6号土坑（南より）



35-8



35-10



35-9



35-11



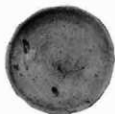
35-15



35-17



35-19



35-16



35-18



35-20



36-31



36-34



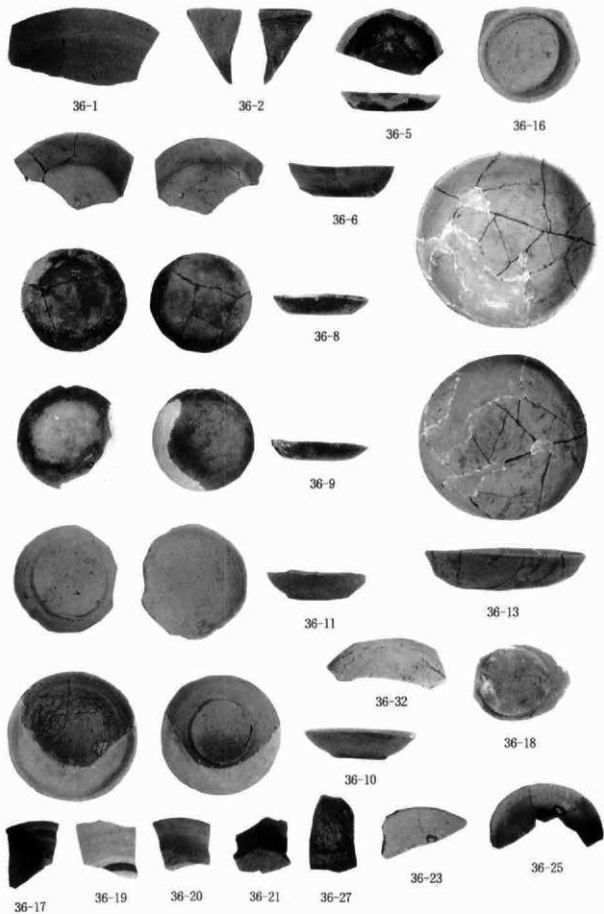
36-33



36-26

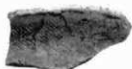


36-28





59-1



59-2



59-3



59-4



59-5



59-7



59-9



59-10



59-11



59-12



59-14



59-15



59-16



59-17



59-19



59-22



59-24



59-23



59-31



59-26



59-27



59-28



59-30



59-31



59-33



34-1



34-14



34-9



34-6



34-15



34-18



34-8



34-10



34-12



34-19



34-20



60-4



60-7



60-8



60-9



60-18



61-2



60-21



61-3



60-22



60-10



60-15



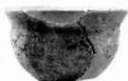
60-14



60-16



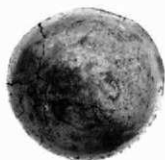
61-7



61-5



61-14



61-12



61-20



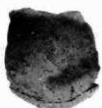
61-10



61-21



61-15



61-6



61-17



61-19



61-18



61-13



61-22



61-23



61-24



61-25



62-4



62-12



62-9



62-11



62-7



62-15



63-9



62-16



63-1



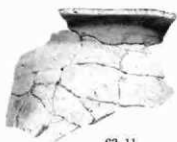
63-6



63-7



62-17



63-11



63-3



63-2



63-5



64-1



64-5



64-2



64-9



64-8



63-4



64-4



64-7



64-11



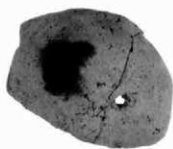
64-6



64-3



65-4



65-5



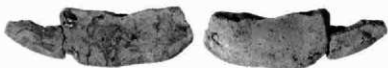
65-7



65-6



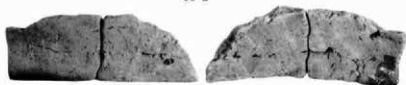
66-1-2 頸部



66-2



65-8



66-1



66-6



66-7



66-11



66-10



66-4



66-8



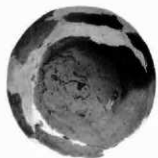
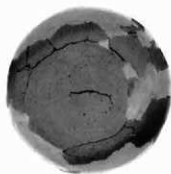
66-5



66-12



66-13



67-3



67-5



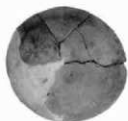
67-9



67-8



67-7



67-18

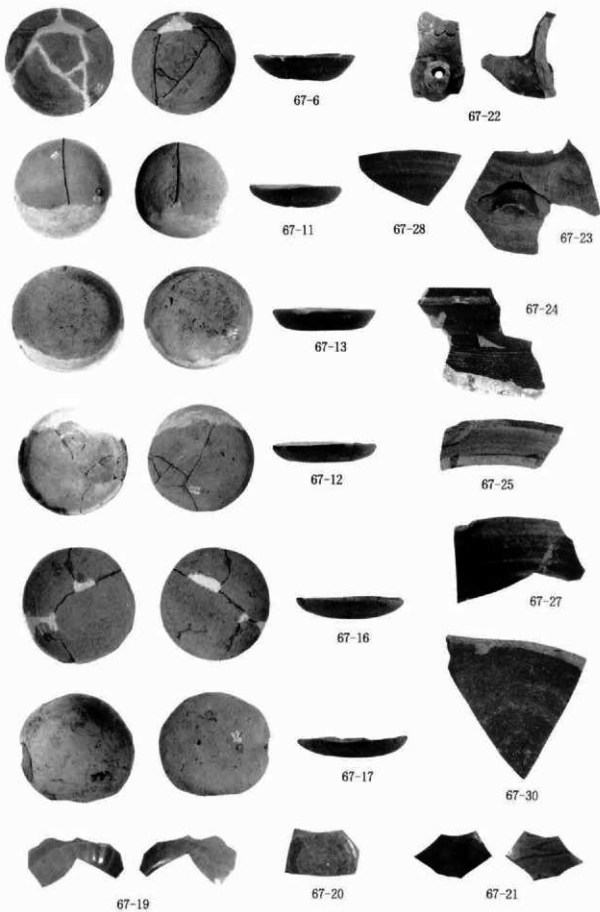


67-4

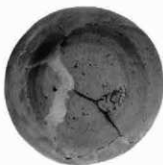


67-2

包含層出土土器 5



包含層出土土器 6



68-2



68-11



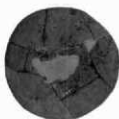
68-13



68-8



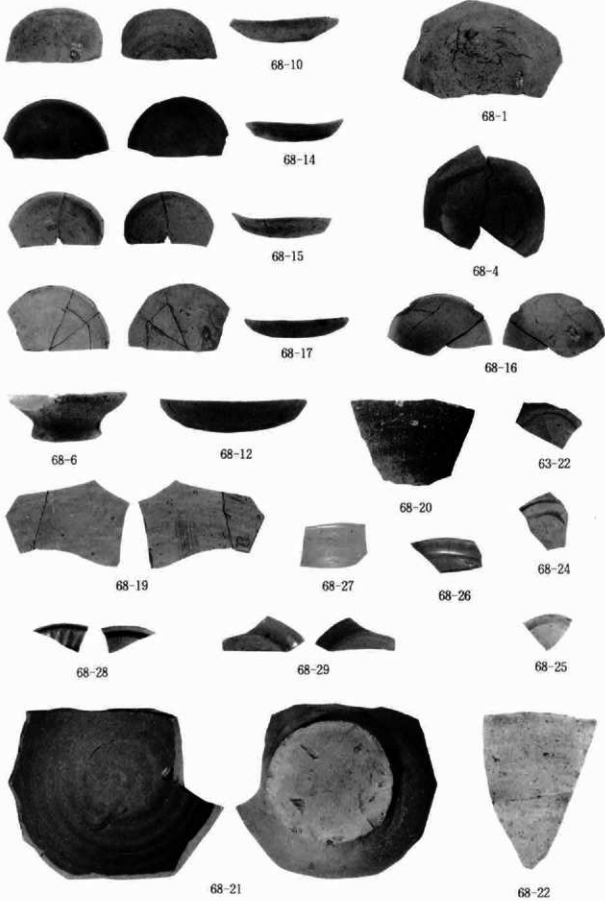
68-5



68-18



68-7

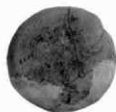


包含層出土土器8



69-13

69-14



69-23

69-15



69-27

69-28



69-2

69-3

69-8



69-22

69-10

69-24

69-9



69-12

69-26

69-20

69-21



69-11

69-19

69-17

69-18

69-25



70-1



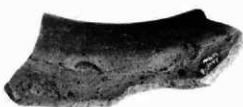
70-2



70-3



71-3



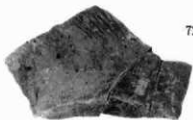
71-1



71-2



72-1



72-3



72-4



75-1



73-1



74-3



74-2



74-4



37-1



37-2



37-3



38-2



37-4



37-5



38-1



38-3



38-4



39-1



39-2



39-3



39-4



40-1



40-2



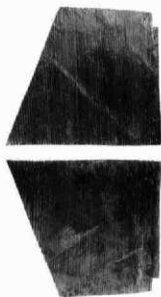
40-3



40-4



40-5



41-1



41-2



41-3



41-4



42-1



42-2



42-3



42-4



43-1



43-2



43-3



43-4



44-2



44-1



44-3



44-4



45-1



45-2



45-4



45-3



46-1



46-2



46-3



46-5



46-4



46-6



47-2



47-3



47-1



47-4



47-6



47-4



48-1



48-2



48-3



48-4



48-5



49-1



49-2



49-3



49-5



50-1



50-3



50-5



50-2



50-4



77-2



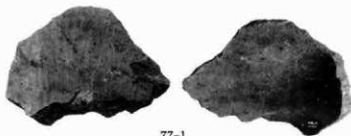
77-3



77-4



77-5



77-1

柱痕・礎板・石製品・天聖元寶



52-1



52-2



52-3



52-4



52-5



52-6



52-7



53-4



53-2



53-1



53-6

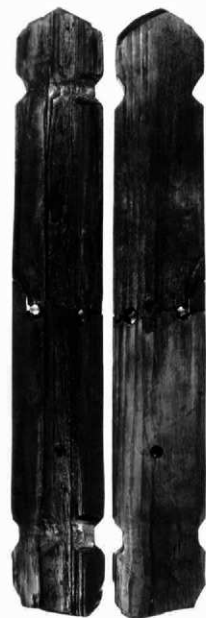


53-5



53-3

木製品 1



54-1



54-2



54-3

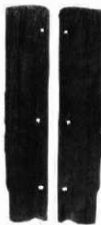


54-4

54-5



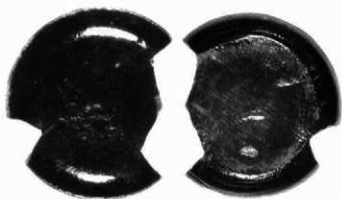
54-11



54-6



56-1



56-3



56-2

木製品 2



55-1



55-2



55-7



55-3



55-4



55-5



55-6



55-10



55-13



55-14



55-9



55-8



55-11



55-12



56-6



56-4



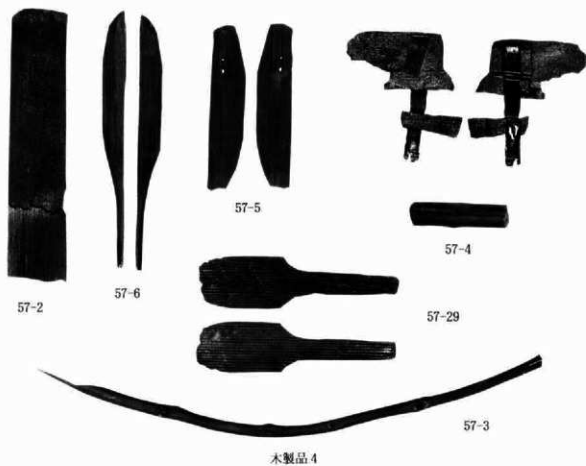
56-5



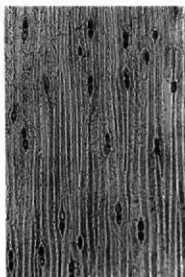
56-7



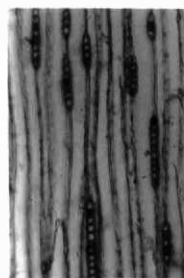
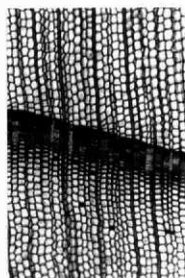
56-8



木製品4

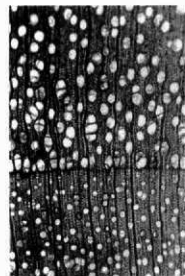


1 a. ヲヤ(ISF-162)接線断面×100. 1 b. 同放射断面×400. 1 c. コナラ節(ISF-117)横断面×40.



2 a. スギ(ISF-128)横断面×40. 2 b. 同接線断面×100.

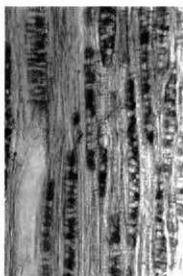
2 c. 同放射断面×400.



3 a. ヤナギ属(ISF-112)横断面×40. 3 b. 同接線断面×100.

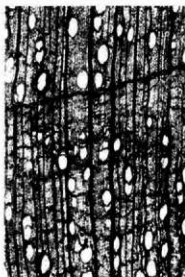
3 c. 同放射断面×200.

樹種同定顕微鏡写真1



4 a. イソシデ節(ISF-111)横断面×40. 4 b. 同 接線断面×100.

4 c. 同 放射断面×200.



5 a. アサダ(ISF-116)横断面×40. 5 b. 同 接線断面×100.

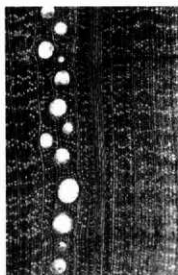
5 c. 同 放射断面×200.



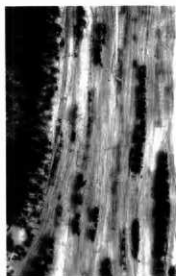
6 a. クリ(ISF-355)横断面×40.

6 b. 同 接線断面×100.
樹種同定顕微鏡写真2

6 c. 同 放射断面×200.



7 a. アカガシ亜属 (ISF-150) 横断面 $\times 40$. 7 b. 同 接線断面 $\times 100$. 7 c. 同 放射断面 $\times 200$.



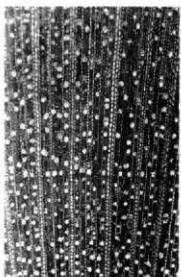
8 a. ブナ属 (ISF-281) 横断面 $\times 40$. 8 b. 同 接線断面 $\times 100$. 8 c. 同 放射断面 $\times 200$.



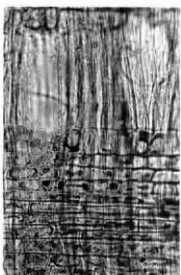
9 a. ケヤキ (ISF-163) 横断面 $\times 40$. 9 b. 同 接線断面 $\times 100$. 9 c. 同 放射断面 $\times 200$.
樹種同定顕微鏡写真3



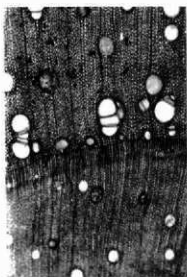
10 a. モタレン属 (ISF-109) 横断面×40. 10 b. 同 接線断面×100. 10 c. 同 放射断面×200.



11 a. ウツギ (ISF-141) 横断面×40. 11 b. 同 接線断面×100. 11 c. 同 放射断面×200.



12 a. サクラ属 (ISF-124) 横断面×40. 12 b. 同 接線断面×100. 12 c. 同 放射断面×200.
樹種同定顕微鏡写真4



13 a. スルデ (ISF-131) 横断面 $\times 40$.



13 b. 同 接線断面 $\times 200$.



13 c. 同 放射断面 $\times 200$.



14 a. カエデ属 (ISF-148) 横断面 $\times 40$.



14 b. 同 接線断面 $\times 100$.



14 c. 同 放射断面 $\times 200$.



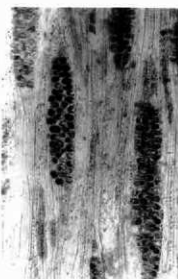
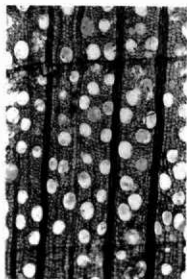
15 a. アツブキ (ISF-119) 横断面 $\times 40$.



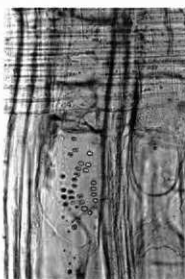
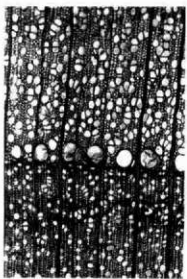
15 b. 同 接線断面 $\times 100$.



15 c. 同 放射断面 $\times 200$.

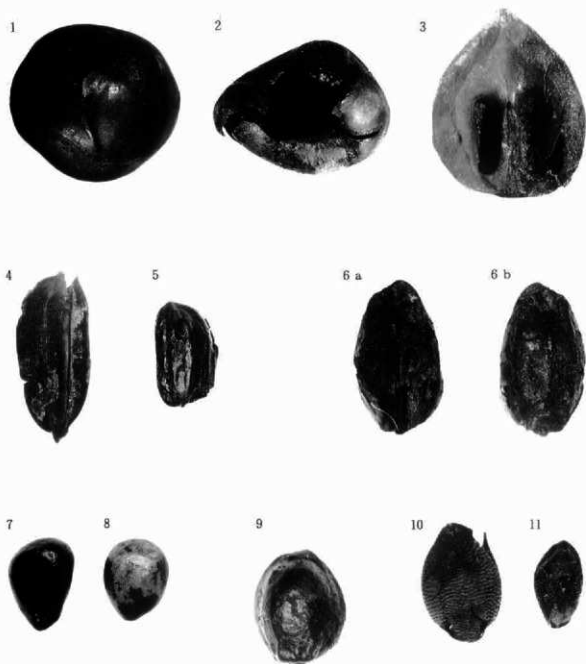


16 a. クマノミズキ類(ISP-108)横断面×40. 16 b. 同 接線断面×100. 16 c. 同 放射断面×200.



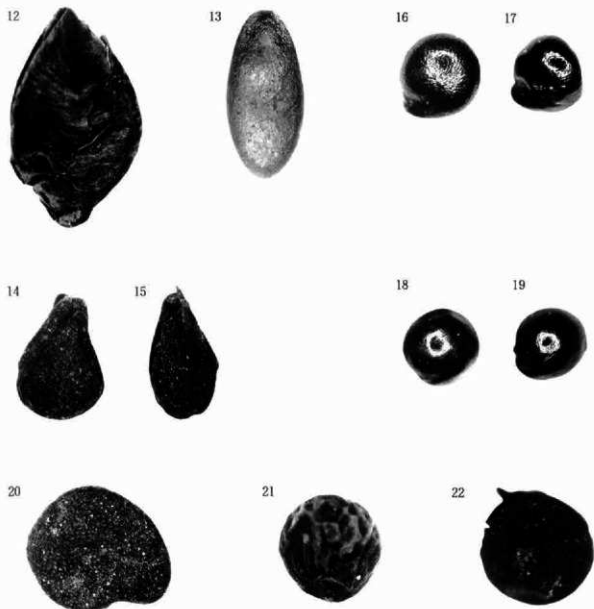
17 a. コシアブラ(ISP-301)横断面×40. 17 b. 同 接線断面×100. 17 c. 同 放射断面×200.

樹種同定顕微鏡写真 6



水白モンシロ遺跡の大型植物化石1

1 : トチノキ, 種子, MM856-1-2, $\times 1.5$. 2 : トチノキ, 種子, MM856-1-1, $\times 1.5$. 3 : オニグルミ, 核, MM856-2, $\times 1.5$. 4 : イネ, 未炭化穎, MM850-2, $\times 6.6$. 5 : イネ, 炭化胚乳, MM849-2, $\times 6.6$. 6 : オオムギ, 炭化胚乳, MM849-3, $\times 10$. 7, 8 : キブシ, 種子, MM850-11, $\times 13$. 9 : アサ, 種子, MM850-4, $\times 6.6$. 10 : アツ近似種, 穎, MM850-34, $\times 13$. 11 : エノコログサ属, 穎, MM850-33, $\times 13$.



氷白モンシヨ遺跡の大型植物化石 2

12: ツバ属, 果実, MM851-14, $\times 10$. 13: メロン仲間, 種子, MM850-1, $\times 6.6$. 14, 15: ゴマ, 種子, MM849-5, $\times 13$. 16, 17: アカザ属, 種子, MM850-9, $\times 20$. 18, 19: ヒユ属, 種子, MM850-10, $\times 20$. 20: ナス, 種子, MM850-47, $\times 13$. 21: エゴマ近似種, 果実, MM851-11, $\times 13$. 22: ナタネ属 A, 種子, MM850-47, $\times 26$.



1. 沖縄館のクルバチャー1 (斜上方より)



2. 沖縄館のクルバチャー2 (正面より)



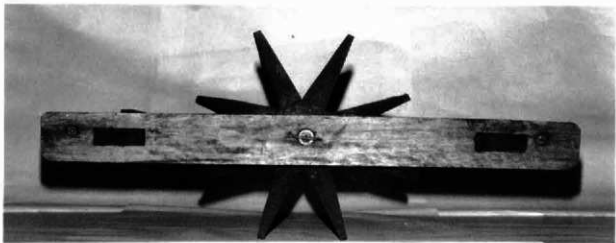
3. 沖縄館のクルバチャー3 (横より)



1. 沖縄県立博物館のクルバシャー1 (斜上方より)



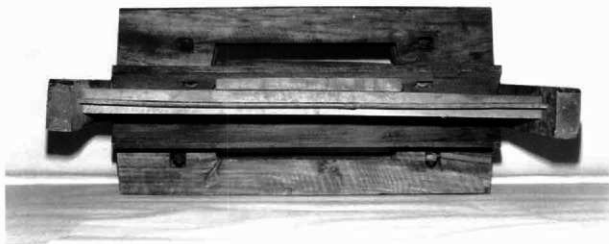
2. 沖縄県立博物館のクルバシャー2 (横上方より)



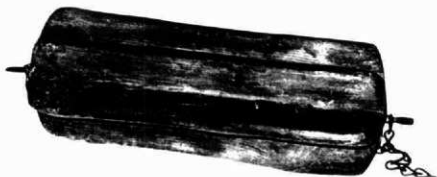
3. 沖縄県立博物館のクルバシャー3 (横より)



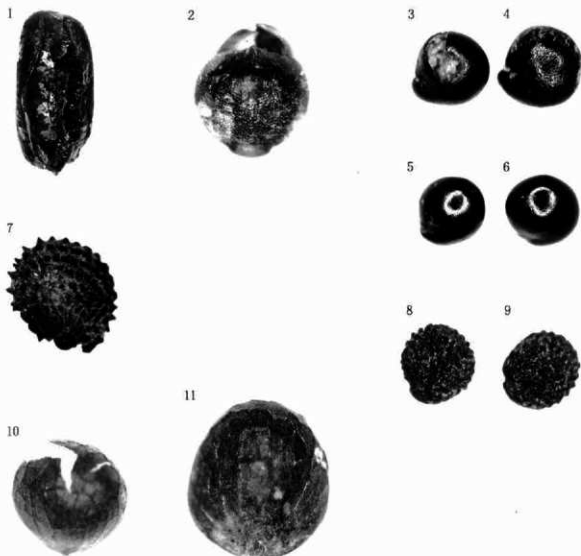
1. 沖縄県立博物館のクルバシヤ-4 (正面上方より)



2. 沖縄県立博物館のクルバシヤ-5 (正面より)



3. 青森県のゴロ (外崎他1981より)



久江サザミヤシキ遺跡の大型植物化石

1 : イネ炭化胚乳, $\times 10$, MM857-5. 2 : アワ炭化穎, $\times 20$, MM857-2. 3, 4 : アカザ属種子, $\times 20$, MM858-2. 5, 6 : ヒユ属種子, $\times 20$, MM858-1. 7 : ナデシコ科B, $\times 26$, MM858-6. 8, 9 : ナデシコ科A, $\times 26$, MM858-5. 10 : シソ近似種果実, $\times 20$, MM858-4-2. 11 : エゴマ近似種果実, $\times 20$, MM858-4-1.

石川県鹿島郡鹿島町

水白モンシヨ遺跡

1989(平成元)年3月20日 印刷

1989(平成元)年3月30日 発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター

石川県金沢市米泉町4丁目133番地

〒921 電話 (0762) 43-7692番(代)

印刷 能登印刷株式会社

石川県金沢市武蔵町7-14

©石川県立埋蔵文化財センター 1989

